

6565 15-4

緑丘

1969 No. 68
44年度 第2号



小樽港
八 敏 四 郎

小樽商大
同窓会誌



サッポロビールは 最初のうまさが続く

サッポロビールが90年の歴史のうちに育て上げた名酵母M₂。それが純粋なうまさをつくります。いやなニガ味やくどさがありません。だから何杯飲んでもうまさが続く。一度ぜひほかのビールと飲み比べて下さい。

味は本場の————ミュンヘン・サッポロ・ミルウォーキー



四月十七日以来続けて来た学園紛争は五月二十二日夕、全学共斗会議(反日共系)は母校本館管理棟を占



スト中の緑丘学園風景(7月18日角响撮影)

管理棟一時封鎖を解除 教室封鎖はいぜん続く

拠、バリケードで封鎖したが、七月五日未明一時的に解除された。その間学長は度々声明を渡し、或

緑丘

全国版

(通巻)No. 68号
(44年度 第2号)

(「緑丘」編集部)

〒662 兵庫県西宮市清水町
1の16 藪目英三内
(緑丘会大阪支部)
大阪市北区梅田八番地
新阪急ビル8階内
サッポロビル(株)

国土総合開発に貢献する KYC



<KYC本社社屋>



建設機械はこのマーク

営業品目

- 砕石プラント
- バッチャープラント
- アスファルトプラント
- クラッシャー
- バッチャースケール
- コンクリートミキサー
- ベルトコンベヤー
- 設備コンベヤー

KYC 建設機械の総合メーカー 光洋機械工業株式会社

取締役社長 奥村正美 (昭17卒業)

本社 大阪市北区南同心町1丁目31番地 TEL大阪 358-3521(大代表)

事業所 大阪 TEL大阪358-6531(代表)・東京 TEL東京294-1281(代表)

仙台 TEL仙台 25-4441(代表)・福岡 TEL福岡 43-6461(代表)

札幌 TEL札幌 26-5171(代表)・名古屋 TEL名古屋262-0251(代表)

広島 TEL広島 43-2261(代表)・鹿児島 TEL鹿児島 6-1650(代表)

告

事務棟にひきつづき昨日教室棟を封鎖されたが諸君が冷静に行動することを要望する。
六月二十四日 学長

事務棟、教室、学生会館事務室、旧木造本館を占領中の学生に告ぐ

事務棟、教室、学生会館事務室、旧木造本館の「封鎖」によって全学生および教職員に多大の迷惑がおよんでいる。速かに「封鎖」を解除し、退去しなさい。
六月二十四日 学生部長

は集会を持つなど解除することをすすめてきた。学内および学外電話の使用が不可能であり、卒業証明書、在学証明書、通学証明書、国鉄学生割引証、身分証明書の発行も停止、同窓会緑丘会の機能も完全に麻痺状態に陥っていた。もちろん求人就職関係に支障を来たすことは当然であるが、幸い現在の四年生の成績簿は持出していたし、個々に面接を続け約九〇％は就職が決定している。授業はどうやら六月中は平常通り行なわれたというものの、落付いた授業はできるはずはなかった。「全学討論集会」「教授を囲んでの討論集会」など旧本館、図書館前の広場などで度々開いているが、反日共系の妨害は目に余るものがある。
六月二十四日、学長、学生部長(藤井教授)がそれぞれ次のような告示を掲示した。

一方二週間ぶりで正法寺で一、二年生の英語の授業とゼミナールが七月四日に開始された。管理棟(写真)解除については以下に七月六日北海道新聞が伝える所を掲載しよう。七月五日未明、一教官の手で管理棟封鎖が一時的に解除された小樽商大では全学闘の学生とのトラブルを警戒して、大学当局が管理棟の使用をあきらめたため、同とうは事実上、また封鎖同様の形となっている。大学側は五日午後三時から緊急教授会を開き、今後話し合いによる自主的封鎖解除の方針を守ることを確認、同日早朝のような一部職員のみ単独行動は混乱を起こすだけなのでつつしむことを申し合わせた。このあと午後六時から全学闘側から申し入れのあったいわゆる大衆団交について、藤井学生部長と補導委員三人が、学生会館で学生代表と予備折衝し、開催の日時、方法などについて話し合った。

一方一カ月半ぶりに一時的にも封鎖が解除された管理棟内は心配されたほどの荒らされようではなかったが、イス、机、ロッカーなどが雑然と置かれ、宿直室と学長室はろう城中の学生が「寝室」に使ったとみえ、フトンが敷きつ放しになっていた息せききつてなかにいた職員たちは「それでもやはりひどいな」と久しぶりを見る「職場」に渋い表情だった。朝日新聞によると「反日共系」の全学共闘会議の学生約二十人、七月九日教員会議の開かれていた研究棟に押しかけ五日一教官が管理棟の封鎖を押し解いた問題について実方学長に団交に応じたよう求めたが十一日にする事となった。

母校学園紛争 ★ ★ に対する関心 ★ ★

北海道の新聞は学園紛争について小樽商大、北大の動きを大きな紙面をとって伝えている。それだけに市民の一般は勿論、道内の人々も無関心ではいられない。以下学園紛争がもたらした「私宅授業」の「声の欄」論争を掲載して見よう。(北海道新聞から)

私宅での授業やめよ

樽商大の封鎖に思う

小樽商大では校舎が一部学生の手で封鎖されているため、やむなく各教授の私宅で授業を行ない、卒業に不足な単位を補うというまことに残念なことである。

これを学校でなく、別な官公庁で考えた場合どうなるか。庁舎が占拠されたからといってそこを放棄し、私宅で執務してよいだろうか。そんなことは許されまい。いかなる方法をもってしても庁舎を正常な姿に戻さなくてはならないだろう。

大学もまた同じであると思う。私宅に難をさせてひそかに授業をつづけるような、そんな卑劣なまねはとるべきでない。やむを得ない場合は堂々と警官を導入して封鎖をとくとともに、再び暴挙をおこさぬよう厳重な警戒をして、立派に授業を行なうべきである。

商大の先生方が、私宅教授などという弱気をして、勇をこして堂々と学校で授業をつづけるみちをとら

れんことを希望する。(赤平市・紺谷秀次 55歳・無職) 七月三日

大学人の苦悩と配慮

教官自宅ゼミに理解を

三日本欄、紺谷秀次氏の投書を拝見して、紛争のさなか自宅ゼミを開いた教官として、反論を加えた

今日の大学のさまざまな紛争や困難は、機動隊の導入や、今日、国会で審議されている大学立法の法制化などによってどうして解決されるものではなく、さらに紛争をエスカレートさせるというのが、私のみならず多くの大学人の確信である。そして二十歳前後の若い青年たちは、現代日本ならびに世界のさまざまな政治的、社会的矛盾を敏感に感じとって、既成のあらゆる権威に反抗しているのである。事態は複雑微妙で、われわれは細心の注意をもって事態に対処しなければならぬ。必要とあれば機動隊を導入してまでも、正々堂々と校舎内で授業すべ

きだというご意見は、一見もつともであるが、大学紛争の根深い原因に目をふさいだきわめて皮相的で形式的な解決策であって、これでは絶対的に恒久的解決は望み得ない。私は紺谷氏が大学紛争の事態を短期的でなく長期的に、皮相的でなく内面的に理解せられるようお願いしたい。われわれが優柔不断な態度しかとれないように見えるその背後には、大学人全体の奥深い苦悩と配慮とがあるのである。自宅ゼミは外面憶病のように見えるが、これはわれわれの努力と熱意のあらわれであるというところをご理解ねがいたい。(吉武清彦・小樽商科大学教授) 七月八日

学園封鎖に反対

合法的解決に力を注げ

いま北大でも小樽商大でも、大学立法阻止と称して一部の学生が校舎を封鎖しているため、全部の学生が受講できず、校務も停滞して奨学金の支払いもできないという。封鎖を行なっている暴力学生は目的達成の手段を間違えている。大学立法阻止のため大学を封鎖することが、果たしてどんな効果があるのか。一般市民に聞いてみるがよい。封鎖を続けられ、国会で圧倒的多数を占める政府与党は「暴力学生による継続的学園封鎖」の一事実だけを根拠としてでも、大学立法を強行採決に持ち込めるのだ。

そうならば、すべての大学の学長、教官、学生および心ある国民が恐れている学園の自由と神聖不可侵

性が一挙にくずれ去り、時の政府をにぎっている特定政党の意のままに教育と研究が指揮、運営されることになるのだ。すべての行動派学生は前世紀的なゲバ棒とヘルメットを捨て去り、最も効果的かつ合法的な対政府・与党議員交渉および父兄、友人、知己その他全国民に対する真相のPRを行ない、広くかつ強力な阻止運動にその英知とエネルギーを傾けるべきである。

最も貴重な青春の一刻、一刻を封鎖により徒費してはいけぬ。最高学府の貴重な講義は人生において二度と受けられないのだ。ノンポリ学生も積極的に自らの当然受けるべき知識の泉を奪還するため、暴力学生と徹底的に話し合うべきだ。ただし、双方とも絶対無キズの解決を切望する。君たちのからだは君たちだけのものではないのだ。内ゲバ(か)牛角上の争い、同士討ちであり、愚中の愚である。暴力学生は本能寺目的の方向感覚を持っておらず、攻防の戦略、戦術をも全く知らぬとあえて断言する。(公務員・有賀栄一 札幌市・56歳) 七月十三日

紛争よそに九〇%の就職
昨年と比べて一ヶ月も早いペースで九割がすでに決定。
初任給も昨年より三万円以上もアップ、三万六千—四万円クラスがほとんど。
管理科学科専攻の学生は引く手あまた、時代の先端をゆく電子計算機を手がけている学生だけに二十五人の卒業生に申込が二百人以上という。

読者の声

緑丘諸兄に訴える

菅野 祐治 (大一一)

▼正八会五十周年全国大会
大正八年卒のクラス会を正八会という。まことにおめでたい五十周年全国大会を小樽に開催した。
七月八日であった。谷本朋次氏の伝える所では「愚妻と出席しました。母校も学生が騒いで居りました。旧館玄関前で記念写真をとって、六〇名の追悼会を正法寺で行い、夕刻、朝里川観光ホテルで懇談会を開き、翌九日朝散会しました」と。
今後は毎年一回開催するとの事、そして四十五年には箱根で開催のスケジュールも決った。
大正八年卒は一〇六名の卒業で六〇名が死亡。
残る四十六名中今回は二〇名内夫人同伴三名という。どうぞお元気で。

緑丘諸兄にお願する。どうか諸君の職場での体験を、ごく軽い楽な気持ちで「緑丘」に書き送って頂きたい。それが後輩に対する何よりの寄与となる丈でなく、私のように人生視野の狭い者には何よりの啓蒙となるのである。
先に先輩稲垣氏の御寄稿により非常に啓発された事を申し上げたが、こ

これは何も稲垣氏に限った事ではない。諸君が一寸筆を執ってさぐれば皆が非常に裨益されるのである。
私は思うのだが、小樽商大が先ず天下に誇るべきものは此の「緑丘」ではないかと思う。こんなものを持つて居る大学は日本は勿論世界にも類がないのではなからうか。何処へ行っても、おさまりの、形式だけの、面白くもおかしくもない校友会誌はざらにある。然し「緑丘」のように、卒業生同志が自由に、好き勝手に話し合える機関誌は何処にも存在しないのである。これこそ緑丘学園のみに許された至宝である。とすればこれは全緑丘人の物とならなければならぬのではないか。そしてそれをこそ念願して編集者夫妻は敢えて此の難事業を引き受けたのではないか。
全緑丘人が此の雑誌に関与し、文字通り緑丘学園の名物となる事を私は心から念願して止まない。万一大本誌の存在を知らない人があれば是非紹介して頂けないものだろうか。

八二五頁から

その他悉く昔に帰つつある。戦争終了に伴ふ変革であると同時に近年の政治改善の含みもあり、それを急速に是正すべきである。
八月二十三日

今日の紙上に「立憲主義とはその内容として議会政治、法治国、責任政治を包含するものであった。その根本を民主主義におくものである」とはいうまでもない」と

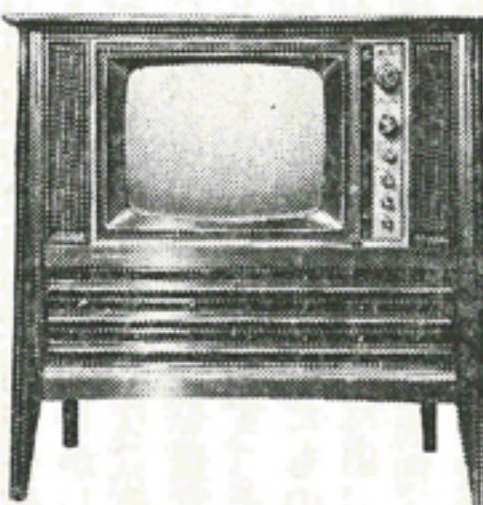
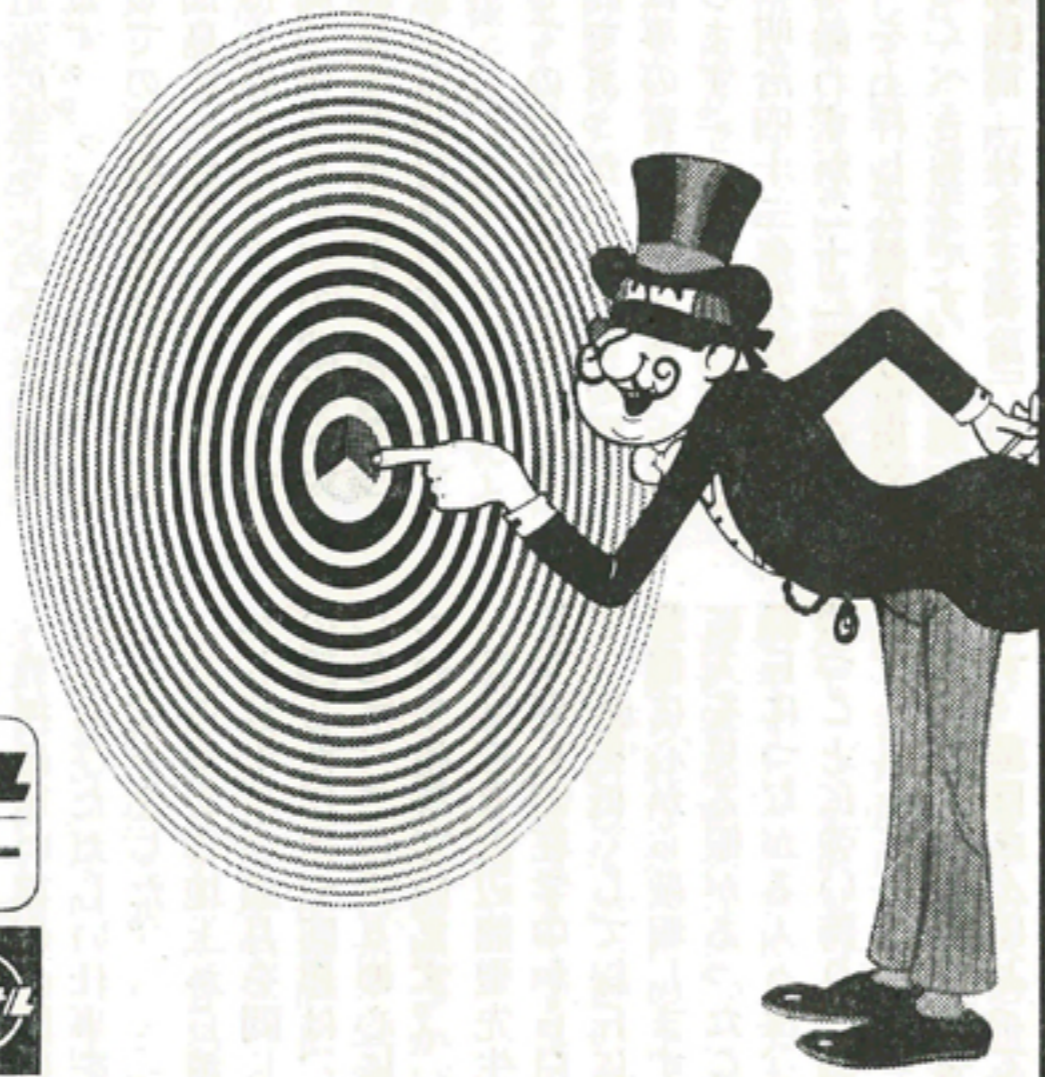
だれもが待っていたカラー調整の自動化

オートマジック

カラー瞬間調整

カラー調整はノータッチ。スイッチを入れると同時に技術者のきびしい目が調整した適正色に自動調整。そのしくみは、事前にキカイがチャンと適正色をおぼえこんでいる、コンピューター調整といえます。

●スイッチを入れた後、マジックラインの細さを確認すれば、カラー調整はなお完ぺきです。



オートマジック
カラー
(新発売)
19形・豪華高級形・7000LUX
正価 197,000円
月賦定価(15回) 215,500円 松下電器



大西猪之介教授特集号

緑丘

1989 NO. 04-05

大西猪之介教授 特集号を読んで

大西教授をもつ 事に誇りを感じず

稲垣 芳雄
(大六)

墓目さんの半歳に亘る努力の末に成っただけあって、「緑丘」の「大西猪之介教授特集号」は、実に内容の充実した見事なものでした。教授が腸チブスに罹り、病篤く遂に永眠されたのは大正十一年二月八日とのこと、歿後四十七年に、このように素晴らしい追悼文集が編まれたことを、教授の幽魂も定めし深く満足しておられるだろうと思います。

私たちが第四回生は、大正三年四月に入学、同六年三月に卒業して、大西教授は、大正二年一月から同六年八月まで四ヶ年半海外留学をしておられますから、私たちは教授の留学中に入学し卒業したことになります。

ましたので、在学中ついにその講筵に列することの叶わなかったのを、千載の恨事と思っております。教授の人柄、学者としての業績、その評価について、これまでいろいろ断片的に伝聞しており、それによって教授のイメージを心に描いていました。しかし、もっとまぶらかに教授のすべてについて知りたいと切に願っていただけに、今回墓目さんの手で特集号の編まれたことは大きな喜びでした。

八十才です。まことに短い人生であり、今更のようにその夭折が惜しまれます。現代の医学の進歩をもってすれば、腸チブスの予防と治療のごとき易々たることであって、徒らに英才を中道死に至らしめることは無いと思ひます。

見ず、漸く教授の全集出版に際し、福田博士から編集者の手に渡されたことを知りました。私は教授の全集の学問的価値を自ら測る力がありません。しかし多くの人の書かれたものにより、それが卓越した、独創的内容を豊富に持つことが十分察せられます。その上教授の講義は熱のこもったもので、弁舌もまた爽やかであった由、仮りに教授に寿をもつてしたなら、最も大きな影響力を持つわが国経済学界の巨星になつていたことは必然だと信じます。

大谷 敏治
(大一〇)

墓目さん、大西猪之介教授特集号、立派なもの作ってくださって、ありがとうございます。昨日天皇誕生日の夕方、速達便でつきました。封をきるのもどかしく、手にとつて、まず真白の表紙、額にはいった先生の肖像、ほーっと思わず声がでました。扉の写真、ご幸福そうなご一家の様子、先生のいちばん先生らしいお姿、そしてその下の日誌、一月二十三日、四日の文字。悲痛な人の世のさだめを示します。目次の横組み、これも新機軸ですね、もっとも、これだけの項目を縦組みにすれば、二頁におさまりませんか。考えられたものです。略伝も、見開きとはあるいは全篇組みあげて、頁の割りつけからの窮余の策かもしれませぬが、これもまた成功ですね。

郵便がついたのは夕方六時ころ、食事の時でしたが、食事中もときどき開いてみて、家人に、お行儀が悪いと注意される始末。食後、すぐに書斎にもちこんで、読みはじめました。もう平素の仕事が手につきません。ベットへもちこんで、また読みなおす、三回くらい読みなおしてとうとう夜半もすぎました。翌日も、その翌日も、カバンにいれてもち歩いて、大学で、街の事務所・研究室で、電車のなかで、喫茶店で、しょっちゅうみえています。

下吹越さん、金吉さん、間室さん、西村さん、小橋さんその他、平素あまりこうした文章をかいていただけはない方々の、真情こもったペンの跡は、ほんとうに、うれしくありがたいものでした。宮地、越崎、神沢、菅野、野界兄ら、その諸兄で先生ご逝去の時に、ゆきあわせられた方々の筆は、まことに生まましく、この悲痛の日の様子を伝えてくれました。大泉行雄さんの一文、故先生の追悼会の席上、大熊信行先生の慟哭を写されたところ、いま眼のまえにそれを見る思い、若き日の大熊先生、まらるめ主宰者としての先生の面目を伝えると同時に、その後今日にいたるまでの先生の、学者として、人としての、先生を伝えてくれました。この号に、この大熊信行先生、そして飯島幡司先生の珠玉の文字を逸したことは、ご同様に心のこりですがこの大泉さんの一文で、あらためて感動し、感謝の念を新たにしますものです。

とり二・三回ののち、墓目さんが、「ああ、そりゃドイツの本のやり方で、それでいいんですよ」といったところなど」そのほか、いま読めば、私としては、司会者の発言の多すぎののも申し訳ないし、終りの方、時間がなくなつて急いだため、司会者が、独りで二つ三つの項目をしゃべつたあたり、申し訳ないことは、校正の誤りとともに、まだいっばいありますが、まあ、先生ご在世のころの様子は、多少とも写せたといえましようか。

など面白いではありませんか。大野前学長の一文、はじめてうかがうことながら人の世の歩みを動かす契機のおやに奇しきことを思わせ、また加茂前学長が、故先生を偲んで一文をよせられたこともうれいすね。それにしても、実方現学長に寄稿願えなかったのは、お願してえられなかったのか、うっかりしてお願いしなかったのか、かえすがえすも残念。また学長に申し訳ないことでした。

時一橋出身の新進、故金文鷹之助学
士(のち教授)の名が、ほんやく者
のリスト中であつたのに対して「あ
ぶないなあ」とおっしゃったほど要
心ぶかかった故先生が、危険思想の
持ち主と、ある筋には思われたらし
い一面も伝えられましたし、故先生
の「社会主義論」が、中野清一教授
の新しい、「社会関係の組織化」で
現代的観点のうちに生き返ることも
うれしいかぎりです。

福田、関、津村博士らその他学界
多数の方々の評価を転載されたのも
周到な配慮、この人が当時の学界
にどうみられていたかを伝えていま
すし、渡辺龍聖、伴房次郎先生の
文章も、教育機関の管理者として、
学者の自律・自由にゆだねること
が、いかにその人をのびし、その人
の研究を通して、その人のたくま
ずしてなす教育の効果を、高めるか
ということを示しています。

浜林先生ののこされた「大西さん
のことで、なにかを暗示されたよう
な思いのする読者は、橋本博介さん
の「不思議な思い出」に、おもわず
ゾッとさせられます。そして、故先
生のつかれた師デイツェル教授を訪
ねた故早川三代治教授(元母校教授
)と共に、暗然たる悲しみを新たに
せざるをえません。そして最後に、
津村秀夫氏(映画評論のQ先生)の
「ロング・ロング・ハンカチーフ」
でやっと救われます。ともすれば、
神格化されるおそれある(故先生の
意志にあらずして)この人間・大西
猪之介の半面を伝えて、ひとり腹
をかかえて笑いました。

年、代々の教授、教官、それぞれ人
をえて、今日にいたる。みなそれぞ
れの専門の途、その人の人柄をもつ
て、大きな力をのこされ、また残し
つつあります。ですから、そのうち
とくにひとり抜いてなにかするこ
とは、それら多くのかたがたに申し
訳ないことですが、稀れな才を抱
き、将来の大成を望まれた学者の、
中道に斃れ、しかもその遺風のいま
につたえられることは、意味なしと
はしますまい。この小冊子が、願
たように、単純な追憶、小さな社会
の、限られた人間集団の交わりを伝
えるのではなくて、この人の、その
道にのこしたものの、現在の意味を明
らかにしようという願いが、はたし
て実現したかどうかは、わかりませ
ん。しかし編集のことに当った墓目
さんの労苦を思つて、つぎのことだ
けはいえましよう。「栄光今や燦然と
して……」とうとう、そのわずか五
百人あまりの学園に、(いまも千人
あまり)学生と教官と、そして職員
と、ひとつになつて、学問研究、自
由の思索と自由の話し合い、そして
おのずからなる歴史の流れに従ひ、
あるいはその歴史形成にあづかる、
といった生活が、どんなに意味ふか
いものであつたか、またあるか、そ
れをこの小冊子は教えてくれますよ
う。

いま、われわれの母校、緑丘学園
は、日本で最小の大学です。規模の
うえからいって。(私が東京外国語
大学の教授として、大学設置委員
会のお手伝いをしていた時、小樽商大
と東京外国語大学とが、日本で最小
の大学でした)。しかしそれは、質

これが私達の直弟子の義務であ
る。これを怠つたら彼は本当に怒
りに相違ない。死んでからまで大西
さんに怒られたくない。また怒らせ
てはならないと思う。

特集号を更に 生かすために

渡辺 祥吉
(昭二)

私の家は貧乏であつたから進学は
むずかしいことであつたが、家から
通えるなら、子供の内一人位は上へ
すすませたいという親父の願いもあ
つて、末っ子の私は、もし一回でパ
スするなら小樽商大へはあげてやる
と、範囲は大体きまつていた。だか
ら渡辺校長や伴先生は、私の学友の
父上であること知つていたのは別
として、大西教授のお名前だけ
は知つていた。しかし入学した時は
既になくなつておられた。もちろん
入学早々「囚はれたる経済学」等を
読んでその名文に若い血をわかせた
が、私にとって幻の先生であつた。
大西全集が刊行されたのも卒業した
年の春であつた。その大西全集も戦
災が私の手から奪つてしまつた。

今度の緑丘の大西猪之介教授特集
号はあらゆる角度からスポットをあ
てているので、これにより私なりに
先生への理解を深めることが出来
た。これを緒どいてみて先ず驚いた
のはよくこれだけの原稿が集まつた
ものだということであつた。これだ
け多くの、すぐれた、そして幅広い
原稿である。現存していられる諸

のうえで最高のものになる可能性の
最大であることを意味します。この
小冊子がそういう意味で、現在・将
来の、緑丘学園の若き同窓に読んで
もらえたら。この小冊子が、何十冊
も母校の図書館に備えつけられるよ
うに、広く江湖の人に読まれますよ
うに。
墓目さん、ありがとうございます。
(こんどは伴さん、そしていよいよ
神代史です)。

得難い文献

宮地 邦介
(大一一)

大西猪之介教授特集号有難く拝
読、再読いたしました。御辛勞のほ
ど感謝と敬服あるのみです。当初本
特集号発刊の計画を伺いました時は
緑丘人の間では大西先生を直接知
たものが少ないのと、現代向きの文
章でないため果して読者層が限られ
たものになりはしないかと心配され
たようでしたが、貴下の編集技術の
卓越さと佐々木理事長始め多数の方
々の並々ならぬ御協力によって、そ
の心配が全く杞憂に過ぎなかつたこ
とは御同慶の至りに存じます。
殊に佐々木理事長の「母校の伝統
に脈々として流れる大西精神」と大
西夫人や村井貞子さんを囲んでの諸
賢の座談会を拝読して感銘新たなも
のがあり、且つまた猪谷教授の「日
本経済学史における大西経済学の地
位」の御寄稿を得ましたことは緑丘
人の等しく吾等がひとしく大西先生
の当時に於ける偉大さを再認識した

大西教授特集号 を手にして

菅野 祐治
(大一一)

大西教授特集号を本日拝受、一氣
に読んでしまつた。通じて百八頁、
近來こんな事は絶対ない。
すばらしい出来栄である。全く
人間業ではない。早速横濱の越村(大
西の孫弟子)に送つてやろうと思
う。よくもこれだけの物が出来たも
のだ。恐らくこれは編集子夫妻のラ
イフワークの一つになるのではな
らうかと思う。あの一言居士の大西
教授もこれには文句はあるまい。そ
して次のように彼一流の賛辞を呈す
るのであろう。「この自分のための特
集号を手にして、漠然といたいてい
た敬意が、これによって増したとい
えない。しかし今迄私は或る人に
接し、その話を聞くか、またはその
作品に接すると、それまでに懐いて
いた敬意をなくするのが普通だつ
た。しかしこの特集号を手にして、以
來同君に対しひそかに懐いていた尊
敬が間違ではなかつたことを確め得
たことを自分でも喜びとしてい
と。実は椎名さんの就任演説の時も

先輩は喜んで筆をとられたであ
らう。もちろん故先生への敬慕から
あろうが、一面墓目さんの人がら、
緑丘への信頼がものをいつたのであ
らう。故人の諸文献からの引用も恐
らく剩すところなく生かされている
のではないか。この特集を拝見して
いると、学者としての、また人とし
ての先生がいきいきとしてよみがえ
つてくる。私にとつても幻の先生か
ら、直接教養をうけた先生のように
思われてくるのであつた。座談会も
実によくまとめられている。特に私
にとつてありがたかつたのは猪谷、
大谷、中野諸教授の解説であつた。
何れにしても執筆の諸先生に深甚の
謝意を申し上げると共に墓目さんの
熱意とスタミナに対しては満腔の敬
意を表するものである。

ここでなお一つお願いをしておき
たい。特集の中で、可なり多くの方
々から大西全集の復刊を、それが無
理ならせめて「囚はれたる経済学」
「伊太利亜の旅」だけでもの声をよ
せられた。非常にむずかしい仕事で
はあろうが、例えばアンケートをと
つて数をまとめるとか年配の者が別
途負担するとかの方法によつても
実現できないものであろうか。ご検
討をお願いする。この特集を更に生
かすためにも。

大西教授特集号 に関連して

戸谷 太通三
(昭一三)

本日、待望の「緑丘」大西教授特

集号を頂きました。早速拝見いたし
ましたが、ゲラ刷りと違いたいへん
立派なものになつていて感心し
ております。表紙は一風変わつてい
て面白いですね。エレガントとい
うか、ノープルというか、たいへん落
付いた新鮮な感じが致します。また
紙がよいせいか座談会の写真の人物
がよく分り、ゲラの時は全く印象
が違います。カットも伊豆のところ
や、馬そり、お寺、落葉林などよい
ですね。

大谷先生の「大西猪之介先生を語
る」を読んで、私は、私の恩師西村
久蔵先生(大谷先生と同期、キリス
ト村村長、ニシムラ創設者)がある
時、座談会で、笑い話にいわれた次
の二つのことをおぼろげながら思い
出しました。
(1) 地方巡回講演と遊廓での友探
し。小樽商大在学時代、大西先生と
地方講演旅行で、ある町の宿屋に泊
つた時、同行の一人の友がいなくな
り、皆は「きつと遊廓に上つてい
るに違いない。見付け出して鉄拳制裁
を加える」とふんがいが。一同手わけ
をしてその街の夜更けの妓楼を一軒
一軒頭を下げて捜し歩いたことがあ
る……というのでしたが、その時
大西先生も一緒に捜し歩いたと聞
いたような記憶を持つていたのです
が、或いは聞き違いであつたかも知
れませんが、なにしろ、三十年以上も
前に聞いたことですので……。

大谷先生は特集号27頁で、この講
演のことを、そして28頁では(この
旅行に同伴した悪童どもも、みなも
ういない)と書いておられますね。唯
大谷先生も感無量でしょう。唯一

最後に登壇してこのようにいわれた
のである。

大西教授特集号を読み直して見て
感ずることは、自分位しあわせな者
は他にないのでなかるうかという
ことである。彼は唯私一人を教育せ
るがために小樽商大に出現し給うた
のではないかと思う。大正六年八月
に帰朝、十年十二月に発病だから、
その直弟子たるや数える程しかない
。その恵まれたる少数の一人が私
なのである。

何といおうと直弟子でなくては本
当のことは分らない。もちろん「囚
はれたる経済学」も「伊太利亜の旅
」も名著ではある。しかしそれが本
当に分るのは直弟子に限ると私には
思われてならないのである。

歎異抄を解説して金子大栄師は「
この書に現われているような態度で
その弟子達に語る者は彼の外にあ
つたであらうか。そしてこの深い懐
しみは直弟子なればこそ伝えたので
ある」といわれている。更に読んで
行くと「聖人が何時もいわれたお言
葉に、弥陀如来が五劫の間思案を重
ねて誓われた本願は、よく考えて見
ると唯この自分一人のためであら
せられたのである。何とありがた
いことであらうと述べられた」とある。
全く私など大した顔の持ち主でもな
いの、その私に真理を悟らさせる
ため、あの気の短い人がよくも御辛
棒下された。全く宏大恩徳謝し難し
である。

大西は半円である。いくら大西が
偉いといつたって三十五才の青年学
徒に学の完成は望めない。未完成の
まままで終つた半円を完成すること、

人の生き残りというわけですね。
 (2) 大谷敏治先生発病の時のこと、西村久蔵先生と親友であった大谷先生が肺結核で倒れているというので、その加療している場所(当時私は東北地方のように聞いたのですが、特集号29頁では、越後の片田舎)に見舞いに訪れたところ、山奥の寒村の小さなところに寝ているので「こんなところにいたら死んでしまふ」と療養所へ入ることを勧めたことがあった。と。(29頁では、その後茅ヶ崎のサナトリウムに入られて全快なされたのですね)

高垣 寅次郎

(一橋大学名誉教授)

御苦心編集の緑丘、大西猪之介教授特集号を御恵送戴誠に有難く御礼申し上げます。大西、手塚両教授ともに私にとっては親しい関係でありましたので当然の務めを果しただけです。

故教授の全貌は多くの方がたの筆によって余すところなく描き出されていることを感じ同窓会諸氏の旧師に対する情誼に深い敬意を表します。故教授を後代に伝える何よりすぐれた記念碑です。

大西 美穂

(大西教授夫人)

先日緑丘特集号御恵送下さいました。ありがとうございました。拝受致しました。なつ

かしく読みました。ありがとうございます。

猪谷 善一

(亜細亜大学教授)

「緑丘」の「大西猪之介教授特集号」を拝受、御苦心の甲斐ありし美事な御出来栄え、衷心御努力に敬服仕り候。

大野 純一

(初代小樽商大学長)

元気で何よりと存じます。「大西猪之介教授特集号」拝見いたし驚き入りました。あれまでに造り上げるのにどんなに苦労されたかと思いの下がる思いがいたします。次ぎは「伴先生」ですね。時間がかかってあれ以上のものが出来ること楽しみにしています。取敢えずお礼と感謝の意を表します。

間室 守親

(大八)

このたび「緑丘」大西猪之介教授特集号をご恵送被下有難く拝見致して居ります。尊台には公私ご多用の中を緑丘誌のため平素格別のご尽力下され感謝いたしておりますが、今回の特集号にはまた大層お骨折りがたゞき洵に素晴らしい出来ばえに唯々敬服の至りでございます。いろいろの方から寄せられた文章や座談会の記事を拝見し、五十年後の今日先生の人物の偉大さをしのび得ました

ことは、この特集号のおかげであります。先生も定めしお喜びになっておられることと存じます。

室谷 賢治郎

(札幌商大学長)

大西猪之介教授を追悼する特集号が、約十ヶ月を費して躍り出たわけですが、それだけに並々ならぬ編集の御苦勞を察し上げます。

西川 正巳

(大一一)

「大西猪之介教授特集号」あまりの見事な出来ばえにびっくりしました。編集印刷に半年を要したという御苦心がどんなであったか、何とも御礼の申しようがありません。併しまたこれだけ立派なものを仕上げた喜びというものは実際に苦心した貴兄にとって一番大きいのではないのでしょうか。

日本の経済学界に一つの永遠的な記念のモノメントを打ち建てられたその御功績もまた偉大だと思えます。「小樽」という古い歴史に輝く母校が背景にあればこそこの見事な記念碑が打ちたてられたのだとも申せましよう。金銭にかえ難いこの見事な特集号を他の多くの大学の関係者におめにかけてたい気がします。重ねて御礼を申し上げます。

苦米地 千代子

(二代校長苦米地先生夫人)

この度は「大西教授特集号」御恵与にあづかりましてまことに有り難

く厚く御礼申し上げます。早速仏前に供えさせて頂きました。あたたかく充実したご内容にて御遺族様々およろこびの御ことと拝察申し上げます。御編輯の御骨折にあらためて頭の下る思でございます。

貞子様のご主人村井様とは、私も長男が学生時代から引き続き御懇親に願っておりますので折々大西奥様の御消息も承っております。昨日は満三年の苦米地の命日を迎へ自分の命がふしぎなように存せられます。一筆御礼まではがきに御ゆるし下さいませ。

加茂 儀一

(前小樽商大学長)

今度はまた「緑丘」御恵贈にあづかり有難う御座いました。ついに故大西先生の特集号が世に出ましたことは学界にとりまして真に有意義のことと存じます。ことに、それが学界や母校の先生の手にならないで同窓会誌「緑丘」の手によってその業績が世に知らされた事は全く特筆すべきことと存じます。必ずや将来大西先生の研究にとりまして貴重な文献になると確信します。とともに貴方の御仕事に対して一大敬意を表する次第であります。出来るだけ多くの人々によって読まれることを祈っております。

実方 正雄

(小樽商大学長)

前略。御無事。嬉しく拝誦仕りました。色々と「緑丘」のための御心

労感銘に堪えません。

菅谷 重平

(大九)

拝啓。大西先生特集号有難く落着待っていた甲斐あり。素晴らしい出来です。恐らくこれ以上の特集は誰にも出来ません。感激して蒲団の中で終りまで一気呵成に読みました。さすがに年のセイでしよう肩のあたり少し痛みが残っています。十三日の夜、中山伊知郎君と会った。彼は「小樽高商の緑丘のあの長い座談会の速記刻明に読みましたよ」といわれました。わたくしは「あれは校友会のオフイシャルなものでないですがネ」というと「そうだそうですね、先年手塚さんの事を書いたので自分の住所を覚えていてくれたのでしよう、送ってくれましたよ。福田先生にもあんなものが欲しいので、今その資料を集めている最中です」という事でした。

何としても、あなたの緑の下の力持ちは立派なものです。伴先生の特集号も楽しみみのひとつです。平凡な哲学者伴房次郎の全貌を残すところなく描き出して貰いたいのです。

小林 象三

(元小樽高商教授)

「大西猪之介教授特集号」まことにありがとう御座いました。御編集の御苦心と御手数、敬意を表します。御礼まで。よろしく。

越崎 宗一

(大一一)

大西教授特集号緑丘只今拝受いたしました。これだけ浩瀚な緑丘は初めてで、よく原稿を集められたと感心しています。然し、今から四十年前に刊行された全集といへまた慧星のようにヒラメいた天才大西教授の業績には今更ながら驚き入ります。日本経済学史上の不朽の文献たる事を疑いません。小樽高商——小樽商大の名を天下に高からしむる所以。

飯島 幡司

(朝日放送顧問大西教授の二期後輩)

拝啓、御丹精の「緑丘・大西猪之介教授特集号」ありがたく頂戴いたしました。興味ふかく拝読いたしました。先は右不取敢書中を以て御礼申上度切々

津村 秀夫

(映画評論家)

冠省「緑丘」大西猪之介特集号正に落手いたしました。御都合よければもう一部御恵送ねがへませんでしょうか。また、元朝日新聞編集局長で目下老後ののしみに「風流」という小唄その他の随筆を主にした月刊誌を出していられる河合勇という人にたのまれておりますので、あの「ロング、ロング、ハンカチーフ」に解説をつけて転載したいと思っております。おゆるしくください。草々

大泉 行雄

(大一一)

「緑丘」大西猪之介教授特集号、わざわざわたくしにまで御寄贈にあづかりありがたく御礼申し上げます。スマートな表紙にはなんとも高雅な感じをうけておどろきました。豊富な内容のページをくって御苦心のほど十分に御察し申し上げ衷心より敬意を表しあげます。

故先生も定めしおよろこび下さっていられることと信じます。重ねて厚く御礼申し上げます。

久木 久一

(元小樽商大教授)

拝啓、陽春の候益々御清祥の段お喜び申し上げます。何時も緑丘のために御苦勞さんです。大西教授号を戴き懐しく拝読させて頂きました。四月から大西先生の講義が聞けると楽しみにしている矢先に亡くなってがっかりした想出があります。どうも有難く存じます。御健斗を祈ります。

飯島 幸雄

(昭一一)

その後は思い乍ら御無音に打過ぎ失礼しておりましたが、益々お元気で御活躍の趣、大慶至極に存じます。過日、御苦心の大西猪之介教授特集号、正に拝受いたしました。誠に立派な出来栄えで、内容もまた座談会記事をはじめ、今は亡き諸先生方の当時の紹介文の再録、教授の声

咳に接した諸先輩の追想等を集録して当時の緑丘の空気を再現した思いで、御苦心の編集に心から脱帽して敬意を表する次第です。

郡 菊之助

(元小樽高商教授)

大西猪之介教授の記念特集号が見事に出来上り、喜びに堪えません。門下生の一人として厚く御礼申し上げます。

大平 善梧

(大一一)

大西号すばらしい出来でした。別封「白い磐梯」をお送り申し上げます。小生も定年にて「名誉教授」に四月一日になり、別に青山学院大学の方に移りました。

山口 秀雄

(大一一)

大西教授特集号拝受。二晩かかって感激を新たに全部読みました。なつかしいこと一杯、若い時代の小樽の生活が思い出されました。私のようなごく平凡なものにも教授は大きな影響を与えられました。卒業後も経済学の本を読むのがとても楽しみです。戦争の始まる頃までに先生の全集はもちろん福田、河上、高田教授等々の著書も殆んどすべてをよんだことです。大西教授が経済学をよむ事の喜びを教えて下さったのです。立派な先生の学生に及ぼす影響の大きい事に、今でも感銘を深く

しております。私も教職三十五年を
過しましたが、何等残すものなく、
与えるものなく朽ちること全くお恥
しいことです。本当にありがとうございます。

小橋庸三

(大一一)

ご案内の通り四十三年度最終号(六五・六六号)大西先生の特集号確かにちょうどい致しました。あれだけの大部のものを印刷するお手数ご苦労は非常なものと感じ、多大の興味を感じました。また私の駄文も掲載下さりご好意有難く感謝申し上げます。

中沢勝平

(昭二)

本日、大西教授特集号を拝受しました。これは正に「緑丘」の一個の偉業だと思えます。感銘しました。大西教授その人の大きさと別。小生など、学問に無縁の者、誌上の各士論説よくは理解できぬとしても、このミニユマンが、碧空に確かに聳立していることだけは判ります。

山本安次郎

(昭二)

この度は待望の大西猪之介教授特集号をお届け下さり有難く御厚礼申し上げます。早速興味深く拝読。期待にそむかない力作、苦心のほど拝察

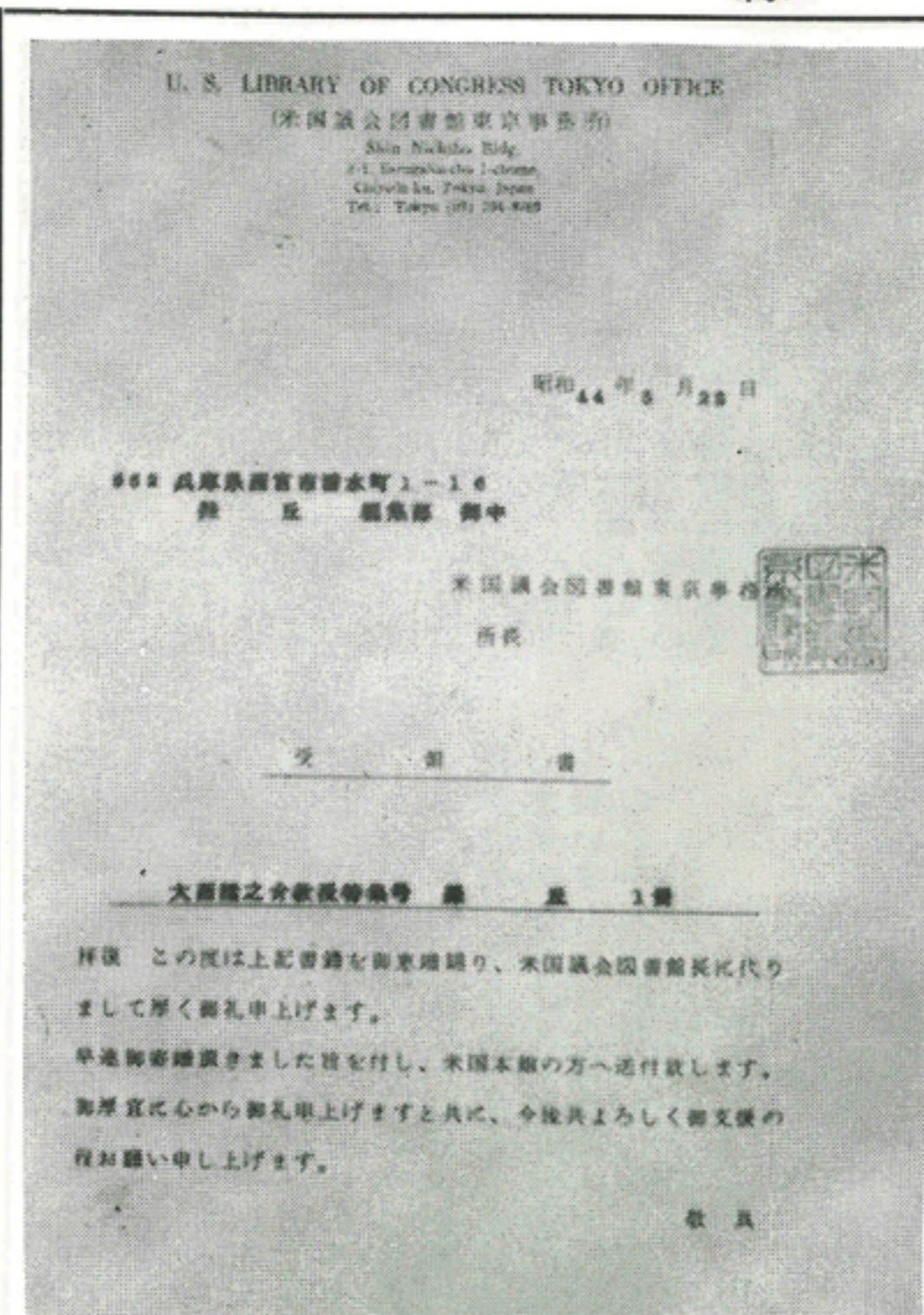
申しました。小生は大正十三年入学にて、先生にお目にかかる機会には恵まれませんでしたが、身を以て、影響を受けたものの一人と存じおります。例の囚はれたる経済学は暗記するほど精読いたしました。南先生の経済学認識論、左右田博士の経済法則の論理的性質その他の著書の影響は大きく、その後西田哲学に進んだもの、この特集により追憶を新たに感慨にふけりました。

森川正明大人

拝復私の高商時代に「大西猪之介経済学全集」が出たので、私は大西教授という変わった偉い先生が小樽におられたことを知ったのでした。今回小樽の皆さんが大西先生をしのばれる特集誌を刊行され、私にまで一本を恵送くださって、ありがたかったです。早速、昔なつかしきで卒読しました。古い文章が多く、それに新らしく草された人びとも相当年輩の方で、今の若い人にはピンとこない文章がまた多々であるが、私には切々として訴えるものがあります。

大西教授の人となり、意気、学問を十二分にしのばせてくれます。ほんとうに善い事をされました。大人もそのおひとりです。とにかく久方ぶりに大人の玉章と御厚志に接して喜ぶこと限りなしで不備

名古屋学院大学 山田 憲太郎
(文学博士・神戸経済大学第一回生 福田敬太郎ゼミ)



大西猪之介教授特集号に対する米国議会図書館の礼状

「緑丘」44年度申込者氏名

(三)

(八月十日到着迄)

- (あ) 青木慎吾、荒木慶司、阿部卓治、安在七郎、青木勇夫、安藤正巳、穴釜升夫、秋元金四郎、荒川正男、秋山朔雄、会田勝、浅野輝彦、青木鎮夫、青木匡光、荒井正善、荒田清司、浅野潔、阿部和之、秋葉隆一郎、阿部忠、赤津俊樹、安西東吉、相磯成令、荒木英二
- (い) 井上了介、糸魚川伍郎、稲垣芳雄、井淵幹夫、伊賀喜三、井出富太郎、猪木金人、石田興平、池田雄亮、池田昇一、岩崎政市、稲村良之助、伊藤吉雄、伊東吾一郎、飯島幸雄、猪股貫一、磯目祐司、今井慎一、井上保、伊藤繁雄、石川一、井上勲、池田繁正、井藤久也、伊部政次郎、伊藤幸平、今西浩二、石津洋三、飯坂久男、石川孝一、伊原利勝、飯竹健三、岩井雅昭、石山豊彦、泉安治、岩岡秀三、石黒政夫、板谷鶴太、猪股昌介、井上克巳、井上巖、稲川直孝、今井彦弥、石井忠雄、伊藤整
- (う) 梅原卓、上田藤一郎、宇佐美猪一郎、上村甚四郎、梅原晋二、薄井晴次、内海唯利、宇美第蔵、梅田正二、上埜敏夫
- (え) 江原超夫、蝦名哲昭、越前谷順治、江田三喜男

- (お) 岡部良造、岡林豊樹、岡田弘三、大崎敏夫、岡本元次、越智易延、大平善梧、大沼誠治、岡島紀四郎、近江慎二、岡田栄吉、大沢三男、小野幸佐、大河内誠一、岡田良太郎、大本良一、大野晴史、小田島和夫、大久保勇、大津利隆、岡田政次郎、大獄英雄、大滝正八、尾崎哲平、奥井康夫、仰木巖、岡林宏、小貫武、折田英男、太田正幸、岡田一次、恩村政登、太泉宗次、近江光喜、太田正勝、大崎康市、老月雅彦、小野小二郎、大野整、大家敏彦、大井康雄、小原寿、大井義郎、太田英治、大沢一雄、越智直行、小河成美、大沼恵五、太田省三、大村博、大島晃、岡嶋久則、小田川茂
- (か) 川島道雄、加藤翠松、加賀保広、川久保恒雄、川原俊一、川田健二、鎌田多俱哉、河信一郎、片岡亮一、金吉忠吉、金津良三、加藤敏、櫻村久好、鹿島愷策、鎌谷勤、桂山雅行、柏谷宏男、河西豊太郎、川岸巳代治、河合邦吉、片山寿男、鎌田政隆、金吉信吉、川上和俊、川村勉、加藤英夫、勝海隆、神田文逸、金谷菊松、鹿又羊五、川嶋道明、亀井尚一、風間善一
- (き) 木下春雄、木村新、木村徹

- (ク) 久保亮、久保大亮、栗本周也、草野義一、黒羽秀夫、久保吉幸、黒田勲、黒木敏雄、桑嶋喜助、久米忠彦、栗原勇次郎、久保田敏三、栗原軍司、朽木尚孝、桑野泰次郎、鞍掛駿郎、黒沢道雄、国弘勲之亮
- (け) 劍物資郎、計良大介、劍物二三男
- (こ) 郡菊之助、小島東、小島憲市、児玉廉平、小林啓作、近藤弘平、小林備信、根田順治、小山猛、駒井幸一、小山清吾、小峰親武、小林芳美、今野吉之助、小柴謙吉、小林明夫、小網善吉、越山文哉、小寺三郎、冨敏夫、木立哲夫、近藤恭成、小池三郎、小柳信輝、木幡清甫、小池省三、小島貞三郎
- (さ) 佐々木嘉夫、桜重雄、齊藤純雄、齊藤慎二、佐藤虎夫、佐々木八郎、佐々木周一、桜井純一、佐藤庄一、西条正博、桜庭康次、沢木源治郎、佐々木七郎、坂井直人、齊藤進、桜庭幸雄、笹川州也、佐藤清定、桜庭亥一郎、佐藤良雄、桜田総之丞、佐々木利七、酒井康正、斎藤雄治、坂本芳弘、坂本清、佐野稔、佐藤正人、佐藤裕、佐々木茂(S31)、沢登義隆、佐々木繁雄、沢口幹男、佐々木茂(S36)、桜井長徳
- (し) 白方与次郎、莊子直、新谷健

監査法人 池田昇一事務所

代表社員 池田昇一 (昭4)

- 札幌事務所 札幌市北4条西20丁目3番地 電話(61)4201(代表)
- 東京事務所 東京都千代田区内神田2丁目5番19号 電話(252)2741(代表)
共同ビル(神田橋)7階
- 大阪事務所 大阪市北区高垣町1番地 電話(372)5887(代表)

トモクの 段ボール



東洋木材企業

取締役社長 手取貞夫

- 東京本社 東京都千代田区丸の内二の十八(内外ビル五階) 電話(212)6811
- 工場 手稲工場・網島紙器工場・大阪紙器工場・小牧紙器工場・新潟紙器工場・山形紙器工場
- 営業所 小樽・釧路・函館・仙台・静岡

夫、下村昌雄、清水淳、渋川陽一郎、清水良夫、白石琢二、篠原守、真藤松吉、下吹越栄吉、穴戸市太郎、志麻角美、篠崎万次郎、進藤孝二、塩田信男、白倉幸男、進藤彰、白土栄一、清水貞雄

(ア) 杉原一男、鈴木信、杉江猛、鈴木弘一、杉山力、鈴木政吉、角响、杉本敏雄、須藤一郎、助川哲郎、菅井長平、鈴木幸太郎、寿原九郎、須永誠一、角江重保、鈴木賢吉

(イ) 千田良作、関沢伊織、関根正一郎、瀬下雅也

(ウ) 高桑一之、高野治作、多賀寿、田代耕二、高橋宏造、高原一雄、高杉隆平、田中正三、竹中正親、高橋勇、高田辰雄、高橋政雄、谷黒正二、竹村蔚、武光八郎、田島正太郎、田中弘康、滝沢中、田村正司、高木正夫、竹中大毅、竹島旬、高橋文雄、高野憲一郎、田辺靖雄、田所良穂、高橋喜久雄、高橋洗至、谷英純、竹島篤二郎、武林俊三、田沢貢、竹内宏、谷村龍雄、田中康夫、竹内英三、武智次郎、田中慶四郎、田中修吾、田中繁良、高橋亘、田森誠一郎、高坂恒一、谷弥太郎、田崎勝次郎、武内武一、高木久新、谷口輝時、武内守次

(エ) 地主忠次郎、千野秀夫

(オ) 常岡亮、堤逸雄、堤正五郎、塚越誠、津田武男、津久井七雄、都築実、月館健治、土橋千代子、土屋龍郎

(カ) 手取貞夫、手塚寿一郎、手嶋恒二郎、寺尾忠明、寺尾八郎

(キ) 東霞時雄、道善宇内、富永

義、豊島保郎、苦米地正昭、友沢和一郎、富成宜清、豊田正、土岐秀雄、常山寅二、徳橋周吾、富田博夫、梅健、戸井正三

(ク) 永井民一、中瀬秀一、中川精一郎、中村統一、中川正定、中田左内、那須国典、永倉正美、中村哲喜、中野祐良、中川憲三、中道良徳、長井彰、長田正明、中山隆太郎、中野武雄、内藤義信、中田秀郎、永井静男、中川和行、中井正一、仲尾弥之助、中井義雄、中野醇子、中野孝太郎、名雲賢、永井敏太郎、中田昭生、長岡鉄雄、中木平三郎、永井正一、名畑政雄

(ケ) 丹羽正男、錦戸善一郎、西村保、西山正夫、西村正一、二本柳次郎、西村植純、西村百太郎、西村勉三、西田忠男、西田豊彦、西山克郎

(コ) 根元敬二、根本北郎

(ク) 野沢正一、野田政秋、野口直吉、野中雅夫、野沢悌三、野口誠一郎、野中正夫、野村鉄太郎、野口正二郎、野崎信夫、野又貞夫、能沢正義、野島広一

(カ) 長谷川順治、橋田和道、服部奎吾、芳賀厚、萩尾英彦、服部兵吾、林武、半間清介、浜浦英祐、橋本勝、畑中二郎、浜中学、畑信太郎、羽鳥忠二、林与四郎、早川卓良、原貞二、長谷川昌一

(イ) 平塚達夫、広田力一、平井庸雄、疋田吉晴、広岡一男、樋山三郎、曳地金治、広瀬久一、日南田美文、平木勇三、平賀泰正、平間義、日西一雄、姫野亨、平野治助、平松新造、平岡貞雄

(エ) 福田誠、藤野戸憲也、福田耕

作、藤城敏雄、藤田精一、福吉俊夫、古沢精吉、藤本歳久、古屋隆作、藤田精二、藤井忠信、藤田享也、深田省三、船津卓二、布施真、藤本哲英、藤本得太郎、深見吾六、福田次助、藤原愛子、藤井幸男、藤田小四郎

(イ) 本間諄一、堀川源作、本間英作、本間慶輔、本間広松、堀口松雄

(ウ) 松橋忠光、牧野正治、松尾俊彦、松村義公、町野正雄、松本浩三郎、増田常次郎、松本周三、松本義一、牧野栄二、松本孝晴、松川誠治、丸山伝治、松川一馬、前田重郎、間室守親、松本信男、松本義夫、松本浩三、松野敏男、前山龍男、丸山堯、丸山恵三、松本晴雄

(エ) 宮靖彦、湊富美男、湊静男、宮袋虎雄、宮地邦介、三輪栄作、水垣敏正、宮下新太郎、三浦寿夫、三沢秀雄、三國智造、宮島巖、宮崎勝次郎、宮崎三善、三谷晃一、右田熊市、三浦強太、南俊栄、淡誠

(カ) 村井弥三治、村田久夫、村上武夫、向田辰雄、村田錦一、村岡英一

(キ) 門間冬見、森尾正七、森定治、諸橋昌保、森下弘、森松定男、茂垣英夫、森保、森隆郎、森田幸平

(ク) 山崎吉郎、八木四郎、山里豊、山本義宏、山本俊雄、八木俊昭、屋代栄三郎、八木勇平、山中茂、山下秀三、山本安次郎、八木繁、矢部三郎、山崎均、山本健一、柳沢靖三、柳瀬伊蔵、山崎菊松、矢野正郎、矢島実、山崎真

治、山本美智雄、山内孝、矢野健太郎、山崎丈夫、山内雅一、山口秀雄、山崎有郎、山下政道、山崎靖也、山田晃敏、山口淳司

(イ) 弓削為一、弓削実、遊佐憲三

(ウ) 四谷宗義、米光徳蔵、吉田忠、吉住稔、横山為祐、横山栄二、吉川友記、吉田忠正、横山正二、吉田平太郎、横井七之助

(エ) 陸田清、緑丘会東京支部

(カ) 渡辺金之助、渡辺泰助、若林周五郎、巨光雄、若山永太郎、渡辺一雄、若松舜、渡辺金吉、渡部裕彦、渡会丑春

謹啓 私儀このたび開催の定時株主総会をもって千代田火災海上保険株式会社代表取締役会長を退任いたしました。

顧りみまずと昭和34年当社が東海銀行幹旋の下に名古屋財界と密接な関係を持ちまして以来今年を以て満10年と相成り、その間皆様のご厚情により社運もますます向上いたし、本年3月を以て倍額増資も完了いたしました。これは偏に皆様のご懇情の賜と深く感銘しております。次第で、衷心より厚くお礼申し上げます。

なお、今後は相談役として蔭ながら微力を社業の伸展に寄与いたす所存でございますのでよろしくご後援のほどお願い申し上げます。

千代田火災海上保険株式会社
相談役 古関周蔵

異動

栄転

大平善梧(大一一五) 青山学院大学学長・一橋大学名誉教授

太田邦弘(昭二五) 三井東亜化学株式会社大阪支店(東京・同社樹脂営業部)

大阪市北区中之島三丁目五(三井ビル)

小宅元義(昭一一) 神日家電株式会社取締役(共和家電機取締役)

横浜市神奈川区神奈川通九丁目三番地

三浦儀三郎(昭五) 日本調査株式会社専務取締役

山本 清(昭一一) 三和銀行常務取締役東京支店長(同行取締役営業部長)

塩田正典(昭一一) 三菱鉱業取締役建材部長

大野陽之助(昭一三) (昭一三五) 富士倉庫運輸株式会社

東京都江東区枝川一丁目一〇番二四号

松尾俊彦(昭三四) 丸嘉機械株式会社大阪本社(白鳥硝子硝出向)

高山貞一(昭一一) 六興電気株式会社(三井銀行)

東京都港区芝五丁目二六―三〇(専売ビル)

佐竹繁寿(昭三) 日生ビル管理株式会社社長(日生土地株)

東京都千代田区有楽町一―一二 平間 義(昭一〇) 日産化学常務取締役(取締役人事部長)

浅田 厚(昭一一) 住友重機械工業株式会社経理部長

北村 幸(昭一四) 東洋紡績事業部長(事業部副長)

吉田平太郎(昭九) 三井物産株式会社札幌支店長(総務部長)

杵淵雄一(昭一六後) 全国通運株式会社東北支社

古関周蔵(大一一) 千代田火災海上保険株式会社相談役

香木正雄(昭一六後) 日本製粉株式会社小樽工場(神戸工場)

田原直行(昭一六) 東洋紡績株式会社山田工場(塩浜工場)

三重県伊勢市船江一丁目一〇 篠原 守(昭一三) (昭四五〇) 野村証券投資信託販売株式会社(横浜支店)

名古屋市中村区笹島町一―二二―一 二 豊田ビル旧館五階

角江重保(昭一〇) (昭〇九七) 北海道稚内税務署長(札幌国税局協議団旭川支部)

竹村吉左衛門(大一一〇) 安田生命取締役社長

三野六郎(昭一一) 住友生命取締役

古関周蔵(大一一) 千代田火災海上保険株式会社取締役会長

片桐英男(昭一一) 昭和産業株式会社常務取締役

小林房男(昭一七) 東京都北多摩郡清瀬町旭ヶ丘団地二―一―一〇八 (昭二四一)

樋口健三(昭一一) 横浜市保土ヶ谷区金が谷七五四中村平之助(昭一六後)(昭五六九) 大阪府高槻市奥天神町二丁目二二―一―一〇

三浦儀三郎(昭五) (昭六六二) 兵庫県西宮市上甲東園一丁目二二番二三号(表示変更)

松岡俊一(大一一) (昭六六二) 西宮市愛宕山四番一四号(表示変更)

石山豊成(昭一六) (昭一〇六) 東京都港区六本木七―三―二六

東京都海上新龍土町社宅 荒井金四郎(昭二〇)

東京都北多摩郡久留米町流山団地六―二―一六―三〇二

松尾俊彦(昭三四) 大阪府北河内郡交野町大字私市二―一四―一四七

矢野健太郎(昭二) 神奈川県藤沢市堂六三九五 電話 藤沢(三六)三五五一

杵淵雄一(昭一六後) (昭九八〇) 仙台市荒巻三本松九―一〇 電話(三三)〇〇六六

香川清夫(大一一) (昭六五七) 神戸市灘区鶴甲四丁目二番地の

九 電話(〇七八)八二―一九〇 三(藤本)

奥田 直(大九) (昭一六六) 東京都杉並区永福町三丁目三番二号(表示変更)

香木正雄(昭一六後) 小樽市緑一丁目一九―二九

田中弘康(昭四) (昭一六六) 東京都杉並区下高井戸三丁目二―番地三三三(表示変更)

野田政秋(昭一七) (昭一六六) 東京都永福二丁目一六番二七号(表示変更)

七戸真次(昭一八) (昭一六六) 東京都杉並区下高井戸三丁目二十―番九号

西村 保(昭二) (昭一六六) 東京都杉並区永福三丁目二―五(表示変更)

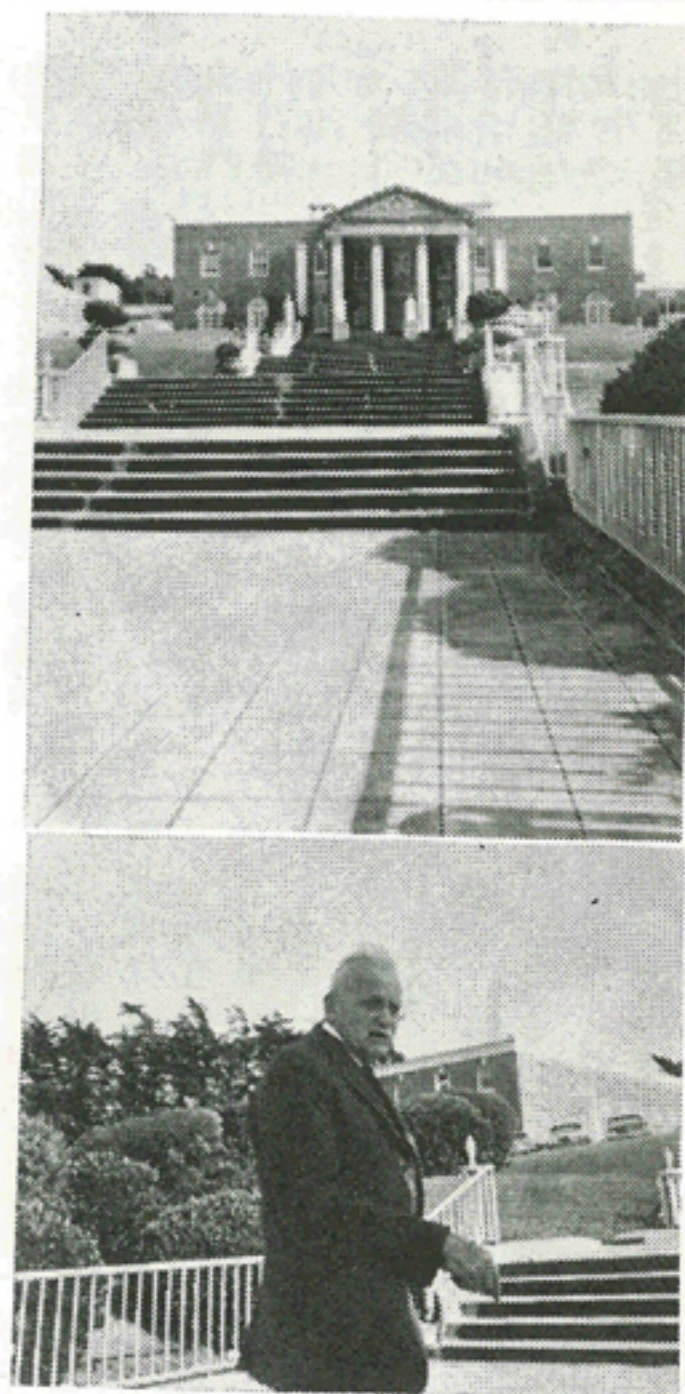
河西辰男(昭一四) 枚方市東香里二―二―一(表示変更)

高橋健次郎(昭一八) 西宮市里中町一丁目六―一九

事務所移転

瀬尾幸三郎(昭二〇) 瀬尾幸三郎税理士事務所 札幌市南四条西四丁目三谷ビル四階 電話五一―二三二六

三浦儀三郎(昭五) 日本調査株式会社 大阪市西区京町堀五丁目二四日 本調査ビル 電話四四八―四二―一代表



(上) 桑港・ユダヤ人老人ホーム
(下) 同老人ホーム前のマッキンノン先生

◆◆◆ フランク先生夫妻を訪ねて ◆◆◆

大木 弘基 (大二三)

予ねて緑丘誌上でフランク先生が桑港の老人ホームに余生を養って居られることを知っていたので、偶々この春欧州旅行からの帰途をアメリカ経由として桑港へ立寄ったのでお訪ねすることにした。在樽当時妙な因縁から浜林先生の口添えで、フランク先生のお宅へ半年ほど居候させて頂いたことがあるので、教室以外でも先生の警咳(けいがい)に接する機会を持ったし、自然マッキンノン先生と同様に私的にも色々恩顧を受けた懐しい人である。ただマ先生とは前後五回渡米の都度お目にかかっているのに、在米のフランク博士とは残念ながら一度もお目にかかる機会がなかった。

先づ電話帳の Jewish Home for the Aged の番号を調べて電話したら、博士は耳が悪いのでといわれて夫人が電話口に出られ、翌日の午後お訪ねすることとし、そのあとでマッキンノン先生へ電話して同行を誘ったら快諾された。正直にいうと、桑港へは週末から来ていたのだが、わざと土曜日と日曜日の訪問を避けため月曜日の昼間の短い時間より余裕がないので両先生への訪問を一石二鳥ですませようという魂胆があったのである。

翌月曜の朝またフランク夫人から電話があり往訪の時間を確めて来られたのでマ先生と同行の旨お答えして道順を訊いておいた。

マッキンノン先生は約東通り三時前にホテル前迄来られたので早速お伴をして都心から西南十四キロ、バスで二十分そこそこのシルバー・アベニューにある老人ホームを訪ねた。老人ホームといえればわれわれ日本人は一応何となく陰鬱な施設を想像する。事実私もそのように予想し、また今度の欧米旅行では、フランク博士を含めてはからずも三人の異った余生を送る高齢者にめぐりあわせたのだが、他の二例のうち一つはオランダ人でハーグ郊外に住む娘さん一家と至近の場所で、それこそ欧米人でも理想とする「スーパの冷めないうちに往来(ゆきき)出来る距離」に、樹木と庭にかこまれた閑静な住宅で老夫婦と二人きりで暮らしていたし、いま一人は既に夫人を亡くした日本人でワシントン郊外に住む長男一家と一緒に老後を養っていた。

この二例と比べるとフランク博士の場合は、少くとも日本人の感覚からすれば、一番のぞましい環境であるとはいえない。しかしこの施設は想像を超えて立派で、食堂、教室、治療室、娯楽室、作業室等々それぞれ完備しており、管理も行き届き中級のホテル以上に設備が整っていると見受けられた。

フランク先生は、ここへ入居するために全財産を寄託され、ユダヤ人でない夫人も、そのための厳しい条件を甘受して敢然と博士に従われたと聞いている。博士は今年83才手足と右耳が不自由となり、歩行には杖を用いておられたが、それでも階段の上り下りなど腕をかそうとしたら「わしは娘っ子ぢやないぞ」といわずらっぱい目付で叱られた。夫人は85才でご健康である。お部屋は明るく清楚で十畳敷位、寝室と居間を兼ねていた。フランク先生のお耳が不自由なため自由潤達な会話のやりと



左から フランク夫人 フランク先生
筆者 マッキンノン先生

りの出来ないことが残念であったがそれでもマ先生共々お訪ねしたことを口に出して欣ばれた。たださきの戦争によりマ先生同様大きな被害をうけておられるだけに、日本のこと殊に小樽のことなど所謂「旧きよき日」を語るのにはあるくきりのあることは己むを得ないとはいえず哀しい限り

フランク先生の便り

西川 正巳 (大一一)

りであった。次男一家が矢張り在米中だが、往來には大分時間のかかる距離に住んで居られるらしい。御安康と御長寿をいのり辞去しましたバスで都心に出てマ先生ともお別れしたのは五時頃であった。

判らないほど有難いことだと思っただ。生きていればこそ、そしてお互いの間に師弟の情義が絶えねばこそこんな嬉しいありがたい現実に出ることが出来たのである。少しでも長く生きて多くの師友の方々と共に生きることを喜びを出来るだけ多く迎えたいものだと感じ、改めて師友先輩の御長命を祈願した。フランク先生の御便りを原文のまま「緑丘」にのせて頂いて一人でも多くの同窓の方々に読んで頂きたいと思いつきに浄書します。貴重な紙面を狭ばめる罪を御許し願いたい。

302 Silver Avenue,
San Francisco,
Jewish Home for the Aged,
Dear Mr. Nishikawa!

Thank you very much for your interesting letter! It was indeed a pleasure and surprise to be remembered after over



「緑丘」六十四号にフランク先生のこと記されていた。懐しさの余り拙い英語で長文の御便りを出してみた。御返事が頂けるのを心待ちにしていたけれど、現実にアメリカから先生直筆の御手紙が届いたときには夢のようで夢中で封を切った。御年齢のせいかペンの跡に多少の乱れがあるのが一層僕の先生への思慕をかり立てた。遠く太平洋を隔てたアメリカから現実に先生のお声が届いて今そのお言葉を目でたどることが出来る——この不思議な深い愛情の交流を何と言葉で表現してよいか

forty years. You have remembered English very well. We had another happy surprise just over a month ago! Mr. Okhi, also from my class in Otaru, called here to see us. Mr. Brooke McKinnon, who lives in Berkeley near here, was also with him. Mr. Okhi has a wife and two grown daughters who are at school in Switzerland. We have been living at this big and beautiful home since Dec. 23, and we are very happy and contented. Our son Ludi visits us twice weekly, also his family often. He has six sons and one daughter who is married (to a chemist), and they have now a little son. If you or any of your friends visit California, I hope you have time to visit us. The city bus from down town passes our entrance.

My wife and myself send our best remembrances. Thank you for enclosing the stamps.

I remain,
Your old College Professor
Dr. Louis Frank

文中にもあります通り「万国共通の郵便切手」を郵便局で求められて同封して下さいれば有難いと思ひます。又、先生の御住所の San Francisco の次に Calif. 194112, U.S.A. の御書き添えを御参考までに申し上げておきます。

爽かな剃り心地
緑丘人のおヒゲ剃りには
資生堂スーパー・ポアン

——ステンレス替刃——

税金百話 (七)



北條恒一
(昭一五 税政評論家)

告発された私

これは昭和四二年の正月のことであつた。春にかざされてばやばやしておられないことがおこつた。その前年の暮、某週刊誌で民主商工会の在り方を攻撃する一文を書いたところ、彼等の親玉からどえらいお叱りをうけ、「お前らは敵だ」ときめつけられた。彼等と対決し私は一片の妥協もしなかつた。

私は税務当局に対しても中正な立場を堅持し、納税者に対しても公正な立場で接することを信条としている。ところが民主商工会の税務調査に対するいやがらせ行為は、巷でいくつもきくことができ善良な納税者が少しまつた。議論をする、税務職員から「お前も民商か」とやられたりする。このような色眼鏡でみられたのでは善良な納税者がかなわな

もっている納税者は少ないのが現状である。

その上民主商工会の在り方が税務行政を運営していく上でのエネルギーを相当浪費してゐる。彼等がいなかたなら、税務当局の相当大きなエネルギーを、大きな脱税の摘発に向けることができるかもしれないという期待もできる。なんとか彼等を沈黙させなければならぬというものが私のいつわりない気持であつた。

しかし、彼等は彼等なりに考へがある。日本共産党が後に控えているからまことに強い。

彼等の機関紙(昭和四十二年三月二十日付)によると、私は「民主商工会に対し、無根の事実をかかげ中傷、誹謗を行ない、会の名譽毀損などを行つたので、至急捜査の上、嚴重に処罰されたい」と東京地方検察庁、警視庁(同紙では東京警視庁となつてゐる)に告発されたのである。かくして、私は光榮ある被告発人となつた。しかも、この告訴の代理人は松本善明氏、渋谷幹雄

氏、小沢茂氏、秋山昭一氏ら実に十二名の弁護士によつてなつてゐる。大したものだと感心すると同時に、私はいよいよやるぞつとファイトを燃やした。

彼等の機関紙のこの記事の末尾に、「この民商・全商連の発展をおそれるのは、税金をもっとかけようと狙つてゐる自民党政府とその直接の担当官庁の国税庁です。そして、また国税庁にシッポをふる御用団体や御用税理士たちです。」

とある。そして最後に私が民商誹謗に浮き身をやつすのは全国の納税者を敵視するものであり、全商連はこうした策動を決して許さないとあつた。

私は政府や国税庁にシッポをふつたおぼへはないし、また、全国の納税者を敵視したことなどもない。彼等流にひねつていへばこうなるかもしれないが、とんでもない話である。かくして、私は東京地検特捜部で吉永検事(現在・日通事件主任検事)の取調べを受ける身柄となつた。ときに当分拘留所に入つてゐた方が、世の中が静かでありと妙な応援をしてくれる友人もあつたが、夏は冷房がないというし、私はついに入らず仕舞いに終つた。残念である。約一年の取調べの結果、罪状なしで不起訴になつてしまつた。

地震・雷・火事

地震、雷、火事、親父。これほどうもいただきかねる苦手の本家である。私は、親父さんが八十一歳の高

令で現存しているが、こうなるともはや苦手のうちに入らない。一夜にして残りの三つを経験したことがある。と或る冬の夜、熱海をちよつと離れた網代の温泉で会つた。寝い

「俺達はそんなに悪いことしてない筈だがなあ——」

と、ふんにもぐり込んで、うつらうつらとしていたら、半鐘が鳴り出した。懐かしいような、ぞくぞくするような音である。火の手はみえないが暗闇のなかを、消防自動車走り抜けていった。半鐘が鳴るくらいだから、どこか近くが火事だつたのである。一夜にして、いやな奴三つにめぐりあつた。因果なものである。朝がやつてきたら青い空の下に冬の海が小刻みに揺れてゐた。

苦手の雄たるものにもう一つ「税金」があることを忘れてはいけな

い。ところが、地震、雷、火事と税金とは関係が深いのである。ということ、地震や雷そして火事はすべて災害の原因になる。この災害によつて私たちが人類(大きくては)は被害をうけるものである。

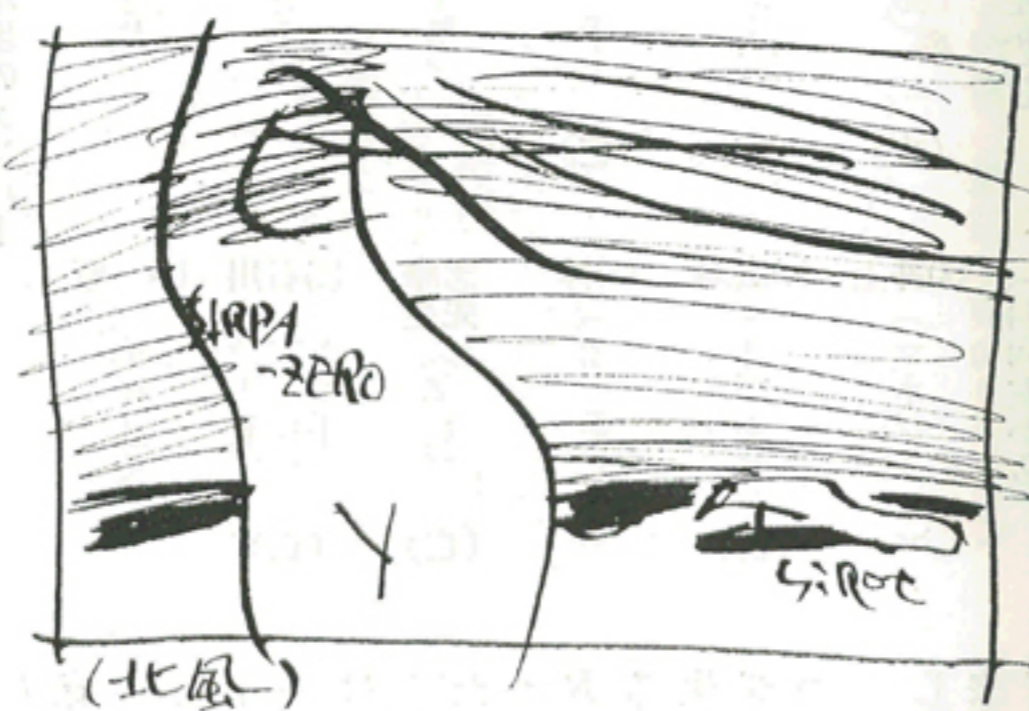
被害はどうかたちであらわれ

るかという、私たちのもつてゐる財産に損害を与えるのである。たとえば、地震によつて建物が壊れたとか、火事で焼失したとか、隣りの火事では家が焼けなかつたが、消防

の水をかぶつて損害をうけたのも被害のうちにはいる。このことは私が先年の暮に身をもつて体験したのである。こういうような被害をうけたときの税務上の取扱いはどうなつてゐるか。損害をうけ放してどうにもならないのか。こういうことについて私たちは常識として知つておかなければならないことがある。

第一に個人が損害をうけたとき、これが営業など事業に係る財産に於ける被害と、全く個人的な用途にしか使わない財産に対する被害とがある。被害をうけた営業など事業に係る財産のことを、所得税法では被災事業資産といつてゐる。これについて損害をうけた金額は、もしその被害をうけた年の所得金額から損失として控除しきれなかつたときは、その損失金額を三年間繰越すことができることになつてゐる。個人的な用途にしか使わない財産に対する損害は、災害減免法によつて税額を一定額減免して貰うか、所得税法に雑損控除の制度があるので、それによつて算出した金額だけ所得金額を減らしてもらるか、二つの救済措置がある。

第二の法人が被害をうけたときは、完全に修繕費として費用になるものは、外装の復旧、塗装、ガラスの挿入などの費用や作業仮小屋・足場組立てなどの費用、修理用材料運搬などの費用で、建物などは減価償却の関係を勘案しながら損失額を計算しなければならぬ。



東尋坊

北陸の暗き岬の黒き海漁る海女に雲降り止まず
越前の暗き岬の真昼時雲降り来ぬ彼岸近きに
此の世にはあらぬ眺めと思ひつつ見開き凝らす海の崖群
雲降る越前海岸寒むみ暗き悲しみは沖より来たる
いつしかに宵闇迫る加賀平野「女心」歌集をぞ頼りに秘むる
たそがる、加賀平野の春寒むみ祈りにも似て夕映を見る

山代温泉

メロデーの流れは低し交差する光の中に待むものは何ぞ
彼の女の悲しみ誰か知る知らず氷雨降り初む山代の夜
さまよふは夢幻のはたて痺れゆく耽美の世界の女体妖しく

小野寺佐(昭11)著



から

(カッタ 八嶽四郎)

アルミニウム箔 製造・加工

日本製箔株式会社

取締役社長 杉山昌作

本社 吹田市東御旅町10番70号
東京営業所 東京都中央区銀座7丁目3番5号
工場 吹田・京都・藤井寺・三国・野木

緑丘外史

小樽高商野球部発足から
思い出す事ども

林源太郎 (大四)

一、野球部の発足と北大との定期戦開始、並にグラウンドの事
私は明治四五年四月(八月より大正元年)第二回生として母校に入学しましたが、私の中学は、札幌中学



大正六年度のメンバー

(1) 佐藤 (伊) (1塁)	(1) 速藤 (外野手)	(3) 佐藤 (数) (2塁)	(2) 原 (応援団長)
(1) 宮下 (投手)	(2) 石川 (投手兼遊撃手)	(2) 志摩生 (部長)	(2) 志摩生 (部長)
(2) 八木 (外野手)	(3) 井上 (マネジャー)	(3) 林 (捕手)	(3) 井上 (マネジャー)
(2) 小沢 (3塁)	(3) 井上 (マネジャー)	(3) 広瀬 (外野手)	(3) 井上 (マネジャー)

(後列左から) (前列左から)
(括弧内の数字は学年)

って居った様で、雪融けと共に、花園公園のグラウンドに引張り出された次第です。

北大(本科、予科の連合軍で所謂オール北大軍)との第一回戦は、明治四五年六月頃、北大グラウンドで行いましたが当日の母校ナインは、多少違っているかも知れませんが、川林藤倉子瀬木鳥、石林藤佐中原八羽、PCBBBSFF、IIBBS、L.C.R

であった様に思います。試合の結果は二二〇で惨敗、味方のエラーが十五位あったと記憶しますが、特に遊撃手原子君が、九エラーもやったには驚きました。第二回戦は、その年の十月頃、小樽花園公園グラウンドで行いました。その時は私が投手で捕手には経験のない佐藤君でやりましたが、三振十二をとりながら矢張り二二〇で大敗しました。それは私のキメ球であるアウドロを捕手が受け切れずに、殆んど一塁に生かしその上弱肩のため二盗は容易で、結果から見ると、三振十二が二塁打十二という様な事になったのですから、大敗するのも当然だったのです。なお、二回戦共、当方の目に余るエラーと打撃不振もさることながら、審判は北大出身の先生が勤められ、当方に不利なジャッジが多かった事も否めない敗因の一つと思います。

次年大正二年には第三回生も入学しましたので、メンバーも増強出来、春の定期戦(第三回戦)は北大グラウンドで八一二で初勝利を得たのであります。その時は第一戦同様、とは間違いないので、試合の興味を盛上げるため(主催者側の要請もあったよう)大洋のOBでメンバーを造り出場したのであります。私もその頃は五三三四才位でしたがそのメンバーに加わり、ある年は久慈次郎君とバッテリーを受けもって私が投手で久慈君が捕手、或いはその逆に投手交代と云った形で、他の球団と好い勝負をしたものです。試合中「林打てよ」とか「林頑張れよ」

石川一林のバッテリーでありました。勝利の報を電話で母校に伝えましたが、信じられない様子で、二度目の電話で初めて真実と知り、その夜は提灯行列で小樽のメヌキ通りを行進したことも、今となっては、なつかしい思い出であります。当時は母校専属のグラウンドがなく、花園公園の広場にネットを張って練習したのですが、当時小樽には天狗クラブという球団があつて(その中には二、三の不良もあつた様です)彼等は、吾々より先にネットを張るので思うような練習もできず、思い余つて彼等のネットが公園内の桃太郎ダングの軒下にかけてある事を知り、小沢選手(第三回生)と共に商品実験室で稀硫酸を一瓶造って貰い、夜中に忍び寄って、この薬液をネットにふりかけ数日の内に使用に堪えないようにして、グラウンドを確保した秘話も、既に時効にかかつて居ると思うので、敢て茲に公開します。

大正八・九年頃母校専属の山上グラウンドが出来た筈です。第四回生が入学してからは、メンバーも充実し北大との定期戦も一進一退、良い試合をするようになり、世間から北海道の早慶戦と、うたわれるようになりました。私が大正四年卒業してから、数年後に北大も予科生だけでメンバーを編成し、新制大学となるまで、試合を続けておつたようです。

一、私の長男の事
私の長男一雄は函館中部高から、昭和二十四年新制大学となつてからの、母校第一回生として入学を許可とか、三十年前の私を応援してくれたい野球ファンも相当あつた様で、くすぐったい気持ちになつた記憶もあります。猶、私の知つて居る範囲で、母校出身の大洋クラブの選手は、桑野・坂田・柳沢・種田・飯田・伏見・四谷の諸君であつたように思います。

(全国大学野球大会出場記念小樽商大硬式野球部記録から)

明治維新まではオコバチ川(妙見川)以北の高島場所も、以南の小樽内場所も春三月から初夏五月にかけてニシンのとれる漁村に過ぎなかつた。

忍路高島及びもないが、せめて歌棄磯谷まで

忍路も高島も今は小樽市に入つて居るが昔から人に羨しがられたニシンの千石場所だったのである。

しかし小樽の港は北方からの風波を高島岬やポイントマリ岬で扼し、しかも道央部開発拠点に位置を占めていたから小樽は元々港湾都市として発展する素質を備えていた。

維新前から明治中期にかけて弁財(べんざい)と呼ばれた四、五百石から千石積の和船が近くは奥羽北陸から遠くは瀬戸内海から下関を回つてはるばる小樽へやってきました。一番乗りは四月中頃で入荷物は米、みそ、食料品、衣料品その他の生活物資や縄(むしろ)など生産資材で市中の商店はとみに活気を帯び、勝納川付近の花柳街は一陽来復の賑いを呈した。勝納から有幌の沖へかけ

小樽港に見る70年の歴史

越崎宗一 (大11)



小樽という町は港湾とは切っても切れない縁がある。

緑丘

せられましたが、早速野球部に入り捕手をつとめ(親子二代の捕手は珍らしいと思う)その年の道内大学野球大会に優勝したのであります。当時は東北、北海道が一ブロックになっておつたためか岩手県水沢市で東北の優勝校と決戦を行ない、それにも勝つて、東京へ出場する事になったのであります(東京では一回戦で敗北)、ともかく暑中休暇を返上して練習を続けておつたのですが、たまたま函館大洋クラブも札幌で行われた都市対抗戦に優勝したので、函館駅に私も出迎えに行つたところ、一雄も同じ列車で帰函しました。健康色でしたが、顔色は日焼けしてなので早速医師の診断を受けさせたのであります。果せるかな、胸部疾患で、野球など、もつての外と宣告されたのであります。

折角今まで張切つて、暑中休暇まで棒に振つて、練習に励んでおつた一雄の心情を考えると、親としての私が野球マンであつただけに可愛想でもあり、幸い当人はまだ自覚症もないので、親しい別の医師の許へ差向け再診させたところ、野球はやらずに、遠征に参加するだけなら差支えないとの事で、当人も喜んで遠征に参加したのであります。何分捕手というポジションは誰でもよいといふ訳には行かぬためか、矢張り遠征地ではユニフォームを着て試合に参加したとの事で、遠征から帰つてからは学校を休学させ、療養に努めました。昭和二八年三月遂に死去したのであります。当時の野球部長は先年母校を停年退職されました

松尾先生でありました。一、函館大洋クラブと小樽の野球ファンの事
昭和七・八年頃から私は函館大洋クラブの世話役をやらされました。これは財政建直しのために引張り出されたのであります。大洋は今こそ弱くなりましたが、当時はノンプロ球界では全国的に知れ渡つて居つた、一方の強者であつたのであります。その頃母校野球部も私を通して再三試合をさせましたが、もちろん大洋には歯がたらず、全敗したように思います。しかし入場料を取つた関係上、経費を差引いた残額の一部を母校野球部へも配分してやりましたので非常に喜ばれた記憶もありません。

現在小樽在住の坂田全君も当時大洋の選手でありました。終戦後十年位までは、大洋は矢張り道内では最強のチームで、当時はまだ富士鉄とか、拓銀とかには野球部がなく、各都市がオール何々、或は、〇〇市野球協会とかの名称で、球団を造つておつたのであります。当時小樽新聞社が主催で、毎年夏期に道内の各球団の大会を挙行し、グラウンドは(当時はまだ緑丘球場がなかった)花園公園の広場に機敷を組んで急造のスタンドとし、小樽の野球ファンは、機敷スタンドで恰かも角力見物の様に酒を飲みながら観戦する人も、かなり多かつたように思います。或る年の機敷スタンドが破損して多数の負傷者を出した事もありました。この大会には、大洋クラブが現役で出場すれば優勝するこ

てこれら弁財がひしめき合った。帰前荷物は主として海産物で二百十日前にそれぞれ内地へ向けて出帆した。

日本では第三番目という鉄道がアメリカ技術達によって札幌まで敷かれたのが明治十三年で翌年幌内まで延び道産石炭が小樽から内地積みされた。

和船に代わって、漸次西洋型帆船や汽船の出入りが増えてゆき、鉄道開通と符節を合わせて三菱会社が小樽への定期航路を開き、札幌方面への旅客貨物はすべて小樽を経由し、さらに小樽から道内奥地に定期航路が開設されて本道開発の基地となり商業が繁栄した。

明治十六年には祝津日和山灯台に火がともり二十二年に小樽は特別輸出港に指定された。日清戦争の直後には人口も六万台にふくれあがり、三十二年七月には待望の開港場に指定され国際貿易の検舞台におどり出た。今年の七月でちょうど七十周年である。

この年十月一日札幌函館と共に区制がしかれ、郷土の先輩達は区議会を足場として自らの手によって意欲的に防波堤の敷設、港湾の埋立、市区改正、上水道建設などの大事業の実現を進めていった。

日露役に前後して函館小樽間の鉄道が全通し、また旭川まで鉄道が延長した。

り小樽港に集められ、ここから内地或いは外国へ向かって積出された。また道内及び樺太で消費される生活物資や化学原料品等は内地或いは外国から入り、それぞれ道内または樺太へ輸送された。これら取り扱いの大部分は小樽商人の手によって行なわれた。三井物産や曲辰鈴木など大手商社が、腰をすえて支店を出し始めたのもこの頃からである。

置されることとなった。四十一年には第一防波堤が完成し引き続き第二防波堤建設に着手した。

大正三年第一次大戦が勃発するや本道の雑穀澱粉等に対する海外需要が激増し従来神戸横浜等で積み替えて輸出されたものが、政府命令により日本郵船その他の船会社が定期的には小樽港に寄って直接積み出しするようになり、さらにPOやブルーフアンネル(青筒)など世界的船会社の定期船が港に見られるようになった。

ここに於いて金融機関は競って支店を市内筋に設け、ために色内十字街は北海道のロンバードストリート(英)ウォール街(米)に比された。

第一次大戦のため小樽にも雑穀成金、澱粉成金、船成金が輩出し経済も急激な発展を遂げたが、それは永年の粒々たる辛苦経営による発展ではなく、一時的相場変動のぬれ手にアワ式の投機的なもので経営の深さは見られず、戦時景気への盲目的追従のみだった。しかし権花一朝の夢、大戦の終結は深刻な反動的波紋を投げかけ一夜忽然と現われた砂上の楼閣の消滅にも似て、昨日の商戦の覇者も今日は倒産の憂目をかこち、戦後の小樽経済界にも大きい動揺があった。曲辰鈴木の如き日本での大手の貿易商社も、戦後の不況に失脚して姿を消した。

大正八年には港湾労働者千余名の増給ストが全国の注目をあび、昭和二年には三千名参加のゼネストが決定されてわが国港湾労働運動史上にエポックをつくった。小樽が生ん

だプロレタリア作家小林多喜二をつちかっ素地とも云えよう。それでも第二次大戦までは小樽の経済は上り坂であったが、日華事変に始まり戦時中の統制、戦後札幌経済への移行、南樺太の喪失等と対岸貿易の杜絶など悪条件が重なり苦悩と低迷が続いた。

しかし、われわれの先代、先々代はほとんど無から今日の小樽を造り上げたのだ。今日道央新産都市に指定され、札幌バイパス工事が始まり対岸貿易好転の兆が見え、市及び会議所のキモいりで往年の日本海海運を復興しわが国の過密化を是正してバランスのとれた国土開発に役立てる遠大な希望のある現在、当代の小樽人はよりよき明日のために立ち上がって欲しいものである。

(北海タイムス所載)
(カット：長谷川昌一八昭一五)

▲緑丘外史原稿募集▼
前掲、林源太郎氏並びに越崎宗一氏の一文のように、直接の緑丘の歴史以外で吾々の在樽中あった事の記録、或は緑丘に関連のある事柄等々思い出される事が多々お有りとの事と存じます。

評論

伊藤

整——側面

西川正巳 (大15)

作家が学校教師(その多くは英語教師)を兼ねていた例は遠くは島崎藤村、夏目漱石、又、漱石門下の森田草平、芥川龍之介の例もあるが、伊藤整も本職は東京工大教授で定年退職まで工大英語科の主任教授を勤め、英語雑誌や新聞に「英文学者」と註されることも屢々である。中村光夫氏が伊藤整のことを

正体の知らない不思議な人間、小説、評論、随筆と人の二、三倍もの仕事をひとりでやっていると述べているが、若くして「雪明りの路」を世に問い、賞讃の言葉で詩壇から迎えられた伊藤整は又、

a born poet でもある。現に中央公論社の「日本詩歌」編集委員の一人である。「十五、六歳から近代日本の象徴詩やヨーロッパ系の訳詩を読み、自分でも詩を書き、詩の表現を自分の心の本当の表現だと信じていた」伊藤整を詩の世界に導いた人は、小樽中学の先輩で余市の神社の神官の息、鈴木重道氏であったが、この鈴木氏は大正十三年神宮皇学館を卒業され、千田憲先生の喜寿の祝いに出版された「松籟」に北見柊吉のペンネームで在館当時の千田先生

を語るその人である。

小説、評論、随筆の他に、詩を書き、英文学者としても一流である伊藤整は「正体の知らない不思議な人間」である。本稿はその不思議な人間の一面を英語の媒介を通じて語ってみようとするのが目的である。伊藤整の名を英語の世界で、そしてまた日本中の人々に一躍喧伝されるに至らしたものはもちろん例の David Hebert Lawrence の "Lady Chatterley's Lover (1929)" の訳本である。自分は「チャタレー夫人の恋人」の訳本が出るや否や一読してみた。一読して自分はその訳文に感心したのである。ラブシオンと思われ個所は特にその訳語にこまかい心遣いがしてあって、世の所謂「好色」を売物のたぐいの本ではない。実に良心的な立派な訳本である。伊藤さんは他に Joyce の作品、その他の訳業もあって、戦後はそれが英文学研究の業績として認められ、東京工大教授になったのだと自ら述べている。一時北大予科でも、二、三か月英語を教えた。この間の実情は作品「鳴海仙吉」に詳しい。この作品中の「シエクスピア談」は優れたシエクスピア論議である。中

に出る来る塩見教授というのは、岡倉由三郎先生が "It's dugged as does it." (不屈は成功の基) の評は移して以て氏の上を用い得られると評された研究社版「集註ジュリアス・シーザー」や「ハムレット」の註釈者、都築東作氏のことであり、粕谷教授というのは後の北大文学部長粕谷俊三氏(「シエクスピアとその周辺」の著者)のことであるらしい。佐伯という老講師の面影には、伊藤さんと共に自分も学んだ小樽の苦地地英教授の性格の一面が描写されているように、在英中石川林四郎先生と共に Kittredge の Shakespeare の講義に列したという先生を思い出させるのである。

ジョイスを訳し、東京工大で英文学を講じ、朝日の季刊英文雑誌 "Japan Quarterly" に "Modern Japanese Literature" を五回にわたって連載した伊藤さんの語学力はどこでどうして養われたのか。小樽高商、東京商大という商業、経済畑の学校に育って英語とか英文学とかの本筋道を歩んだのではない伊藤さんにどうしてこんな学力が養われたのであろうか。

作家伊藤整は大正十一年小樽高商(現商大)に入学し、自分は一年おくれで同校に入学した。一年生のとき大熊信行先生に経済原論の講義(実は J.S.Mill の Principles of Political Economy)という大きな経済学古典の講義を聴いたのも、小林教授や浜林教授に英語を教わったことも、すべて「若い詩人の肖像」や「伊藤整氏の生活と意見」の中に「自伝的スケッチ」の情景とそ

つくりそのままである。専門学校で一年生に Mill の原論を、而も翻刻版ならぬイギリス直輸入の Macmillan 版で読ませたのは学生時代に古典にちかちかに接して学問的刺激を与えると共に英語の実力養成に資するであろう学校当局の方針から出ていたのだと聞く。伊藤さんが何かの翻訳を出版したとき浜林生之助先生が、「伊藤の語学力は小樽高商で養われたものだ」と仰っしゃったと伊藤整自身が書いています。浜林先生は英語の出来ることでは全部の生徒が一目も二目も置いていた先生で、伊藤整はこの先生のことを「文学と人間」の中で次の様にいつている。

この学校には浜林生之助という英語の教師がいた。この浜林先生が英文学でどんなに深いゾーケイを持っていたかということこそ今の人は知らない。

伊藤さんが優秀と折紙をつけたこの浜林先生を御宅に御訪ねしたら炳端に当時盛んに出ていた天金で真紅の表紙の研究社英文学叢書(今の英米文学双書)の一冊が置いてあって、先生がそれを手に何げなく「この註釈にも随分間違いがあってネ」といわれたのにビックリした覚えがある。伊藤さんの言葉を借りると、「それを自由に話す力を持っていて、英文を日本語のような自由さと決断力でもって書くことが出来る」数少ない学者の一人であった。

い。伊藤整の特質を理解する手掛りに中村光夫氏は

第一 北海道の生れであること

第二 英文学によって育てられたこと

第三 東京商大中退という作家として珍らしい学歴の持主であること

の三点を挙げています。彼が北海道の生れであることについて、河盛好藏氏はまた次のように述べています。

私が一番好きなのは伊藤君の作品の底を流れている北方人の詩情の清潔で、素朴で、新鮮で、また誠実さである。

自分はこの伊藤さんの詩情は、落葉松の林にかこまれて、夏は郭公や鶯の音が聞えるあの優れた商大図書館をめぐる環境と厳しい長い北国の冬の気候が徐々に培ったのだと思う。昭和名作選中「海の見える町」について

荒正人氏がマルクス主義に対して、自我の問題を控え目にはあるが、しかし執拗に提出している。そのリフレインが特に面白い。これはステイヴン・デューダラスの悩んだジェズイット派のカトリシズムを一寸想い出させる。

と書いている。この書評も厳しい北方の気候とそこに及ぼす影響を思い出させる。

伊藤さんが英文学によって育てられたことを実証するかのようによろしく伊藤孝次氏は次のように述べている。ローレンス・スタアンに発して

これを凌ぐ趣すらある伊藤の文学が、十六世紀イギリス人独特の野性と情緒の論理と、そして意地の悪さを加えて英国人をも驚倒させるに足る作品を生み出した。

この言葉に誇張はない。伊藤整の作品の底を流れている所謂情緒的論理の執拗さと、アイロニーは中村光夫氏がスタアンの「トリストラム・シヤンディ」を契機とすると評した「女性に関する十二章」の論評や、ジョイスの「若き日の芸術家の自我像」を年頭に置いて書いたと推測される「伊藤整氏の生活と意見」が漱石の「猫」に類する英文学的ヒューマニティに満ちていることなどを思うと伊藤孝次氏の言葉に同調したくなる。

伊藤さんが小樽高商を卒業し、東京商大を中退する迄にイヤという程教えこまれた商業、経済の学問がまた伊藤整という作家に大きな影響を与えたことは言う迄もない。彼の小説や論評に現われる一分のすきもない計算の確かさと方法論も（もとよりこれは伊藤さんその人の知性の鋭さにもよるのであるが）通常の文理科の学校に学ばなかったところに由来する。伊藤さん自身が小樽でミルの原論を学んだことについて「そのテクニストによって社会の経済的構造の原論を、小部分ではあるが、忘れ難い確かさで理解した」と述べている。ジョイスについて伊藤さんが「彼は一作に十年をかけた作家である。何年がかりかで忍耐強く野心的な仕事をしてもいいのであるし、した方がよいのである。また自分では

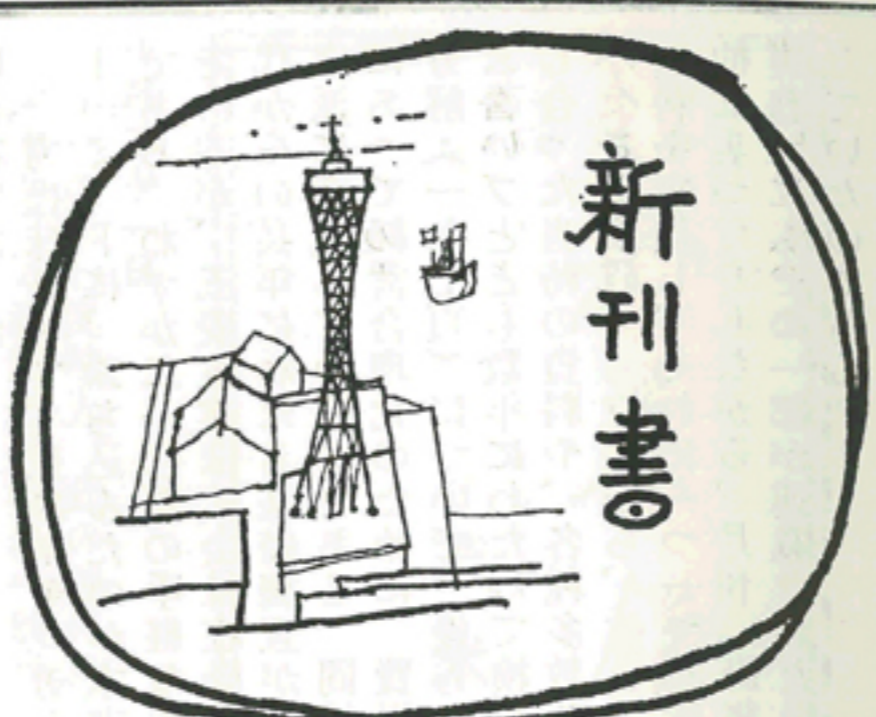
ければそんな仕事をなし得る者がいないことも知っていた」と述べる語はそのまますべて伊藤整と作家にも当てはまる。「変容」出版に至るまでの伊藤さんの最近の著作はそのことを物語っている。「日本文壇史」を書きはじめた頃「これは五年くらい連載して昭和の最近作にまで及ぶつもりである」と書いていたが、十六年以上たった今日ようやく「藤村の妻の死」に達した。昭和の現代に至る迄には尚尤大な分量の執筆が必要であるが、伊藤さんはジョイスについて述べたと同じく一作に何年をかけてようと実に忍耐強く、ねばり強く野心的な大作を目指して、たゆまぬ努力を一つづつ止まぬ作家であるから「日本文壇史」の完成が後れても却って伊藤整その人らしいことなのである。彼の本業から見れば余技に等しい「我が文学生活」全六巻は、こうした売文業者の伊藤整の姿態を、あますところなく露呈して興味深い。

伊藤さんは前述の翻訳の他にソントン・ワイルダーの「運命の橋」を訳している。翻訳者としての伊藤さんはジョイスを芸道の師と仰ぎ、ローレンスの性一元論に強烈な牽引力を感じ、チャタレー裁判の試練に出会った。そしてこのチャタレー裁判が伊藤さんに改めて社会百般に関する新しい眼を開かせた。今まで漠然とした知覚にとどまったものが、明晰な認識に代ったのである。伊藤さんがチャタレー裁判を契機に女性論や人生論や社会評論にまで手をひろげていったのはこれがためである。英文学者としての伊藤さんは昭和

三十一年には国際文化会館で、「Japanese Way of Thinking expressed in Literature」を講演し、また昭和三十一年には第二十九回国際ペンクラブ東京大会で、「Japanese Sense of Beauty and Good」の講演をし、昭和三十六年米国ロンドン大学で、「Japanese Way of Recognition」の講義をしている。優れた語学力を駆使しての口頭による直接外国文士や大学生への話しかけもまた伊藤さんならではの活動である。

昭和三十六年末発行の「ヨーロッパの旅とアメリカの生活」は文学者であると共にまた優れた語学者である伊藤整の一面を如実に表現して面目躍如としている。

外国文学特に英文学に於ける造詣の深い伊藤さんが、やたらにジョイスを真似たり、ブルウストを真似たりローレンス・スタアンの小説の形式を真似たりしたのはないことは「トリストラム・シヤンディ」と得能五郎」と題したエッセイを読めば判る。伊藤さんは日本の文壇人で、「トリストラム・シヤンディ」をまともに読んだ人は、夏目漱石だけと推論し、自分もあの難解なラテン語のふんだんに入っている小説を全部は読んでいないと告白する。そして自分の読んだ範囲でも何も真似をしていない、もしも本当に「得能五郎」が「トリストラム・シヤンディ」に似ていたら私はどんなに嬉しいことだろうと述べている。「The Life and Opinions of Tristram Shanby」という題名が「得能五郎の生活と意見」に似ているからと言

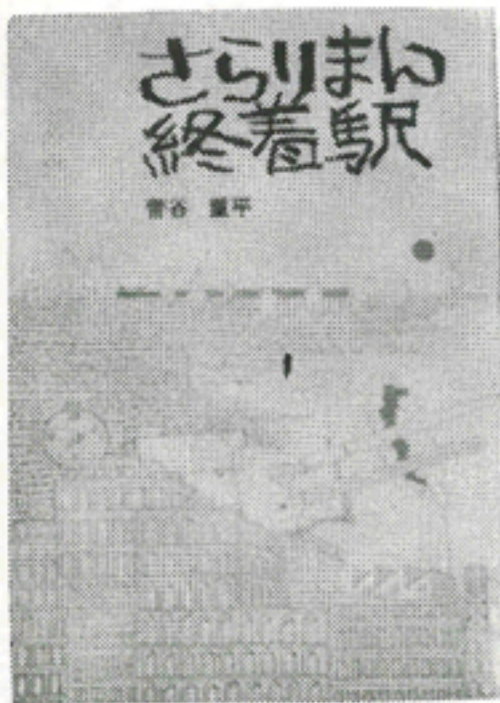


菅谷重平著 (大九)

さらりまん終着駅

この著書は菅谷重平氏三十八冊目のものであり、他人との共著が二十三。辞典、ハンドブックの執筆も経営学辞典(平井泰太郎編)ダイヤモンド社発行をはじめ同文館の財務ハンドブック、会計学辞典、経営ハンドブックなど七つの辞典に及ぶという、誠に精力的な著者である。

この「さらりまん終着駅」は菅谷氏の自叙伝であり「わたしの生涯



の決算書を作ってみる気になった」といっているが著者のなまなましい体験を通して示唆に富む個所がはなはだ多い。

子供のときは軍人を夢み、中学に入ると大臣を夢み、大学者を志し、高商へ入ると大実業家にあこがれ、一橋へ入ると一度は外交官になることも考え、ジャーナリズムの世界を馳け回することも考えたが結局平凡なサラリーマンになったというが、どうして終戦後の大混乱時には経済安定本部の生産局長をやリ、経済学博士の学位も早稲田大学で得ている。住友金属の取締役、関東特殊製鋼の取締役会長にも就任されて申し分のないサラリーマン生活をもう卒業である。

よき母、よき師を持たれて今日を得られた方である。その訓えをこゝに引用して見よう。お母さんは次のようにさとされたそうである。

- ①ひとに迷惑になるようなことをするな
 - ②けんかをするな
 - ③せつせと働け
- という三ヶ条で躰けられた。小樽高商へ行ってからは初代校長渡辺龍聖先生から長者長寿の法を教えられたそうである。長者の法は、
- ①金持ちであり、②色持ちであり、③力持ちである。というのであった。

色持ちが面白い即ち女性にもてる男性であり、またよい子に恵まれた子持ちでなければならぬというのである。力持ちの方は体力も優れ、知力もある実力の持ち主でなければならぬというのである。そして人

生は六十才までは徹底的にこれらを追求め、六十才が過ぎたならば徹底して「ケさる」の境地に入るのだというのである。即ち

- ①金ケを去る
- ②色ケを去る
- ③勝ケを去る(人に勝とうというような気を去れ)これが長寿の道につながるかと教えられたそうである。

この本を読んでもううちに、この三つの中②が一番先に去ったであろうが古稀がすんでもあとの二つはまだ去り難いのではなからうかと感ぜられた。

人は誰れでも小さい時には色々な野心があったろうが、彼は医師を中学時代に志し、一高(第一高等学校三部)を受験して浪人となり、神田の古本屋で大西猪之介著帝国主義論を読んで、この本に魅せられ、大西猪之介教授をしたって小樽に入学したのである。その後東京商科大学を受験、上田、三浦、左右田、高瀬、石川というような夢の中に出てきていた先生の顔と声とをチカに見、チカに聞けたともいう。この本の構成は五分の一が学生時代、後半は社会に出てからの奮闘記である。よい事許り書くのが必ずしもよい自叙伝とはいわれない、かといって客観的に後味の悪さを残すものは避けられた方がよかろうと思う。例えば母にけんかを売られた部分があるながらけんかを売られた部分があるこの著述は避けられた方がよかろうと思う。まだ心の中にすえかねるものが残っているような印象を強めた。

編年式に書かれた自叙伝ではある

うのみで横做云々と論断することは出来ない。

中村光夫氏の評した「正体の知らない不思議な人間」伊藤整の仕事ぶりは平野謙氏がいみじくも論破したように「今日の売文業者のありかたを逆用しながら、自分の仕事を積極的に推しすすめる」やり方で極めて多角経営的である。「おれはこういう人間だ、審く資格のあるものは勝手に審いてくれ」と、他人の批評を気にしないで自分の思う通りの仕事を押し進めて来た。

近代日本文学館の理事長としていそがしい仕事の中で、伊藤さんらしい独自のものを、作品、批評、随筆の各ジャンルに於いて今後も着々と発表されることを同窓の一人として心から祈念してやまない。

(皇学館女子短大助教授)

が、色々な訓えを中心に、遭遇した豊富な経験を心理的観点から横割式で書いていただければ尚面白かったのではなからうか。

〇〇趣意書とか〇〇記念祝賀会記録などズバリそのものよりも「さらりまん終着駅」という表題にふさわしい、やわらかい表現がなかったものであろうか。

また所々に人名が出て来るがやはり簡単な註記があった方がよい。「書友を語る」で緑丘人長尾桃郎氏が出て来るくだりがある。書痴斎藤昌三のことも出る。本のない二十一年頃、私は愛書家の仲間に入れた事がある。お腕の中に入札値を書いた紙切れを丸めて入れ、俵座の十

人位に次々渡って行く時斎藤昌三は
じめ発禁本に目を輝かしていた数人
の書痴がいたのを思い出した。「カ
ーラストラ」もあつたと思う。菅
谷氏程の大蔵書家には古本屋廻りを
書かせてもゆうに一冊の本が出来る

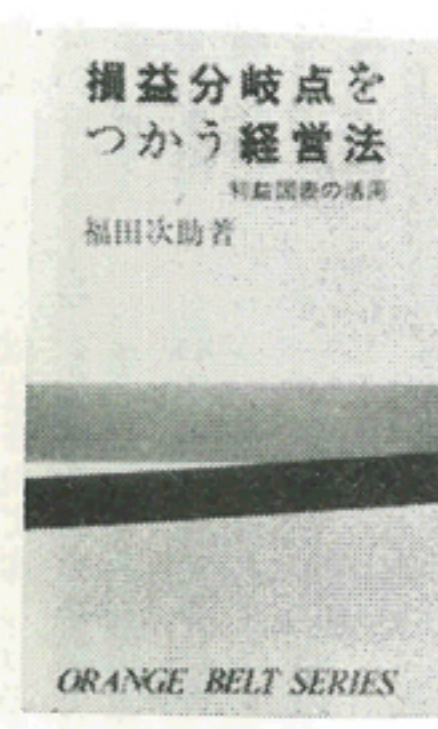
福田次助著(昭一三)

損益分岐点を つかう経営法

利益図表の活用

先輩が後輩の著述の書評を書くこ
とはあるが、後輩が先輩の著述を批
評することは、いささか筋がいで
あるかもしれない。著者の福田さん
は小樽高商で私の一年先輩であり、
しかも同じ寄宿舎の住人であった。
豪傑肌のスポーツマンで、野球の
選手であり、しかもピッチャーをや
っていた。かよわい私など近より難
い存在であった。

全力投球をして、見事キャッチャ
ーのミットに、ぶち込んだのが本書
である。わずか二一〇頁の手軽な本
であるが、三菱鉱業株式会社が勤時
代からの長年にわたる基礎調査が、
立派に開花しているのである。同社
にあつて経営合理化のために、費用
分解(一七七頁)について、優秀な
スタッフとも数年にわたつて検討
し合つた当時の資料や、各種多数の
小会社を管理する立場から、生きた
資料を駆使し、それについて一つ理論
的な裏づけをしながら、月刊「経理
実務」にもその一部が連載されたり
していたのである。



経営者は利益計画について思考す
る必要があると同時に、自分の企業
の現在が安泰であるかどうかについ
て、常に思いを馳せなければならな
い。そのとき手掛りとなるものは、
経営安全率である(本書三三頁以
下)。これはなんでもないことによ
うにみえるが、激動の時代には、経

営者にとって重要なよりどころにな
る。書中の「経営安全率による判断
基準表」(四五頁)は、すべての経
営者が、自分の企業の現状と比較し
てみるために、大切な数値を掲げて
いる。あなたの会社は大丈夫か、安
全か、その検討の資料である。
わが国の企業を業種別にみたとき
その三分の一は製造業である。損益
分岐点や利益図表は、製造工業にお
いてもっとも広く利用されていると
著者はいうが(一一二頁)、はたし
てそうであろうか。たしかに経営計
画にあつて、これらの手法を利用
する必要性は痛感しているが、多く

程の材料をお持ちの事と思うが「終
着駅」といわず肩のこらない執筆に
今後は楽しい余生を送つてほしいと
祈らざるを得ない。
(日本法令様式販売所刊 定価三九
〇円)

の経営者は、ただ痛感するにとどま
つていて、損益分岐点とはなんであ
るかについて理解しようという努力
がなされていらないのではなからう
か。いくらでつくつていくからで売れ
ば、欠損にもならなければ、利益も
生まれぬ点、損益分岐点である
という初歩的な入口から、われわれ
を誘い込んで、この損益分岐点を利
用して、生産計画、原価管理や設備
計画などを立案するときに、どうし
たらよいか、科学的な数値によつた
答えの出し方を知ることが出来る。
私が特に関心をもつたのは、工場の
設備が故障したときの失われた利益
の計算(一三七頁)である、いくつ
かの類書があつても、これの利益図
表による見方や知り方について書い
てあるものはない。外資の導入や自
由化の嵐の中にあつて、設備の故障
によらずとも、得られるべき利益を
失わなければならない企業は多いで
あらう。そのようなとき、この計算
の仕方などは応用の範囲が広いであ
らうし、治にいて乱を忘れぬ経営者
の足場となる。

鉱山業は経営の難しい業種であ
る。著者はその難しさに立ち向つて
鉱山業の利益計画の在り方を追究し
てこられたエッセンスが、最後に近
く鉱山業の利益図表(一六一頁)と
してまとめられている。たしかに一
読、そして座右の書とする価値があ
るが、往年の名ピッチャーは、直球
のストライクだけの全力投球で通し
てこられた、だが、ときには遊びの
ボールがあつてもよかつた。
小B判/430円 実業之日本社
(公認会計士 北條恒一)

戦塵餘録

(四)

苦米地英俊日記

(小樽高商三代校長)

八月二十一日

今日八十七度晴天、此の地に珍ら
しき暑さ、気温急上昇の為一層身に
こたえる。併しこれが続いてはし
い。国民食生活のために。

科学教育の振興に「特別教室」を
設ける案が昨年から試験的に実施せ
られていた。自分がかかる差別待遇
の青少年に及ぼす心理的影響、父兄
の運動、情実、地区的などから容易
に賛成しかねる。加え失ふ資質は年
と共に発達するもの、年少の英才必
ずしも天資ありとは考へられぬ。人
には早熟あり、晩成あり決して軌を
一にしない。寧ろ偉大な線の太い人
間は晩成に多い。

「栄養パン献上」岡田前首相から
「澱粉粉、団栗、よもぎ、クローバ
ーの葉、甘藷の葉及蔓」などから作
つた「栄養パン」を両陛下に献上と
大々的宣伝。以て国の窮状を察し得
よう。献上品が如何によくて国民
に配給せられるものがよいかは限ら
ぬ。北海道の所謂「郷土食」それを
道庁で食べたときと配給品とが似て
も似つかぬものであつたことを今も
忘れ得ぬ。所が或時は腐敗原料を用

ひたもの焼不足のもの等のため多数
の病人を寮生に出したことがある。
本部に鈴木少将をたづねた。我が国
は天誅を受けたのだ。顧みて国内凡
ゆる所に神州にあらざる姿のみが認
められ来つたのだと云う点意見が一
致した。塩、石鹼の製作、その他の
取定めもして帰つた。

八月二十二日

今日は昨日よりも暑い。蒼空一点
の雲なく、身辺微風もない。栗林君
来訪、三十分許り快談。東京のあの
家は焼かれたとの事惜しい事をし
た。

日ソ停戦現地交渉が円満に進めら
れていると、新京、奉天、公主嶺の
各所、嗚呼。

香港を英国放棄せずとの噂新聞に
見ゆ、大厦の正に倒れんとするよく
一木の支ゆる所にあらざる御国に泥を
塗つた徒輩漸死すべし。河辺虎四郎
中将を全権としてマニラに赴きたる
旨発表。十九日発二十一日帰京。

八月二十三日

五時の放送で聯合軍第一次進駐に
関する報道を得た。
一、聯合軍の第一次本土進駐部隊

は八月二十六日より逐次東京湾周辺
地域の一部に到着する予定なり。
二、右進駐に当り紛争を避くる為
左の通り実施することに定めらる。
イ、概ね千葉、茨城、群馬、栃木、
市、多摩川河口、府中、八王子、大
月、伊豆半島南端を連ねる線内の地
域に在る我武装軍隊は成る可く速か
に該地域外に撤収せしめらる。
ロ、右地域内には我方の一般警察
の外武装警察憲兵および海軍保安隊
を配置し治安維持を強化す。
ハ、右地域内の官庁、公共団体等
の機能は平常通にして住民も亦従前
通の平静なる日常生活を継続すべき
ものとす。但し混乱予防等の為臨機
統制を要する事項に就ては其の都度
一般に公示す。なお聯合軍と我方と
の接触は別に設置せらるる機関を経
て行わる。

二、聯合軍部隊の第一次進駐行動
は概ね左の如く予定せらる。

八月二十五日より本土上空に飛行
を開始す。八月二十六日朝以降厚木
飛行場へ空輸、先遣部隊到着より同
日聯合軍艦隊相模湾に、其の一部輕
快部隊東京湾に入港す。八月二十八
日以降逐次空輸および海上輸送を以
て厚木および横須賀附近より兵力を
進駐す。

河辺中将の停戦協定打合せ経過が
紙上に見られる。国民に知つて貰い
度い事が多々ある。第一に我が飛行
が木更津伊江島を飛んだ時間と伊江
島マニラ間をダグラス機の飛んだ時
間とを比較して見るがよい。後者は
四時間半、しかも帰途此の大切な人
を乗せた飛行機が天竜川附近海上で
不時着、幸ひに全員無事。宿舎に対

と美術印刷・紙工品

三優社

株式会社

京都市下京区寺町通松原下ル
TEL (361) 8171 (代表)
取締役社長 山村太兵衛 (昭12)

広告マツク

是非一度皆様からの御用命を……特別奉仕

する細い心遣い、ウイスキーを送り
届けるなど山下某大將懸死という
所。しかし Business is Business
と会議席上の厳さ、しかも降伏の屈
辱を必要以上に感ぜしめぬなど当今
軍の武士道に比して如何。談判の進
行中「国内事情、輸送力その他技術
的問題の説明」を聞いて「即座に条
件を変へて迎へる」船舶運輸問題に
ついて「説明を諒承する」と即座
に承認する。我が国では情が先に立
つ、理論は後になる。所が米英では
道理が通らなければ涙で訴へても何
の効果もない。日本は情の国、それ
がやがて情実の国、派閥の国、家柄
の国となつていく。それではだめで
ある。

「会議ならばマニラ市の状況を見
て感じたことは米国側が極めて能率
的であるという事であり、時間は一
分といえども厳守し三十秒でも問題
となるという有様で彼等はこの能率
的な判断から最初我事情がよく呑
みこめなかつたのである」と。此の
言葉から推しても我の能率の低い
ことが認められる。

「我側に対しては敗戦国の苦痛を徹
底的に体験せしめ戦争を再び行うよ
うなことをないようにしようという
点は極めてはつきりしていた」とそ
の苦痛を国民は今以て理解していな
い。天気予報が今日から放送され
た。その中止されたときの淋し
さ、それでいて今度の回復には喜び
が伴はない。
国民義勇隊解散、戦時教育令撤
廃、軍事教育廃止、軍需省は商工省
に転換、大東亜省は外務省に合併、
【以下34頁へつづく】

余話	緑丘
----	----

日本原子力船
事業団理事長

佐々木周一氏(緑丘会
理事長)

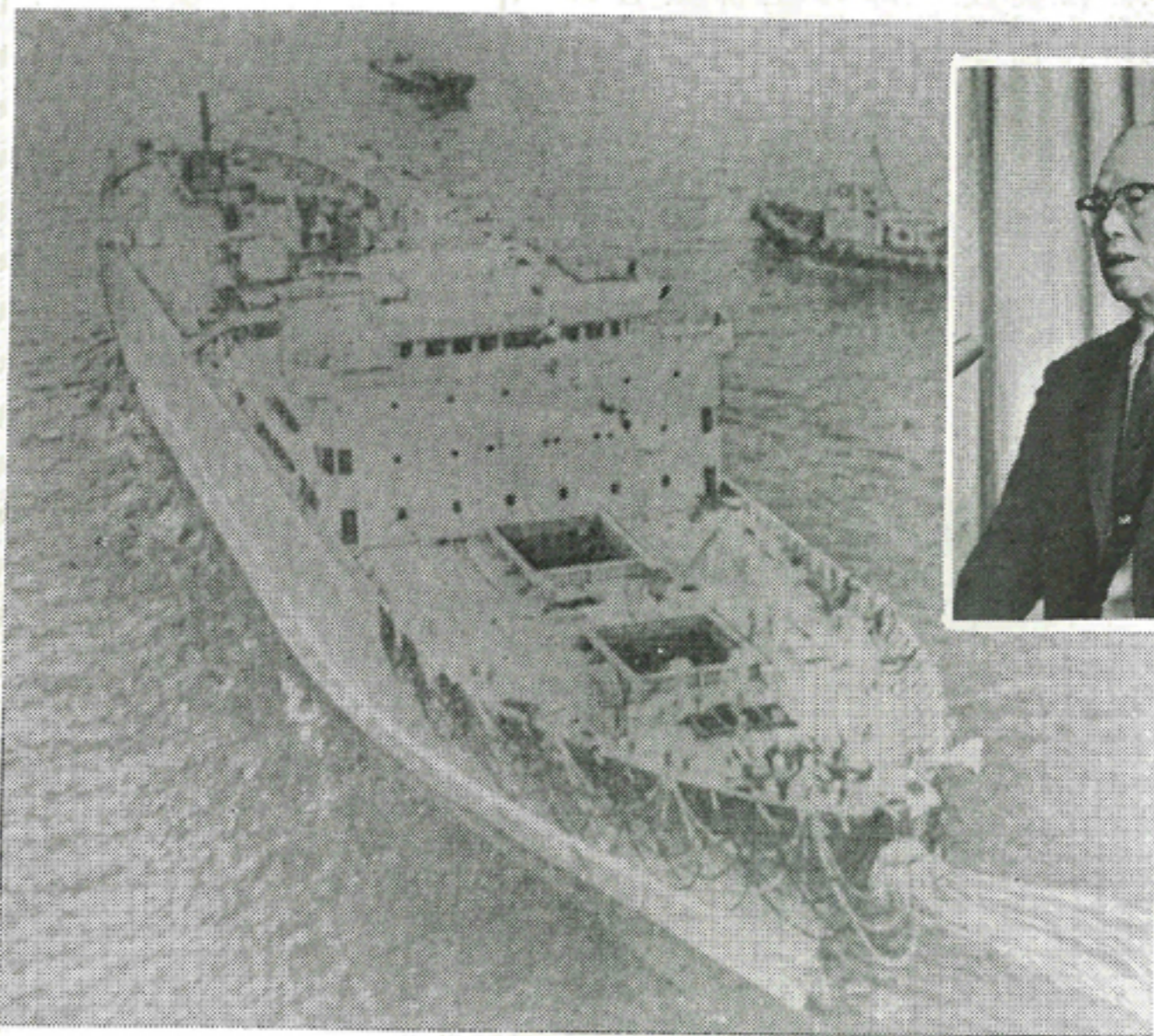
原子力船「むつ」と命名、第二船は?

日本初の原子力船「むつ」(八、三五〇総トン)の進水式が、七月十二日午後四時、皇太子ご夫妻をお迎

えして東京・江東区豊州の石川島播磨重工業東京第二工場で行なわれた。平和利用の原子力船としては「レ



原子力船「むつ」が進水



日本初の原子力船「むつ」の進水式で

「ニン号」(ソ連)「サバナ号」(アメリカ)「オットー・ハーン号」(西ドイツ)に次いで世界で四番目のものだが、ここまでこぎつけるにはさまざまないきさつがあっただけに、進水式を迎えた関係者の喜びはひとしお。

午後四時、日本原子力船開発事業団の佐々木周一理事長が、同船を「むつ」と命名。次いで佐藤首相、原田運輸相ら各閣僚、原子力委員関係者が見守るなか、美智子妃殿下が銀色の小オノでささえ綱を切断されると、シャッペンが砕け、淡いあざき色の「むつ」は、すすると船台をすべり、湾内に無事着水。くす玉が割れ、なから数十羽のハト、紙ふぶきや風船が舞い飛ぶと同時に、参列者四千五百人の間から日の丸の小旗が振られ、拍手とパンザイがわき起こった。

同船は、建造費五十五億六千七百万円で昨年十一月二十七日に起工、原子力の実験船兼貨物船として設計されており、全長百三十一メートル、幅十九メートル、航海速度十六・五ノット。原子燃料二・八トンを積み、この速さで地球を七回回りで、二年間燃料を補給せずすむ。また船体は衝突や火災などの事故に対しても原子炉の安全を保てるように、これまでの船舶にはない特殊構造となっている。

なお、進水後は引き続き同工場で船体のギ装工事、原子炉格納容器の備え付け、放射能に対するしゃへい工事などを行なったあと、来年五月、同船の母港となる青森県むつ港に回航、四十七年一月を目標に原子

春の叙勲

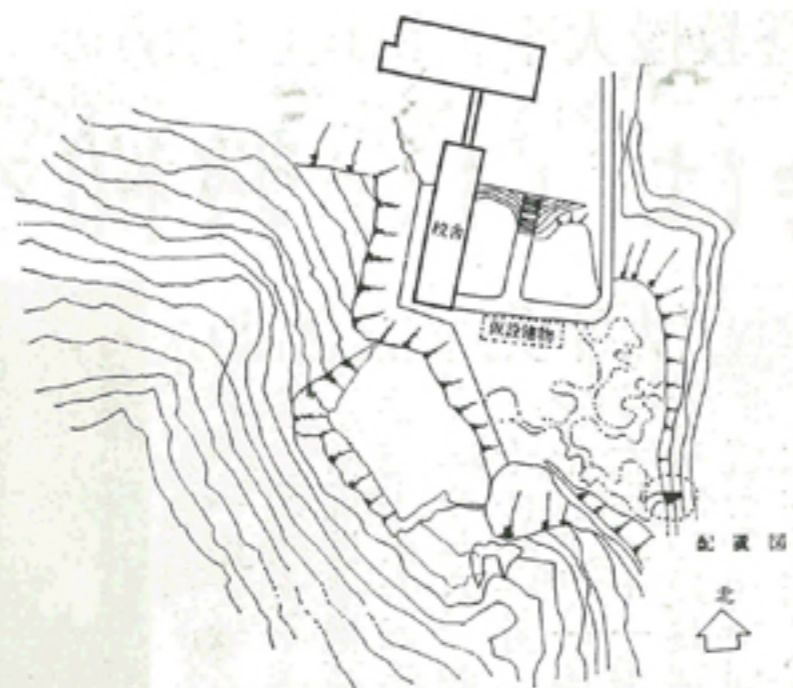
- 勲四等旭日小綬章 稲村良之助(大丸 産業教育並に勤労青少年教育の尽瘁による)
- 勲四等瑞宝章 菅谷重平(大丸 関東特殊製鋼相相談役)
- 勲五等双光旭日章 村川嘉一(大丸 札幌商工会議所議員三十年間 勤続、市議員二十一年間 勤続、地方産業の発展、市政の発展に寄与した功績)

炉を積み込み、同三月までに公式試運転にはいる予定。

同船の推薦者である日本原子力船開発事業団の佐々木周一理事長は続く第二船以降の建造については「第一船の結果をみた上で検討することになるが、近く原子力委員会の下部機関として「原子力懇談会」が設置される予定なので、ここで論議をすることにしよう」といい、「外国でも平和利用の分野ではまだ第二船を手がけていないので、わが国ではなんとか早く建造したいもの」とのこと。核燃料の入手についても「十年間は米国との輸入契約で大丈夫だし、今後、国内ウランもどんどん開発されるだろう」とのこと。



8月15日をめざし慰霊碑の建設が進む

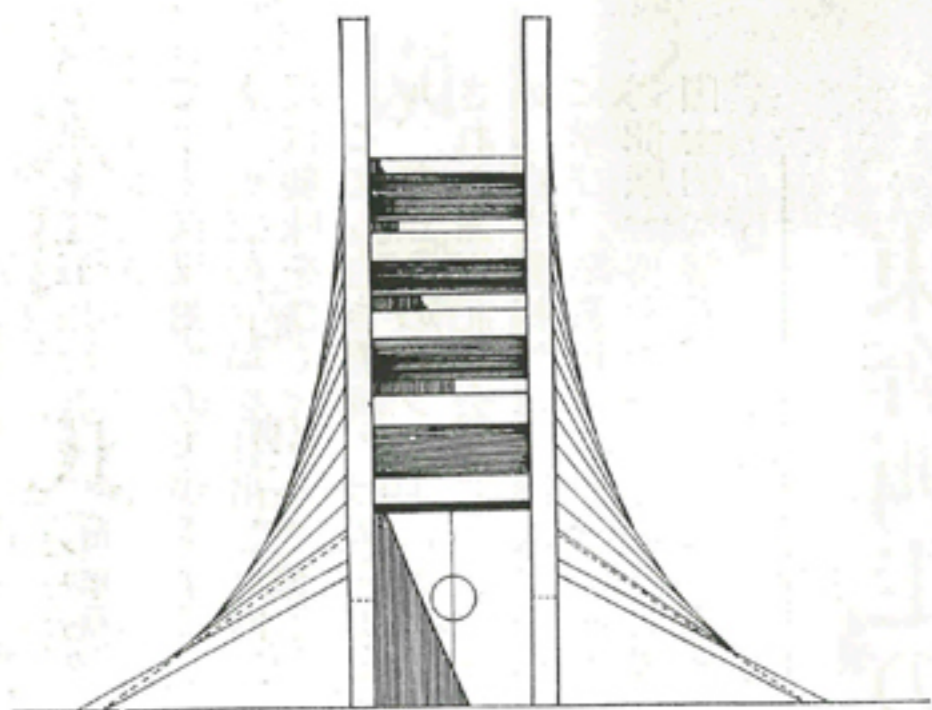


小樽商大に慰霊碑の建設進む 戦火に散った友よ安かれ

八月十五日に除幕式

商大の学園紛争はいっこうに解決のきざしが見えないが母校校舎裏の東高台では平和への祈りをこめた緑丘戦没者慰霊碑の建設工事が急ピッチで進んでいる。

明治四十三年三月二十七日に開校した旧小樽高商が前身の商大はすでに九千二百二十八人の卒業生を送り出している。このうち、旧高商、経専時代の卒業生三百人余が太平洋戦争などに出陣、尊い命をなくした。在学中に学徒出陣したのも少なくない。特に昭和十六年度の卒業生は八十人もが戦火に散った。



慰霊碑正面設計図



これら戦火に散った、先輩、後輩の霊を慰めようと今八月十五日終戦の日をめざして工事を急いでいる。除幕式は八月十五日である。

工費、遺族招待費など含めて七〇〇万円の予定であるが、まだ遺族招待費など四十万円不足。

建設場所は紛争の母校を一望、さらに小樽港も遠望し得る校舎裏の東高台である。三角状のモダンな設計(竹山実氏)。このなかに戦没者の

北大・小樽商大応援団対面式

この二枚の写真は昭一五卒長谷川昌一君の撮影によるものである。いずれも小樽商大応援団の北大応援団に対する対面式と挑戦状朗読風景の一コマである。(六月二十二日)



名前がしるされる。

実行委員会はこの準備のために去る七月二十九日、杉江委員長ほか委員が集まり、いよいよ迫る当日のための具体的打合せに入った。読売新聞鳩の会から鳩三〇〇羽を借りて戦没者の霊をなぐさめるため緑丘の空に放つ事も発表された。八月八日には当日の委員役割も決定され、滞りなきよう、佐々木理事長、遺族を迎えるの除幕式万端の打合せを終えた。

学校法人 野又学園

理事長 野又貞夫 (大正十二年卒)

函館大学

函館短期大学・函館有斗高等学校
同付属幼稚園・函館女子商業高等学校
同付設調理師学校・函館保育専門学校



'72 冬季札幌オリンピックのPRを果し

緑丘人三名ヨーロッパより帰る

日本レディーズアカデミー学院
理事 金吉信吉 (昭九)
副学院長 杉原芳彦 (昭三四)
講師 星真太郎 (昭三二)

札幌オリンピックのシンボルマークを染めぬいた幕を張り廻した専用バスと振袖姿の四人の娘さん達は、大いに「SAPPORO」を売込み欲待されながら、宣伝の効果をあげ、加うるにパリ、ヘーグではお茶とお華のデモストレーションを併せて行い、文化使節としての成果をあげて帰国した。

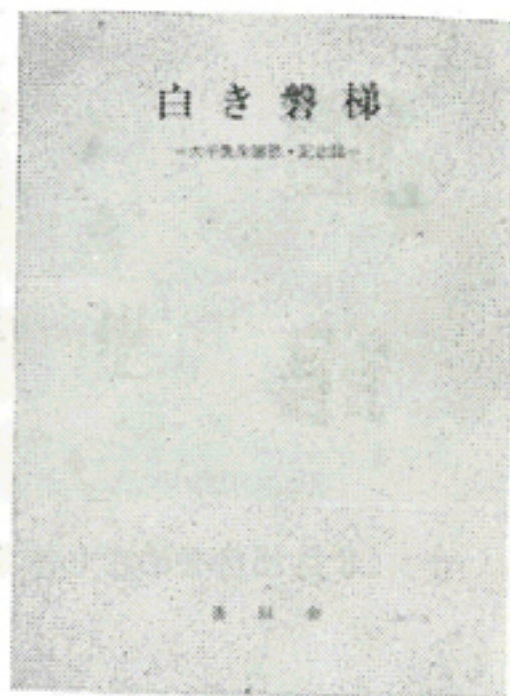
引率の緑丘人三名はウインドーショッピングで有名なハケ国の夜のウインドーの撮影(スライド五〇〇枚) (冬季オリンピックみやげ品のリサーチ等、オリンピックを迎える札幌の秘策を獲て帰国したが、引続いて明年ソビエト、北欧三国、ポーランド、デンマークの諸国を訪問し、札幌オリンピックのPR旅行を計画している。

(写真上から) 専用バスでアルプスを越えて、ヘーグ文化会館でデモンストレーション、パリ・シャンゼリゼ劇場にてデモンストレーション

一橋大学名誉教授大平善梧氏(大15)のため

善以会は「白き磐梯」を、発刊

(大平先生記念誌)



一橋大学名誉教授大平善梧氏は小樽高商大正十五年卒である。四十四年一月二十八日、一橋大学三十一番教室の最終講義をもって同大学を去り、青山学院大学に就任。四月青山大学法学部教授に就任して四ヶ月目に学長に選ばれた。同校は学長がキリスト教徒である。

事を求められるミッションスクール。剣道五段の教士、しかもクリスチャンときいてびっくりする。かつて「安保反対」の声がやかましいとき、賛成の立場を打出した同氏の登場は興味をひく。

この「白き磐梯」は大平ゼミナール、善以会のメンバーによって編集された謝恩記念会誌である。この「白き磐梯」には同氏が一橋大学に学び、卒業後、中村進午博士(日露開戦七博士の一人として活躍した国士的な学者、高潔な人格者として

東奔西走の加茂先生(前学長)



加茂儀一先生は去る六月二十五日NHK・教育テレビ・みんなの科学「ルネッサンの巨匠」放映録音のためNHK(大阪)に現われた。同日六時半からのこの番組でレオナルドダビンチについて絵画技法の裏付けに人体解剖デッサンや科学的発想(水力利用、飛翔原理「飛行機」)の努力の跡を解説され、微笑するモナリザに及び、この名画について彼自身が飽くなき探求欲にかられて自然を探究した結果得た自然の無限と幽遠に対する理解の表現で、彼はこ

独自の学風を保持された先生)のあとを受けて国際法の講座を担当して以来、今日まで歩んだ道を詳述している。

教え子たちのゼミナール回顧や短信も掲載しているが、たぐさんの著書と編著、論文など著作目録を併載されている。

去る五月二日には毎日放送テレビで「憲法と防衛」で中曾根康弘、長谷川正安氏らと共に討論会に出席した。



高級家具注文製作・計画生産

天童木工

TEL (天童) 3121
山形県天童市大字乱川
東京・大阪
福岡・札幌

本店 営業所
支店

OM5039 肘掛イス ¥14,500

社団法人 緑丘会第二十九回通常総会

札幌支部定時総会 新入会員歓迎会

時 六月二十日午後五時半
於 札幌・ローヤルホテル



第二十九回通常総会は、本年は上
記見出しの通り札幌に於て行なわれ
た。東京より佐々木理事長他数名、
道内各地支部長、学校関係よりは、
実方学長、室谷、木曾、松尾元教授
などの来賓を含め約百三十名の出席
があり盛会であった。

◆札幌支部総会

本会の通常総会に先立って、金吉
信吉氏の司会で開会。穴釜升夫支部
長代行、議長席につき、挨拶。つい
で議案審議は一瀉千里に可決され、
支部役員改選では、支部長穴釜升夫
氏(大一二)、副支部長池田昇一氏
(昭四)、安田正義氏(昭九)植田
英次(昭一六前)が選任された。

◆第二十九回通常総会

東京支部神田正英氏の司会で始ま
る。佐々木理事長の挨拶があり、理
事長議長席につく。昭和四十三年度
事業報告の件、収支決算及び財産目
録と昭和四十四年度予算案承認の
件、それぞれ可決。本部役員改選の
件並びに次期総会開催地の件につ
いては、理事長一任とさる。ついで
緑丘会々費値上げの件について、昭
和四十五年四月一日より年額千円と
することに決定した。



穴釜新支部長の挨拶

緑丘会費 ¥1,000 に決定す 会報は年3回を計画

い。そのためには、同窓会の会合を
活発にして、大いに意見の交換をし
てもらいたい」と希望して挨拶され
る。

ついで実方学長立ち、今までの紛
争の経過を詳細に説明、結論として
「一般の大学紛争を見ていると、教
授達も数派に分裂して、争っている
場合が多い。幸いにして、本学は、
教授達は勿論、事務職員も一致団結
して、学生の紛争に対して辛抱強
く、学生の自主的解決に期待しながら、
解決のために協力している。」と述
べ、学長の決意として「教育は気長
に、且つ気持を明るくつづけて行か
なくてはならぬ。私は責任のとり方

として、緑丘を守り通すことが、責
任をとることだと思っているので、
辞めたりはしない。緑丘精神は滅び
ないことを信じて」と確固たる信
念を表明された。

次いで新入会員を代表して、拓銀
の高橋甫君がフレッシュな挨拶。
次に大正五年卒の大先輩村川嘉一
氏叙勲(勲五等双光旭日章)に対す
る、お祝いの記念品贈呈と同氏の謝
辞があり、林函館支部長の乾杯で開
宴。テーブルの処々方々では、歓談
の花を咲かせる旧知の面々、また、
新たに紹介されて名刺を交換しあ
う組あり、上は七十才代から下は二十
才代の新入会員まで一堂に会し、和

気あいあいの景。宴酣となるに及ん
で「ホエン・アイ・ケイム」の歌が
出、「歴代応援団長集れ」が号令
がかかり、行進歌が唄われる。次い
で、本日の紅一点後藤マリ子さんも
加わったフレッシュマン十五名によ
り、若人逍遙の歌が、肩を組んで左
右に身体をゆすりながら、壇上から
唄われる。

さしも盛会を極めた祝宴も、午後
八時半頃釧路支部長吉田利和氏の閉
会の辞でお開きとなった。

なお当夜は会場受付で「緑丘大西
教授特集号」と「緑丘ペンント」を
販売いたしました。多数のお方よ
りお買上げをいただき有難く御礼申
上げます。この販売に当り、受付
係の小森昭氏(昭二三)に大変お世
話になりました。また、この記事を
書くにあたり、札幌支部常任幹事の
島谷氏より、色々詳細をお教えい
ただきました。両氏に対しここに厚
く謝意を表して擲筆いたします。



総会々場風景

新入会員歓迎



記念品を受ける村川氏(右)



優賞の小西征夫氏によるこび



B B賞を受ける実方学長

◆第二十九回緑丘会総会記念ゴルフ大会

とき 六月二十日(金) 午前十一時
スタート

ところ 輪厚ゴルフコース
成績次の如し

- 優勝(昭二) 小西征夫 ネット 七六
 - 一位(昭八) 横山秀男
 - 二位(昭一八) 竹山涼一
 - 三位(昭二三) 溝口利之
 - 四位(昭三五) 常見菊雄
 - 五位(昭三八) 山本信爾
 - 六位(昭一一) 中尾 弘
 - 七位(昭二二) 実方正雄
 - 八位(昭四) 佐々木周一
 - 九位(昭九) 沢井正二
- 支部対抗戦
- 一位 札幌支部 二三〇
 - (代表・小西、横山、竹山)
 - 二位 東京支部 二四四
 - 三位 小樽支部 二四五
 - 四位 旭川支部 二五三

鋼・鉄の品質向上に!

Mo

高純度硫化モリブデン
酸化モリブデン(ブリケット・クリンカー)
フェロモリブデン
カルシウムモリブデン

V

酸化バナジウム(“サン・バナケット”ほか)
フェロバナジウム

Nb

フェロニオブ

Ti, B, Zr

フェロチタン
フェロチタンボロン
フェロボロン
フェロジルコニウム

R.E

鉄鋼用希土類添加剤(サン・メルト)
鋳型塗剤(サン・キャスト)

高級金属の立体経営

精鉍◇鉄鋼用酸化物◇工業薬品
フェロ・銅・アルミ系母合金
KSブロンズ



太陽鉍互株式会社

本社 神戸市生田区京町72 (クレセントビル 6階)
電話 神戸 (33) 3 2 8 1~8
大阪支店 大阪市東区北浜3-5 (大阪神鋼ビル 9階)
電話 大阪 (231) 7 5 3 5 ~ 7
東京支店 東京都千代田区丸の内3-2 (新東京ビル 8階)
電話 東京 (216) 6 0 4 1 (代表)



虹一点も加えて道選の唄



ホエンナイケームを唄う面々

社団法人 緑丘会第二十九回通常総会次第

日時 昭和四十四年六月二十日 午後六時
場所 札幌市南七東一 ロイヤルホテル

- 一、開会の辞
- 二、理事長挨拶
- 三、議案
 - 1、昭和四十三年度事業報告の件
 - 2、昭和四十三年度収支決算及び財産目録承認の件
 - 3、昭和四十四年度収支予算承認の件
 - 4、理事、監事、任期満了につき選任の件
 - 5、緑丘会々費値上げの件(昭和四十五年四月一日)
 - 6、次期通常総会開催地の件
- 四、閉会の辞

昭和四十三年度事業報告

- 一、集 会
 - 1、第二十八回通常総会 昭和四十三年六月七日 午後六時
東京都千代田区丸の内二ノ一 東京ステーションホテルにて
 - 2、新入会員歓迎会 昭和四十四年三月十四日 小樽市北海ホテルにて
- 二、会員動静
 - 本年度新入会員 三六七名(本学卒 二六四名
短大卒 一〇二名)に中退者からの入会一名
 - 本年度物故会員 三四名
 - 現在会員数 九、二七八名
- 三、会費納入状況
 - 納入総額(一、六一二、八〇〇円) 納入者数(一、六〇一名)
- 四、事 業
 - 1、緑丘会々報発行(二回)
第二十六号(四三・四・二五発行)
第二十七号(四三・一〇・一五発行)
 - 2、母校活動援助
本会財政上の関係もあり現在には主として財団法人小樽商科大学後援会にて援助をし居れり
 - 3、緑丘戦没者慰霊碑建立の事は四十二度に引続き当年度に於ても募金中であつたが設計も決定したので雪解け次第工事に着手し、四十四年八月十五日には除幕慰霊式を行なうことになった。

1日・2日の旅に出ましょう
小さな旅



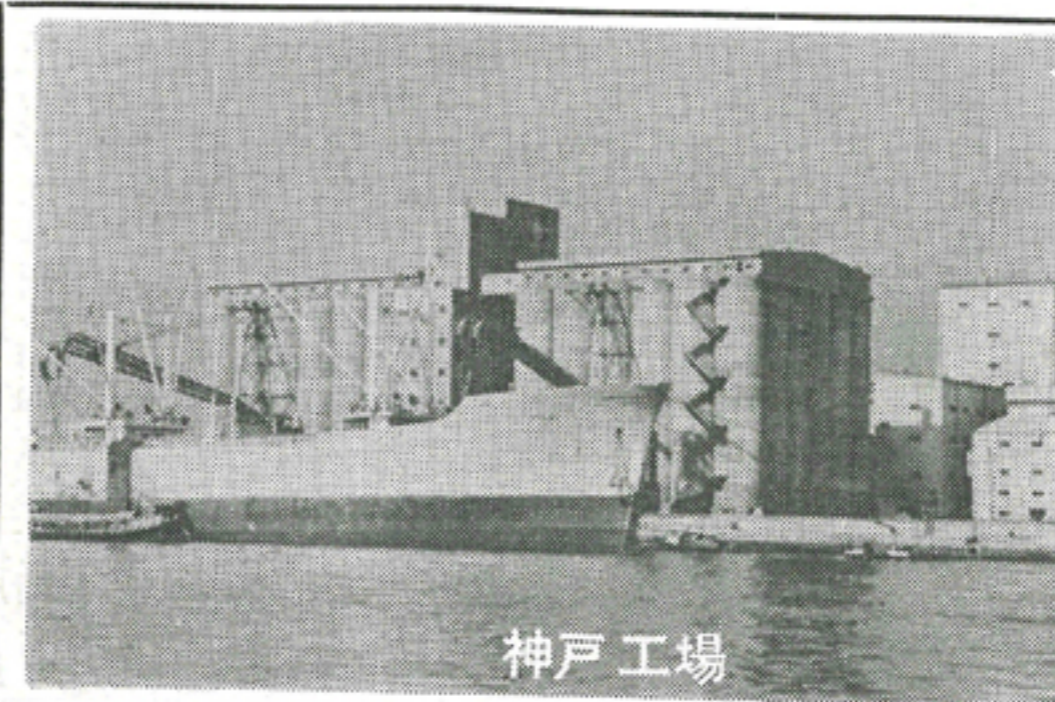
洞爺登別



ホテル(政府登録)
万世閣

洞爺万世閣 5-2171
登別万世閣 4-2266

札幌案内所 25-8570・チェーンホテル=定山溪グランドホテル



神戸工場



食品コンビナートの
パイオニア

製粉・油脂・ぶどう糖・食品・飼料・倉庫

昭和産業株式会社

取締役社長 松本浩三

本社 東京都千代田区内神田2丁目2番1号
工場 鶴見・神戸・船橋・上尾・水戸・太田

まんびつ五人集

次回

金香島武鈴
吉川谷内木
信清喜武賢
吉夫明一吉(昭八)
吉(昭二)
吉(昭一八)
吉(昭一三)
吉(昭九)

洋生・茶碗むし

安田 正義

(札幌支部)



盛岡の工藤久吉君から、バトンを渡されてとまどっています。どういう理由で小生のことが頭に浮んだのか理解に苦しむが、折角連絡があったのに執筆を断ることは、同君ならびに大阪の藝目君にも相済みぬことなので、これを書き出した訳です。

工藤君の想出のなかに、伴校長から芸者遊びについて注意されたことが書いてある。私も卒業の時同君同様あいさつにお伺いしてお邪魔したが、そんな粋な話はされなかった。おそらく同君は当時眉目秀麗な青年であったから、モテ過ぎて将来を誤ってもいかんと考えられて注意を与えられたものと思う。

私の場合は、銀行には入ったら、まじめにやるように、先輩や後輩に迷惑をかけぬようにとの訓戒をうけたと記憶している。

工藤君の場合とちがって、小生にはその訓戒を必要とする素質があったものと断ぜざるを得ない。いわん

や、芸者遊びについての心得などは一切云われなかった。三十五年前の当時を回想して、今は亡き伴先生の御厚意を深く謝したい。

そのとき、洋生をご馳走になった。どうしてそんなことを記憶しているかと云うと、先生は傍にあって、大きな菓子箱を開いて一ケを取った。箱の中は洋生がギッシリ詰っていたが、箱のまま出さずに一ケだけ出して曰く、そんなに食べられるものではない、ほしければまたあげよう。

箱のまま、さあどうぞと云われてもあまり好物でないから二ケは頂けない。まことに合理的なお話で尤も至極ではあるが、しかし、何か無然としたことも事実で、未だにそのことを鮮明に記憶している。

食いものの話のついでにもう一つ書かしてもらおう。

これも在学中、新婚の某先生を訪ねた、時間的な記憶がはっきりしないが、何んでも夕刻で食事前だったようである。

先生は大いにかん迎して下さって、さあ上れと云われる、お言葉に甘えて上りこんで大いに談論風髪をやった。そのうち新妻のおくさんが食べた



毎年三月ともなれば「螢の光」や「仰げば尊し」がきこえてくるのだが、今年は学園紛争とやらの余波で、この歌声がきこえなくなつたところが少なくない。

今とき「恩師」といふ題をかかると、若干時代はなれがしているとおっしゃる向きがあるかも知れない。しかしいつになっても恩師という語感はいいものだ。卒業生が街頭をおさえている卒業式的情景がテレビで写し出されると、何かジーンとしたものにうたれるのは私ばかりなのであろうか。

ところで恩師といえはまず学校の先生であるが、そればかりではない。私の場合、自分の今あるのに大きな影響をうけた方々はみな恩師である。小学校、中学校、そして小樽高商の先生のほか、俳句の先生があり、その数は少なくない。その中で恩師といえは必ず反射的に思い出され、しかも連鎖的に記憶によりみがえってくる三人の先生がいられる。その連鎖の絆は俳句である。もっと焦点をしばっていえば、奥の細道につながる先生である。いうまでもなく松尾芭蕉のあの大旅行の奥の細道である。その三先生というのは小樽の稲穂小学校の六年生の時に受けた漢文を教わった花岡安見先生、それに新瀉で俳句を始めた時、手をとって教えていただいた味方蕪吟先生、この三先生である。

細矢先生は秋田県象潟町のご出身

事を出して下さった。かなり品かすが多くご馳走だったが、食欲旺盛なときだからペロリと平けて了った。すると先生はおくさんに、オイ茶碗むしもうないのか、あつたらあげなさいと云われた。

ここで本来なら、イヤもう沢山です、充分頂きました、と云ってお断りすべきなものであった。それを誠に遠慮のない話して、おくさんの出された二杯目に手を出した、そのときである。おくさんは、どんな味かしら、とか云われて、茶碗むしのなかの栗を一つつまんで食べられた、そして私にわたして下さった、栗の一枚少なくなつた茶碗むしを。

このことを今でもフト想出す、そして顔のホテルような感じになる。悪い時間に上りこまれて、折角おくさんが心をこめた料理、旦那様と楽しく食べようとした料理、それを心なき弟子に全部食べられて了った。

おくさんの最も好物の茶碗むしまでも。随分お邪魔して深更おいとましました。が、勿論おくさんは出てこられなかつた、心なき学生など見送る気持になれなかつたのか。

で、今なお健在で郷里にあって郷土誌の研究をしていられる。象潟という所は、芭蕉が奥の細道の旅に出るとき、松島とともに特にあこがれの地として望んで行った所である。今から二十年近くも前になるうか、私が日銀の秋田支店勤務となつてもなく、NHKから「朝の随想」という経済と趣味の問題をとりまぜた話を放送した。ところがその二、三日あと、銀行あてに一通の手紙がとどいた。差出人は細矢三三としてあって「先日放送の主の渡辺は、昔稲穂小学校で教えた渡辺ではないか」としてあった。「そうだと細矢先生だ」と思いもかけず三十何年ぶりで先生の消息を知ったわけであった。

私は次の日曜日にとんで行ってお目にかかった。先生は私を奥の細道に出でくる干満珠寺に案内してくだされ、秋の一日を楽しく語り合った。今もその感激を忘れることができない。一昨年夏に所用で秋田へ行つた時も象潟に立寄ってお目にかかつて来た。八十歳近い先生のお顔にも昔の面影ははっきり残っていた。ほんとうにうれしかった。

味方先生は私が新瀉に勤務した時の出会いである。新瀉も奥の細道のみちすぢに当たり、近くに出雲崎という所では、あの有名な荒海や佐渡に横たふ天の河の句を得ている。味方先生は俳句の達人であるばかりでなく、書道の名人でもあり、一面酒仙であった。私の家でよく句会をしたが、その後で酒をさしあげると、いかにもたのし

であったわい。次は金吉君に。(昭九) 北海道拓殖銀行常務取締役



仙台の寮歌祭

菅井 長平 (宮城支部)

八月六日、七日、八日は「名物仙台七夕」ですが、その翌日、九日午後四時から宮城県民会館大ホールで、東京における日本寮歌祭に次いで、地方第一号の仙台寮歌祭が今年も実施されるが、本年はその第三年目を迎えることになりました。

緑丘会宮城支部に対しても当初より主催側から参加方勧誘がありましたが種々の都合で参加するまでに至りませんでした。

しかし昨年の寮歌祭の頃から支部会員の中にも参加希望の声が多くなり聞えるようになり、その上仙台における寮歌祭は地域的にも東北・北海道の旧国立高専校は殆んど参加している実情から歴史的にもまた学校の知名度、格などからもその上位にありますわが小樽高商が参加していないことは何かしら画龍点睛を欠く

そうで「一枚書こうか」と言って、筆をとられることが多かった。その後で病氣と、めぐまれない家庭のため、友人と協力して先生の句集を編集してさしあげた。もう三十年も前になくなつた。今私の手元にその句集と数葉の短冊などが先生をしのぶよすがとして残っている。

さて花岡先生であるが、もう八年前に九十歳近い天寿を全うして長逝された。その少し前、私が東京にいた時、先生が米寿を迎えられたことを知って、在京の同窓生と相談して、お祝いに羽根蒲団をさしあげた。千葉県船橋市のお宅に伺ってご馳走になったが、あの偉丈夫然たるお顔をくしゃくしゃにして喜ばれた。当日のことが今もありありと私の眼前に浮んでくる。

この花岡先生に対しては、われわれ悪童どもはそのお名前の安見を音読して「アンケンさん」の愛称をたてまつっていた。日露戦争生き残りの勇士で、いかなれば六尺ゆたかの偉丈夫であった。国語の時間などによく奉天戦争の話をかかせてくださった。塹壕の中で、敵の銃砲撃に對し、首は壕から出さず、両手だけをめくらうちをした話などは、大いに悪童どもをおもしろがらせたものであった。

この先生の時間はほんとうにおもしろかった。漢文の時には頼山陽の詩、中国の杜甫や白樂天の詩を暗誦してきかせてくれた。特に庄巻であ

まんびつ五人集

洋生・茶碗むし

安田 正義

(札幌支部)



盛岡の工藤久吉君から、バトンを渡されてとまどっています。どういう理由で小生のことが頭に浮んだのか理解に苦しむが、折角連絡があったのに執筆を断ることは、同君ならびに大阪の藝目君にも相済みぬことなので、これを書き出した訳です。

工藤君の想出のなかに、伴校長から芸者遊びについて注意されたことが書いてある。私も卒業の時同君同様あいさつにお伺いしてお邪魔したが、そんな粋な話はされなかった。おそらく同君は当時眉目秀麗な青年であったから、モテ過ぎて将来を誤ってもいかんと考えられて注意を与えられたものと思う。

私の場合は、銀行には入ったら、まじめにやるように、先輩や後輩に迷惑をかけぬようにとの訓戒をうけたと記憶している。

工藤君の場合とちがって、小生にはその訓戒を必要とする素質があったものと断ぜざるを得ない。いわん

や、芸者遊びについての心得などは一切云われなかった。三十五年前の当時を回想して、今は亡き伴先生の御厚意を深く謝したい。

そのとき、洋生をご馳走になった。どうしてそんなことを記憶しているかと云うと、先生は傍にあって、大きな菓子箱を開いて一ケを取った。箱の中は洋生がギッシリ詰っていたが、箱のまま出さずに一ケだけ出して曰く、そんなに食べられるものではない、ほしければまたあげよう。

箱のまま、さあどうぞと云われてもあまり好物でないから二ケは頂けない。まことに合理的なお話で尤も至極ではあるが、しかし、何か無然としたことも事実で、未だにそのことを鮮明に記憶している。

食いものの話のついでにもう一つ書かしてもらおう。

これも在学中、新婚の某先生を訪ねた、時間的な記憶がはっきりしないが、何んでも夕刻で食事前だったようである。

先生は大いにかん迎して下さって、さあ上れと云われる、お言葉に甘えて上りこんで大いに談論風髪をやった。そのうち新妻のおくさんが食べた



毎年三月ともなれば「螢の光」や「仰げば尊し」がきこえてくるのだが、今年は学園紛争とやらの余波で、この歌声がきこえなくなつたところが少なくない。

今とき「恩師」といふ題をかかると、若干時代はなれがしているとおっしゃる向きがあるかも知れない。しかしいつになっても恩師という語感はいいものだ。卒業生が街頭をおさえている卒業式的情景がテレビで写し出されると、何かジーンとしたものにうたれるのは私ばかりなのであろうか。

ところで恩師といえはまず学校の先生であるが、そればかりではない。私の場合、自分の今あるのに大きな影響をうけた方々はみな恩師である。小学校、中学校、そして小樽高商の先生のほか、俳句の先生があり、その数は少なくない。その中で恩師といえは必ず反射的に思い出され、しかも連鎖的に記憶によりみがえってくる三人の先生がいられる。その連鎖の絆は俳句である。もっと焦点をしばっていえば、奥の細道につながる先生である。いうまでもなく松尾芭蕉のあの大旅行の奥の細道である。その三先生というのは小樽の稲穂小学校の六年生の時に受けた漢文を教わった花岡安見先生、それに新瀉で俳句を始めた時、手をとって教えていただいた味方蕪吟先生、この三先生である。

細矢先生は秋田県象潟町のご出身

次回

金香島武鈴
吉川谷内木
信清喜武賢
吉夫明一吉(昭八)
吉(昭二)
吉(昭一八)
吉(昭一三)
吉(昭九)

事を出して下さった。かなり品かすが多くご馳走だったが、食欲旺盛なときだからペロリと平けて了った。すると先生はおくさんに、オイ茶碗むしもうないのか、あつたらあげなさいと云われた。

ここで本来なら、イヤもう沢山です、充分頂きました、と云ってお断りすべきなものであった。それを誠に遠慮のない話して、おくさんの出された二杯目に手を出した、そのときである。おくさんは、どんな味かしら、とか云われて、茶碗むしのなかの栗を一つつまんで食べられた、そして私にわたして下さった、栗の一枚少なくなつた茶碗むしを。

このことを今でもフト想出す、そして顔のホテルような感じになる。悪い時間に上りこまれて、折角おくさんが心をこめた料理、旦那様と楽しく食べようとした料理、それを心なき弟子に全部食べられて了った。

おくさんの最も好物の茶碗むしまでも。随分お邪魔して深更おいとましました。が、勿論おくさんは出てこられなかつた、心なき学生など見送る気持になれなかつたのか。

で、今なお健在で郷里にあって郷土誌の研究をしていられる。象潟という所は、芭蕉が奥の細道の旅に出るとき、松島とともに特にあこがれの地として望んで行った所である。今から二十年近くも前になるうか、私が日銀の秋田支店勤務となつてもなく、NHKから「朝の随想」という経済と趣味の問題をとりまぜた話を放送した。ところがその二、三日あと、銀行あてに一通の手紙がとどいた。差出人は細矢三三としてあって「先日放送の主の渡辺は、昔稲穂小学校で教えた渡辺ではないか」としてあった。「そうだと細矢先生だ」と思いもかけず三十何年ぶりで先生の消息を知ったわけであった。

私は次の日曜日にとんで行ってお目にかかった。先生は私を奥の細道に出でくる干満珠寺に案内してくだされ、秋の一日を楽しく語り合った。今もその感激を忘れることができない。一昨年夏に所用で秋田へ行つた時も象潟に立寄ってお目にかかつて来た。八十歳近い先生のお顔にも昔の面影ははっきり残っていた。ほんとうにうれしかった。

味方先生は私が新瀉に勤務した時の出会いである。新瀉も奥の細道のみちすぢに当たり、近くに出雲崎という所では、あの有名な荒海や佐渡に横たふ天の河の句を得ている。味方先生は俳句の達人であるばかりでなく、書道の名人でもあり、一面酒仙であった。私の家でよく句会をしたが、その後で酒をさしあげると、いかにもたのし

細矢先生は秋田県象潟町のご出身

仙台の寮歌祭

菅井 長平 (宮城支部)

八月六日、七日、八日は「名物仙台七夕」ですが、その翌日、九日午後四時から宮城県民会館大ホールで、東京における日本寮歌祭に次いで、地方第一号の仙台寮歌祭が今年も実施されるが、本年はその第三年目を迎えることになりました。

緑丘会宮城支部に対しても当初より主催側から参加方勧誘がありましたが種々の都合で参加するまでに至りませんでした。

しかし昨年の寮歌祭の頃から支部会員の中にも参加希望の声が多くなり聞えるようになり、その上仙台における寮歌祭は地域的にも東北・北海道の旧国立高専校は殆んど参加している実情から歴史的にもまた学校の知名度、格などからもその上位にありますわが小樽高商が参加していないことは何かしら画龍点睛を欠く

そうで「一枚書こうか」と言って、筆をとられることが多かった。その後で病氣と、めぐまれない家庭のため、友人と協力して先生の句集を編集してさしあげた。もう三十年も前になくなつた。今私の手元にその句集と数葉の短冊などが先生をしのぶよすがとして残っている。

さて花岡先生であるが、もう八年前に九十歳近い天寿を全うして長逝された。その少し前、私が東京にいた時、先生が米寿を迎えられたことを知って、在京の同窓生と相談して、お祝いに羽根蒲団をさしあげた。千葉県船橋市のお宅に伺ってご馳走になったが、あの偉丈夫然たるお顔をくしゃくしゃにして喜ばれた。当日のことが今もありありと私の眼前に浮んでくる。

この花岡先生に対しては、われわれ悪童どもはそのお名前の安見を音読して「アンケンさん」の愛称をたてまつっていた。日露戦争生き残りの勇士で、いかなれば六尺ゆたかの偉丈夫であった。国語の時間などによく奉天戦争の話をかかせてくださった。塹壕の中で、敵の銃砲撃に對し、首は壕から出さず、両手だけをめくらうちをした話などは、大いに悪童どもをおもしろがらせたものであった。

この先生の時間はほんとうにおもしろかった。漢文の時には頼山陽の詩、中国の杜甫や白樂天の詩を暗誦してきかせてくれた。特に庄巻であ

細矢先生は秋田県象潟町のご出身

恩師

渡辺 祥吉

(大阪支部)

練習は二回で、参加費は諸雑費で大体九万円の支出を覚悟していただきます。この「緑丘まんびつ」がみなさまの御手許に届く頃は恐らく新聞やテレビニュースに発表されましようが、一つの記録として書きとどめました。

次回は同期の鈴木賢吉氏にお願いします。(昭八 榊ヒロセゴム商会社長)

- (一) 学生服
- (二) 学生服
- (三) 学生服
- (四) 浴衣、袴
- (五) ズボン、Yシャツ

うらみを強く感じておりました。こうしたムードが漸く高まってきた矢先、たまたま昨秋実方学長の来仙を機に臨時支部総会を開きました席上、この寮歌祭が議題に採り上げられ、本年度参加が確認されました。最低三〇名、四〇名以上の人数を確保しなければなりませんので岩手、山形、福島各支部にも呼びかけており、目下その準備に大奮です。高商のマーク入り手拭や紋付羽織も一〇着準備しました。服装は各次適宜準備していただくことにしています。

今とき「恩師」といふ題をかかると、若干時代はなれがしているとおっしゃる向きがあるかも知れない。しかしいつになっても恩師という語感はいいものだ。卒業生が街頭をおさえている卒業式的情景がテレビで写し出されると、何かジーンとしたものにうたれるのは私ばかりなのであろうか。

ところで恩師といえはまず学校の先生であるが、そればかりではない。私の場合、自分の今あるのに大きな影響をうけた方々はみな恩師である。小学校、中学校、そして小樽高商の先生のほか、俳句の先生があり、その数は少なくない。その中で恩師といえは必ず反射的に思い出され、しかも連鎖的に記憶によりみがえってくる三人の先生がいられる。その連鎖の絆は俳句である。もっと焦点をしばっていえば、奥の細道につながる先生である。いうまでもなく松尾芭蕉のあの大旅行の奥の細道である。その三先生というのは小樽の稲穂小学校の六年生の時に受けた漢文を教わった花岡安見先生、それに新瀉で俳句を始めた時、手をとって教えていただいた味方蕪吟先生、この三先生である。

細矢先生は秋田県象潟町のご出身

まんびつ五人集

ったのは国語の時間に芭蕉の奥の細道を朗誦されることであつた。これは何年かの間に兩三度とはかきならなかつた。「月日は百代の過客にして行きこう年も又旅人なり、舟の上を生涯をうかべ、馬の口とらえて老をむこうるものは日々旅にして旅を栖とす」で初まるこの名文の始めから、芭蕉のこの旅の最大の目的である松島や、象潟、それに平泉でのくだりはことにおもしろかつた。

「そもそもことふりにたれど松島は扶桑第一の好風にしておよそ洞庭、西湖を恥じず。……造化の天工いずれの人か筆をふるい詞をつくさん」これを朗誦するときのアンケンさんは、目をとじて天井を仰ぎ、教壇上を右し左しして、ご自分の声に酔つたごとくになられるのであつた。

「さても義臣すぐつてこの城にたてこもり、功名一時のくさむらとなる。国破れて山河あり、城春にして草青みたりと、笠打ちして時のうつるまでなみだおとしはべりぬ」夏草や兵どもが夢の跡」

のあたりになると全く教室中を魅了し多感な少年の血をわかせるに十分であつた。恐らくはこのころの感激が、後の私を俳句の道にすすませる大きな力となつたことは疑いないよである。

私の中学や高商の時代は別に入試勉強をするでもなく、しごくのんびりしたものであつたし、一クラス五十人までで親しみやすく、よく先生の所へもあそびに行き、また叱られ

もしたものである。それに私は弁論部に席をおいていたので、アンケンさんにはことに教えられるところが多かつた。今は学園紛争で、集団交渉だ、つるしあげだど胸のいたむことが多しうだが、それでも先日共闘派学生が先生に献血をしたというニュースをきいて、個人としては、やはりこういう面も失われていないのだからと、何かホッとした気持ちになることができた。

恩師というものは、年をとつてから考えると一層しみじみとしたものを感じるようだ。そういう暖かな思い出をいだいて卒業してもらいたいものである。次は武内武一さんをお願いいたします(昭二 大阪銀行協会)

パリばんざい

大木 弘基 (大阪支部)



久しぶりに日本を離れて故国を振り返つてみると、今更のように日本がいかに狭苦しく思われる。最近道路でさえも、なんとなかぬせかせかとゆとりがないような気がする。人口密度の高いオランダへ行つても、せせこましさは全くなく潤滑などころかな田園風景に魅せられた。

ホテルは、やはりパリが一番良かったと思う。安いシングルルームで鏡と洗面台とビデーだけしかないところでも、オーデコロン、バスソルト、ハミガキチューブ、縫糸針の

越な感情はないかも知れないが、社会的人間関係の権威の存在を認識した何かが一敢て良識といおう。私達の行動原理となつて来た、そしてそれは又、時代の変遷や社会の文化的経済的構造の変化と人間関係の下に常に変容を示しつつある。

私はこうした流動的な思考過程に行動原理としての意義を見出した。手をさしたのべてなおすねる子の親の心境もあろう。また社会人として本能的な身構えを感じる時もある。しかし親には辞職は許されぬ。大学教育の場においては教官も学生も当事者である。どうか息長く深い愛情と忍従の上に対処して欲しいと思う。殆どが昔と変わらない港や街のたたずまいが眼下に広がる。青い海には四、五隻の船が静かに浮んでいた。もやがかったような空を眺めているうちに数々の学友達の姿が今会つて来た学長の顔と重なりあつて眼に浮んで来た。

この学友達と現在の学長とは面識もない筈だが私はそこに断絶は感じない。また先程管理とうの入口でうづくまるように話こんでいた数人の学生にも疎外感を感じない。歴史の流れから見れば粟粒のような出来事かも知れないが私は改めて人間への悲しく力強い信頼感を覚えた。午後地獄坂で、先を行く学生の肩口に街路樹の青いかげがおちていた。次回は札幌支部の事務局として種々お世話を願つている同期の島谷喜明君にバトンをお渡しします。(昭一八 税理士)

まんびつ五人集

セツト、タオル地の半でんなどが備えつけてあつて、最後のガウンを除けばすべてコンプリメンタリーなものである。客用にこれだけのものを揃えたホテルは、經由六カ国のなかでパリだけだつた。接客態度もきわめていんぎんであつた。又、一般的にいって、さすがパリは世界的観光都市だけあつて、名に恥じず街ぐるみツーリストにエトランゼを感じさせず、ホスピタリティが横溢しているように受けとれた。

ご存知の通りワインのコレクションを手際よく抜くにはコツがある。どこの国の給仕頭でも、いわゆる酒番でも、またパーチンダーでも、客の前でワインのコレクションを抜くのに、その手さばきの早さ、スマートさを得意とするもの。パリではホテルの食堂はいわずもがな、街のレストランでもほとんど一定の栓抜きを用い、コルクにねじ込むなり瓶口の傍へコルク抜きを押しつけた金具をあてて小気味のよい音を立ててあけてくれるのが気に入つた。参考までにひとつ買って来たが、もちろん「フランス製」の刻印が押しあつた。

さて、もうひとつパリで気に入つたことは、大抵一五五程度のサーピス料込みのところが多く、これは日本の場合と同様に、余程のサーピスをしてもらわぬ限り、別にチップについて気を配る面倒さが省かれるので大いに助かつた。ところで最近、各国ともホテルの新築、増改築が盛んで、激増するツーリストの受け入れ態勢づくりに、そしてサーピス

改善にと苦心していることがうかがえる。アメリカの三大企業群、すなわち、ヒルトン、シェラトン、ウェスタンインターナショナルおよび、今度初めてアメリカへ進出した英国のグランド・メトロポリタン・ホテルグループと、大資本が脚光を浴びているが、そのホテルサーピスの手本は、やはり「パリ」なのではないだろうか。同期の香川氏に次回を(大二三 ボルネオスマトラ商事(株)社長)

紛争雑感

坂井 貫一 (札幌支部)



突然寄稿の催促を受けた。未だ投稿の経験もなく、卒業以来四度も職を換へ、日常は冷徹な数字の計算と、納税者の重苦しい不安と焦燥を背負つて税務署の門をくぐり、その乾燥と陰湿の間に埋没して、常に自らを見失う恐怖に悩んでいる私などには、ものを書きなど益々苦しいことだが「まんびつ」の四字に救いを覚えてやつとペンをとつた。

この八月十五日に予定されている緑丘戦没者慰霊塔の式典準備打合せの為同僚数人と久方ぶりに学校を訪れた。校門を入ると右手の管理とう(旧雨天体操場)の壁一面には「大法学立法反対」等かずかずのアジビラが一面に貼られ、正面本部への坂道中途には持ち出された机や椅子が

日本が生んだ世界のワイン

数かずの国際ワインコンクールで四〇個以上のメダルを受賞



ハチキャノンワイン

ゆたかなコク、まろやかな舌ざわり合同酒精が、ワインの本場フランスポルドー地方の流れをくむ伝統ある日本でただひとつのワインづくりの殿堂「牛久シャトー」で丹念につくりあげた最高級の正統派ワインです。

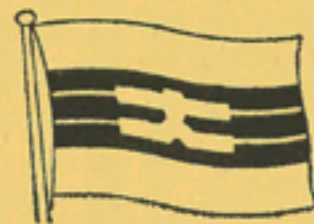
ゴールド(赤・白) 720ml 6000円
シルバー(赤・白) 720ml 4000円
スター(赤・白) 720ml 3000円

掛金は満期に実る 住宅と家財の保険

住友の長期総合保険

住友海上火災

本店 東京中央区八重洲口2-1
電話 サービス専用 東京 272-2056
札幌 23-3591



Mitsui O.S.K. Lines

大阪商船三井船舶株式会社

取締役会長 進 藤 孝 二

東京都港区赤坂5丁目3番3号
電話 東京 (584) 5111 番 (大代表)

(まんびつ執筆者)

- (客員) 松尾元教授、椎名元教授
- (大三) 高橋徹男、下吹越栄吉
- (大六) 伊東小四郎
- (大七) 白瀬治三郎、金栄西吉、草野義一、松浦文太郎、岡田栄吉
- (大八) 戸井正三、大野純一、三好長次、増井得三、谷本朋次、郡菊之助、西村百太郎、松本義一、大山謙吉、広岡一男、福田誠、藤居元三
- (大九) 菅谷重平、奥村義信、小島憲市、奥田直
- (大一〇) 大谷敏治
- (大一一) 宮地邦介、小橋庸三、杉山昌作、神沢重治、梶川亨司、功刀素重、越崎宗一、大泉行雄、中田新平、中瀬秀一、松岡俊一、大田省三、井上巖、四谷宗義
- (大一二) 田中弥三郎、塩谷精一郎、大久保鹿次、大井義郎、渡辺一夫、小河成美、池田繁正、田中実、穴釜升夫、玉井武、日南田美文、佐藤信雄、若林周五郎
- (大一三) 古関周蔵、大木弘基
- (大一四) 畑信太郎、片岡亮一、小武海鉄郎、松原治郎、森下弘、北村良吉、桐田鉄郎
- (大一一五) 増田常次郎、中野清一、白木小一郎、近藤徳弥、津久井七雄、大平善裕、西野嘉一郎、竹内隆、吉田荘太郎、祐村脩平、松村義公、川上貞光
- (昭二) 黒羽秀夫、牧野吉男、岡田政治郎、堂城不二人、友沢和一郎、小貫武、手島恒二郎、山中晴雄、太田英治、広瀬久一、石田平八、
- 中沢勝平、加藤正善、古川敬止、清水文男、茂垣英夫、岩岡秀三、小西征夫、矢野健太郎、陸田清、実方正雄、渡辺祥吉、近藤巴芳、鳴滝仁雄
- (昭三) 佐竹繁寿、樋山三郎
- (昭四) 小山健児、湊静男、高橋一男、玉井英雄、宇山慶三
- (昭五) 池田啓助、井藤久也、吉田友記、北村太治郎、横井七之助
- (昭七) 八家要、鹿島景策
- (昭八) 土岐秀雄、本間広松、小池三郎、高見美雄、会津幸雄、鈴木三七、遠藤周寿、小林正雄、菅井長平
- (昭九) 梅野弥太郎、塚越誠、本田正一、藤井幸男、工藤久吉、安田正義
- (昭一〇) 篠崎万治郎、若月雅司、北村匡弘
- (昭一一) 浅野潔、土屋龍郎、木下春雄、三崎嘉郎、島崎保信、中尾弘、中道良徳、川原俊一、松井要吉、進藤彰、越崎清二、中木平三郎、丸山一郎、紫竹亜津視、秋葉隆一郎、藤田英三、本間誠一、鎌田正三、木村頼雄、小林啓作、角谷榮作、上野茂、村山重三郎、国安猛、小島典春、砂子沢正、小池輝男
- (昭一二) 内藤好生、皆川荘一、矢野正郎、宮内美雄、木内武之助、牧田恒雄、本間英作、森川正明、石川孝一、浅田厚、岡田保司、山村太兵衛、佐々木成彰、岡本元次、立石市郎、佐藤清治、山下政道、高橋景則、金三郎、須永誠一、白瀧良造、曾根重四郎、大井健一、梅原音次、森川正明、岡田
- 春夫、加藤勇、福田政治、浜中学
- (昭一三) 江川裕一郎、若山永太郎、木村章三、山本俊雄、松ヶ野寿夫、丸山弥、平木勇三、金垣英雄、柳川憲夫、西谷作太郎、森川正明
- (昭一四) 井原利勝、大沼誠治、北村幸、谷英純、沼田博、太田正勝、老岐隼雄、河西辰男、沢村重一、石黒政夫、三浦正、飛塚誠一、竹島篤二郎、金井勇、八木安、野村鉄太郎、福地貞雄、櫻村久好、尾崎哲平、沢井道成、隈田鑽三、市橋宏一郎、内藤義信
- (昭一五) 柿本恒一、北條恒一
- (昭一六) 相原正美、相田正、河上鎮男
- (昭一六後) 中村平之助、小林芳美、松村克己、山内孝、杉原貢、久保宗司、若林幹一、阿部英一
- (昭一七) 柳谷真一、長尾昌弘、桑野泰次郎、阿部敬作、越智直行、山田光男
- (昭一八) 亀井尚一、湊誠、島田恵治、田森誠一郎、七戸真次、松沢久隆、一柳悦蔵、大橋啓男、野中雅夫、今栄蔵、大津博士、竹山涼一、坂井貫一
- (昭一九) 高山博男、荻村茂雄、赤津俊樹
- (昭二〇) 牧口富伍、福田和、服部奎吾、北野巧
- (昭二五) 我満博仁
- (昭二九) 古内一成
- (昭三〇) 石津洋三
- (昭三一) 小田島和夫
- (昭三五) 佐藤良雄、本前勝支朗、長津行高、猪浦淳一
- (昭三六) 神田隆志

まんびつ執筆者 ベスト5

- まんびつ五人集も創刊以来十二年目に入りました。
- 執筆者の筆頭は昭和十二年卒の十九名で以下次の通りです。
- 大正十年卒は今回がはじまりですが同期生全員ががちりバトンタッチ願います。
- 執筆拒否のないように次回の方へ連絡してあげて下さい。
- 第一位 二十九名(昭一二)
- 第二位 二十七名(昭一一)
- 第三位 二十四名(昭一〇)
- 第四位 二十三名(昭一四)
- 第五位 十四名(大一一)

▲まんびつ執筆者へお願い▼

毎号ご多用のところへ同期の方、或は友人(先輩、後輩)に彼の其の後はどうしているだろう、彼に一筆近況なり、ビジョなり、懐旧談なりを是非書かせて見たいという気持ちからご指名になっておられますので必ずご執筆下さいませようお願いします。

また毎回執筆の方からは次の方へバトンをタッチした旨を一筆ハガキでも出してあげていただきますれば幸いに存じます。

ご投稿が遅れますとこの「緑丘」が遅れますので簡単でもご連絡下さい。

三十八年六月、中野清一先生ご夫妻を札幌に迎え、藻岩山にご案内したときの写真である。先生ともお久しいが奥様とは実に二十数年を隔てた再会であり、事ごとに懐かしさが先に立った。展望台への道すがら路傍の草花についての奥様の博物誌は愈々精彩があり、聴き手は今度も先生

(右) 書齋の梅津正一氏
(下) 藻岩山の中野先生夫妻と梅津夫人

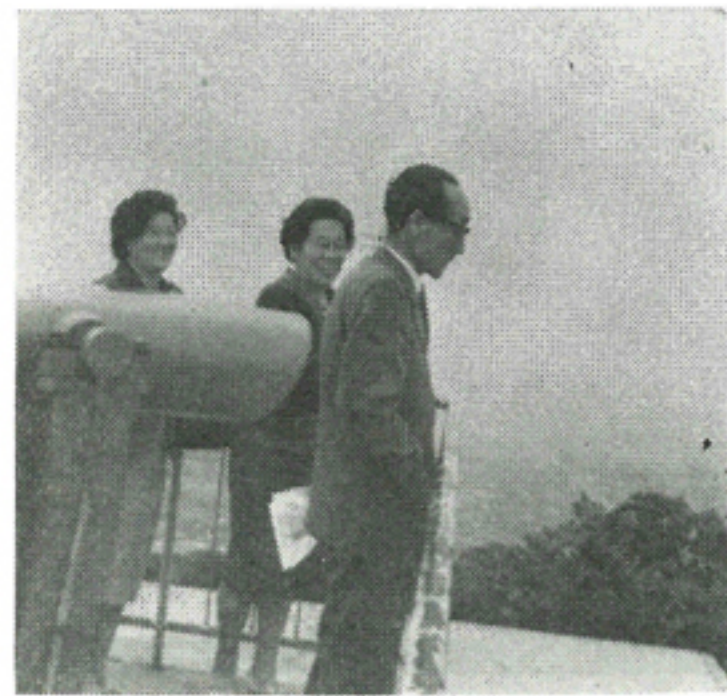


僕の書齋

梅津正一 (昭8)
北海道ミンク農業協同組合

と私だと大いに笑った。ご一泊の夜は北大の鎌田正三兄も加わって、一段と賑やかになり、その時の録音が今や珍重すべきものとなって居る。

さて中野先生のことからこの文章が書き始められたことには、私自身深い意味がある。というのは「僕の書齋」は先生によって培われ、先生なくしては到底書物に親しむ風は定着し得なかつたであろうと考えられるからである。こう書けば先生には、甚だご迷惑をおかけすることになる。今の私に別段の系統的な書物があるわけでもなく、書物に打込む程の日常があるわけでもない。それでも並べられた本の中に在るとき、安らぎがあり、私に充足感がある。その私の書齋は西面する六畳間だが、常に多目的で隣りの客間に越境する。絵具を弄る時は之が長期となり、不時の来客には少なからず狼狽する。更に私にはながら族の系列もあってか、こんなときは概ねレコーダなどの伴奏があり混乱は倍加す



る。従って仮に私に住宅全面取替の時期が来たら書齋と客間はゆとりがあり、截然と区別したものでなると考える。だがゆとりをもってという所で時間は間違いなく大巾に後退する。

よく書は人なりというが、書齋また人なりではなかるうか。中野先生の書齋は訪れるべくして未だ果してないが、先号の緑丘誌でその寸影を拝見し、この感を一層に深くした。以前に北海道銀行会長の島本融さん宅を訪れたとき、書齋に招じられて、まずその夥しい蔵書に圧倒された。積んで天井に至る経済書は戦前独乙に在って研鑽ただならぬ業績の積みである。書物の間に残された壁面には野口弥太郎の油彩が架けられ、アクトセントのある書齋の空間を形成して居り、之はやはり島本さんのものであった。この書齋で札幌交響楽団の生誕の幾段階をご相談したのだが、それもすでに八年余の前のことになり、今にして札幌今日あるのは島本さんのご厚庇あつたことと改めて思わずには居られない。

終りにもう一度中野先生のことに戻す。拙宅にご一泊を頂いた朝、先生は客間の隣りのわが書齋らしきものを瞥見された。それについて奥様に話されたのを、少しあとで奥様からお聞きした。「梅津君の読むものは、やはり私と似て居るね」と。先生の学問側々たるものあり、今に忘れる言葉ではない。

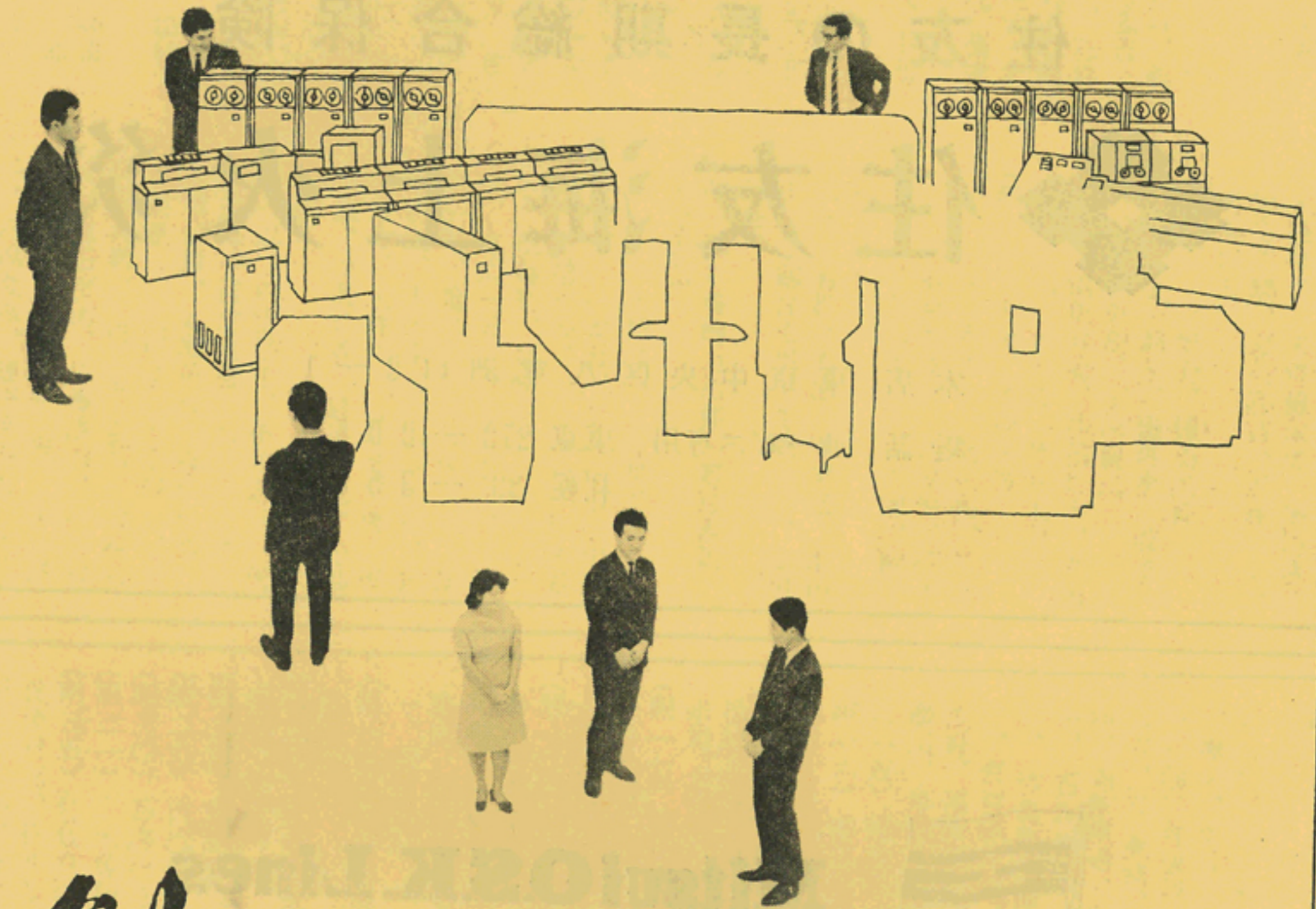
よく書は人なりというが、書齋また人なりではなかるうか。中野先生の書齋は訪れるべくして未だ果してないが、先号の緑丘誌でその寸影を拝見し、この感を一層に深くした。以前に北海道銀行会長の島本融さん宅を訪れたとき、書齋に招じられて、まずその夥しい蔵書に圧倒された。積んで天井に至る経済書は戦前独乙に在って研鑽ただならぬ業績の積みである。書物の間に残された壁面には野口弥太郎の油彩が架けられ、アクトセントのある書齋の空間を形成して居り、之はやはり島本さんのものであった。この書齋で札幌交響楽団の生誕の幾段階をご相談したのだが、それもすでに八年余の前のことになり、今にして札幌今日あるのは島本さんのご厚庇あつたことと改めて思わずには居られない。

さて焦点が書齋から音楽会とどう揺れ動いては本稿もいつかな終らない。だが之がわが書齋を語るにふさわしい叙述かもしれぬ。そもそもわが書齋のありようは多目的で中心が定まらないのだから。その主人公の如く。

B システムを創造する(高千穂交易)

経営を創造的にさせる「七人の侍」

セールス・エンジニア システム・アナリスト システム・エンジニア プログラマー
インストラクトレス サービス・エンジニア そして あなた自身



創造

経営の目的にそって、コンピューターをいかに効率よく動かすか、そのための組織はどうあるべきか……。コンピューターに造詣の深いスペシャリストたちが、あなたと一体になって分析し、考え、提案していきます。事務ラインの検討からはじまるシステム創り、さまざまな分野で発揮される専門知識と豊かな経験。高千穂交易は、創造の精神をモットーに、企業の実状に最も適したシステムを創造する、技術の商社です。加算機からコンピューターまで、1000機種におよぶパロース製品。あらゆるマネジメント・ツールを通じて、高千穂交易は創造的経営をめざすあなたの企業の、良きアドバイザーでありたいと願っています。



電子計算機 / 会計機 / 加算機
ビジネス・フォーム / 電子部品
アンコール・カーボン
高千穂交易

緑丘昭二会全国懇親会開く

昭和44年6月7日 於京都



三佐小 小 広広福矢酒 前 渡岩早 石 石西高近右陸中 中 鳥長古山関坂大友加黒 後
原藤貫人 夫貫人 夫瀬 瀬原野井 辺国川(与)田(平)田村木藤田田沢 山野川崎根井沼沢藤羽

昨年からの宿題になっていた昭二会全国懇親会について具体的な検討に入ったのは一月の緑丘会大阪支部新年会の時、とも角京都でやろうという事にきめた。それから緑丘会関西支部総会の日取りとかみ合わせるよう大休六月上、中旬の腹案を立て、京都開催の特色を生かすために翌日の京都市内観光を盛り込むこととし、京都方面の会員とも具体的相談に入った。東京方面の世話人にも打診したが、これも賛成を得られた。会場については、もっと郊外の閑静な所との意見もあったが、参加者の便利などを考えて京都市のド真中にした訳であった。石田支部長と一緒に会場、観光予定地の下見をし、所要時間を測る等して、本きまりとなったのが五月六日であった。

ところが、初出席の回答をいただいたのは夫人同伴を加えて三十四人であったが、急用や病氣などで出席できなかった方もあり、最終的には三十人となった。中でも実方学長が突然の大学封鎖でご出席を得られなくなったのは痛恨の至りであった。それでも釧路を初め北海勢が多く、また中沢君のようにパリ滞在をきり上げて間に合せてくれたのは有難かった。

さて当日は事前に見物をすませた人もあったが五時には全部そろい、定刻六時に記念撮影、石田支部長の歓迎のあいさつ、

石田興平君の乾盃で開宴、石田君お心づくしの舞妓をふくむ美型連の踊りがあり、酒間幹旋がにぎやかに行なわれ、夫人方も最後迄座を立たれなかった。終りに陸田君の長唄鶴亀と校歌、進軍歌、今ははやの合唱で第一日の予定を終って、あとは室々での懇談となる。

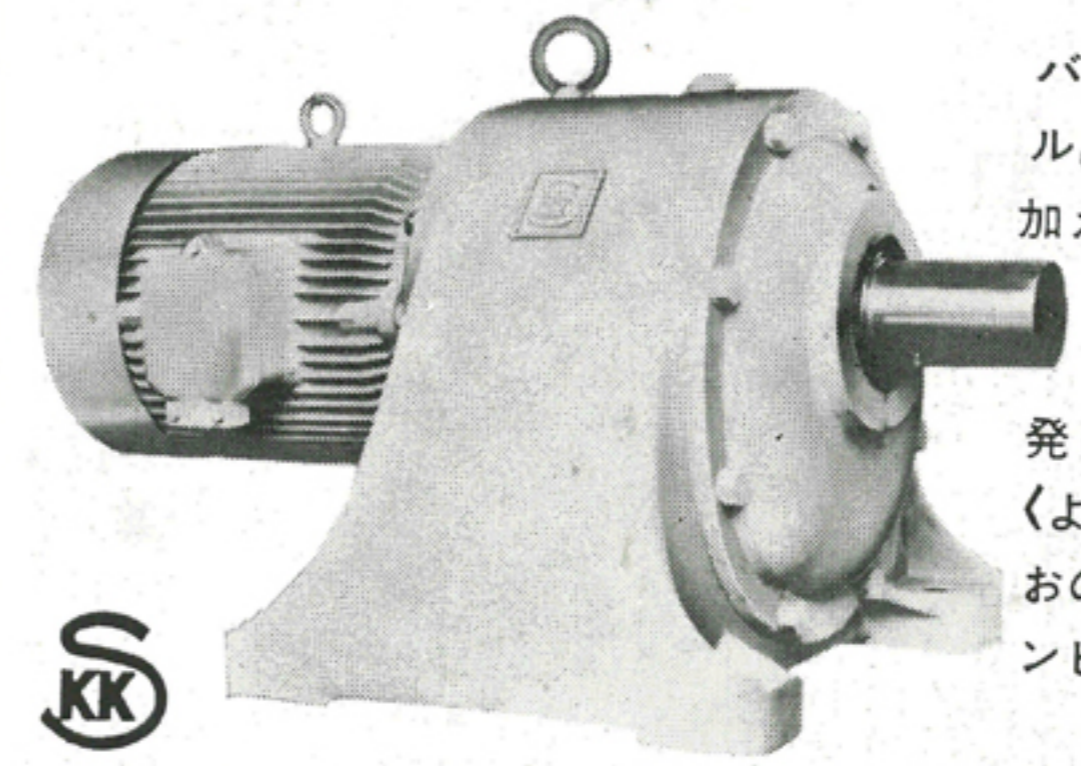
翌日は第二部が開幕。目をさますと東山から昇る太陽は美しく歓迎の笑顔をなげかける。今日はすばらしい天気だと一同心はずむ。朝食の間に世話人から欠席会員の消息などが報告される。それから実方学長に對し「学園問題にて日夜御健闘のこと感謝にたえず、早期円満なる解決のため一層のご尽瘁を願う」との打電をすることとした。そして来年度は北海道で開催することに満場一致した。

やがて九時三十分バスに乘込み市内観光に出発。智恵院―平安神宮―詩仙堂―国際会議場―南禅寺(門前の順正で名物の湯豆腐と田楽で昼食)―光悦寺―嵯峨野―大覚寺と、まず京都をひと巡りした形で遊覧する。平安神宮の朱塗の神殿、南禅寺南門の雄大、詩仙堂、光悦寺のさび、南朝の御所であった大覚寺の結構と、それぞれの特色から古都の良さを存分に味わっていたかと思ふ。この日は天気が殊の外よく、我々の行く所必ず新緑の美しさがついてまわってくれたという事は何よりの幸いであった。こうして京都タワーでのお別れのピヤパーティを以て終りをづけ、お互の健康を祈り、再会の日を約して別れた。

今年の会は翌日を利用したため、

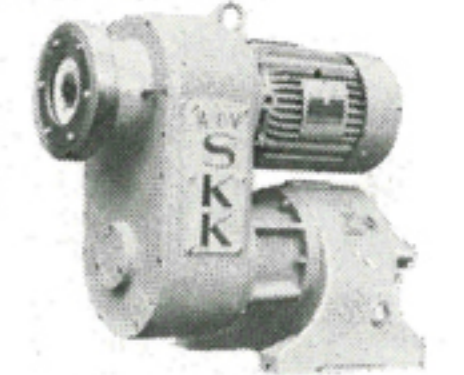
SKK AF形ギヤードモートル

■あなたの工場にプラスする強力コンビ



バランスのよさで定評あるAF形ギヤードモートル。AF形に芸術的な感覚を加えたAIV形無段変速装置ギヤードモートル界のパイオニアSKKが開発した自信作コンビ(より高能率、より高精度)をおのぞみなら、このSKKコンビをご採用ください。

SKK AIV
ステップレス
〈無段変速装置〉



株式会社 精機工業所
社長 龜山 亨 通雄

本社・工場 〒661 尼崎市上坂部467 電話大阪(06)429-5921(代)
支店営業所 東京・大阪・福岡・名古屋・札幌
大阪営業所長 河上鎮男(S16年前期卒)

千代田火災海上

企業と家庭を守りつづけて72年

- 本店：東京都中央区京橋1-3 (535) 4671
- 名古屋支店：名古屋市中区上前津町66 (331) 8411
- 大阪支店：大阪市東区大川町66 (203) 2161
- その他支店：全国主要都市

緑丘十三会 東京だより

時一五月二十一日午後五時半
所一ステーションホテル

お互にゆっくり語り合う時間が持てたことがよかった。夫人同伴が初めて実現したが、これは今後もっと多くしていきたいことを提案していただきたい。なお今度の会の運びには、札幌ビールの京都の店の方が設営から、会の当日、殊に市内観光には面倒な庶務を一切やって下さったことに深甚な御礼を申し上げておく。

（渡辺記）

昭二会にて詠める 牀羊
集う友へ車いそがす野の五月
北ゆ南ゆ友迎えんと比叡青嶺
京をめぐる峯に五月の雲かがやく
京春宵寝惜しむ鐘がどこからか
再会誓ふ睡蓮花をとつるとき

編集部へ

豪雨続き被害はありませんでしたか、神戸垂水区の近藤已芳君宅、先生崖崩れに逢い未だに不安な山頂にあり、今回も隣家が崖の下に転落せる由不安で雨の夜は寝られぬという、同情しています。

昭二 中沢勝平



前列 中尾 久木 水上 久保田 立花 奥平 大谷 古関 門間
後列 大野 桐野 森 廣中 近藤

卒業四十五周年記念小樽大会を六月二十一日に控えて、本年度東京第一回の会を開催に漕ぎつけた常任幹事古関君は流石にホットした感じ、秘書氏を帯同して、開会前並に食事中盛に記念撮影をさせて居た。桐田君は初めて、奥平、近藤君は久しぶりという訳で、始めから話が弾んでいた。

古関君最近第一線を退く事になったため、事務は事務所と秘書の居る田中君に引継ぎ度旨発言、全員の承認を得た。七月初めから、従来千代田火災が田中君の居る共栄火災に代るから御含み頂き度い。

勿論古関君の常任代表幹事は従来通りである。大野先生から母校の合衆式の旗の...

相をチョツピリ御聞かせ頂いた後、古関君の御苦勞に感謝する挨拶を頂き、一寸古関君の送別会の様相を呈して来たが、永い間中心となつての御尽力は全員の等しく感謝に耐えないところ、誌上を藉りて御礼を申し上げます。

次いで、目下函館の病院で闘病中の井上保君の事に就て谷より報告、出席者より御見舞の寄せ書を頂いて郵送した。井上君の喜びが見えるよう。快癒を祈るや切。

小樽の大会出席者は今回出席者の内でも十一名を数え、盛会が予想される。小樽の帰途函館へ廻る希望者五名に就ては、函館の方へ其旨連絡手配して貰う事にする。其の後古関氏より経理内容について報告あり、残金約七万円は帳簿と共に新事務所へ移す旨報告あった。

以上報告、協議を了り、懇談の上七時四十五分散会。久しぶりに心暖まるいい晩だった。皆ニコニコして再会を約して散って行った。

(谷記)
出席者 大野先生、水上、桐田、大谷、近藤、立花、広田、高浜、門馬、奥平、田中、久木、森、中尾、久保田、古関、谷
以上十七名

北斗寮碑文は高橋先生が

北斗寮碑文は古関周蔵氏が信州を訪問して、高橋益実先生(第二代・北斗寮舎監・フランス語担当)に揮毫を願った。八月下旬から刻みはじめ十月中旬には出来る予定。

オランダの花の群れ、アンデルセンのコペンハーゲン、古雅なロンドン、華麗なパリ、堅実なゲーテの町、フランクフルト、それぞれに持味があります。明日はモンブランに登って見るつもり。(バスで)

マドリッドを経てナイゼリアに戻ります。これも勉強の一つです。忙しく歩きまわって見ました。大阪ではいつに変わらぬ親切ありがとうございました。緑丘同期のみなさまによろしく。(フランクフルトから)

江口君の出席はこの会するものにもまた珍しかった。江口君は熱心に一人宛フラッシュをたいて写真を撮影してくれた。(みんなにその腕のよい所を一枚宛お届けください。その御苦勞にこの紙上をかりてお礼を申し上げます)

雑談、回顧談で思わない楽しい一時をもった。再会を期して八時過ぎ解散した。

同君の現住所は
H. Yamasaki
ADMINISTRATIVE MANAGER
AREWA TEXTILES LTD.
P.O. BOX 288
KADUNA A. NIGERIA

山崎君から皆さんへ
五月二十九日夜、羽田発北極回りでアムステルダム着。

昭和十一年のみなさんへ

繰り上げ三十五周年記念が近づき、名簿作成のため、用紙を近くお届けしますので至急記入下さいませ様にお願いします。

この用紙代は私が立替え、発送について墓目君に封筒、宛名書き、切手代もお願いしましたので会計係の浅野君の方へ今後の連絡費として五百円宛送っておいて下さい。(小池)

木村清藏氏(昭九 大阪商船三井船舶取締役) 七月十二日東京・浜松町の東京慈恵会医大病院でスライ臓ガンのため死去。五十五歳。兵庫県芦屋市出身。葬儀は十七日正午から東京・築地本願寺で行なわれた。

自宅は神奈川県藤沢市円行五一五の二。喪主は妻、和子さん

昭一一・大阪の集り

アフリカ・ナイゼリアから

山崎英夫君を迎えて

アフリカへ五年程前に出発した山崎英夫君が五月ばかり現われた。大阪・ニチポー株式会社勤務中の時と少しも変わっていないが、アフリカの太陽に照らされて汗が流れたせいか、中年になるとどうしてもその汗のため皮膚が荒れシミが多くなるという原理に従って彼の顔には一寸シミが多くなった。しかし元氣一杯でなつかしかった。

小池連絡係は早速同期に連絡をとり、梅田新道ザボンに集った。山口、進藤、夙、小池、島崎、土屋、墓目。山崎君はなつかしい一同の顔を一人一人見つめていたがやっぱり直ちにそれが誰れであるか分らなかつたのは二三人おった。ただ名前を聞いて学生時代の顔と比較するばかりであった。

山崎君の出席はこの会するものにもまた珍しかった。江口君は熱心に一人宛フラッシュをたいて写真を撮影してくれた。(みんなにその腕のよい所を一枚宛お届けください。その御苦勞にこの紙上をかりてお礼を申し上げます)

雑談、回顧談で思わない楽しい一時をもった。再会を期して八時過ぎ解散した。

同君の現住所は
H. Yamasaki
ADMINISTRATIVE MANAGER
AREWA TEXTILES LTD.
P.O. BOX 288
KADUNA A. NIGERIA

山崎君から皆さんへ
五月二十九日夜、羽田発北極回りでアムステルダム着。



(中央) 山崎英夫(左) 土屋



(左) 小池、進藤、夙(右) 島崎、江口



(手前) 栗山(向側) 山口、江口、夙、進藤

緑丘会関西のトップ切つて 京都支部総会開く

六月二日 於 飛雲

在洛緑丘人は五月も半ば過ぎると誰れしも支部総会の案内を心待ちにしている。本年も総会案内状が、京滋緑丘人に送られた。
「来る六月二日午後六時。京・木屋町三条上ル鴨川畔「飛雲」にて支部総会開催」と。



く比較の姿が夕日に輝き、あたりが紅くもえる。
定刻を前に三三五集まり来たる面々、第一着は本日の来賓小林象三先生、続いて山村幹事長、中野清一先生他続々つめかける。さっそくの支部総会開始か、いな久方振りの互いの壮健を喜びあうの図である。
総会は山村幹事長の司会のもと、森下支部長の挨拶に始まった。冒頭森下支部長は本日御来席予定の実方学長が目下来阪中ではあるが、母校



の事態が寸刻の油断も許さざる状況につき、たとえ見えても即時帰郷するやもしれず、残念ながら御出席断念せざるを得ぬ旨報告あり。続いて来賓の大阪支部長目英三氏から、大立立法問題で荒れる母校の近況につき、さながら実況録画をみるが如くの詳細な報告があり、一同母校の平穩無事を念じることしきり。
また、小林・中野両先生からは、学生をあずかる御立場から、今日の大学問題についての生々しい御苦勞話もあり、一同深く大学問題の難儀さを知らされる。
恒例の自己紹介が進む、京都森下支部長が北海道の市はいくつあるかと質問を発し頭の体操よろしく二十九の市を全部い当てるといふすばらしい若い頭脳を披露する。固い話の中にも一同次第に和やかな雰囲気につつまれ、最初のウマサが持続するビールにつられ、勇ましく応援歌も飛び出すにぎやかさと変っていった。本年は久方振りに御出席の中野先生の他、はじめての出席者も多く、大いに歓談、飲み、喰い、くしたものである。名残りつきない会は九時ちょうど校歌の大合唱とともに終りを告げることとした。
当日の出席者は左記の通り。
御客様
小林象三先生
目英三氏 (大阪支部)
矢野正郎氏 (福岡支部)
支部会員
森下弘支部長 (大正十四年)
桐田 鉄郎 (大正十四年)
中野 清一 (大正十五年)
山村大英三 (昭和十二年)

北海道中央バス株式会社

社長 松川 嘉太郎
専務取締役 杉江 猛 (大正14年)
小樽市色内1丁目8番6号



名古屋支部総会

五月三十一日
場所 庄 円

- 堤 正五郎 (昭和十五年)
- 高木 正夫 (昭和十五年)
- 中村平之助 (昭和十六年)
- 川浦 広 (昭和十七年)
- 高橋 正彦 (昭和二十六年)
- 小田島和夫 (昭和三十一年)
- 曲淵 正 (昭三十三年)
- 飯竹 健三 (昭和三十四年)
- 木嶋 正 (昭和三十五年)
- 笹島 康平 (昭和三十六年)
- 坂本 健次 (昭和三十六年)
- 石丸 祥年 (昭和三十七年)
- 今 俊明 (昭和三十八年)
- 古水 祥進 (昭和三十九年)
- 近藤 紀夫 (昭和三十九年)
- 中野 靖夫 (昭和四十年)
- 渡辺 捷弘 (昭和四十二年)
- 酒井 克臣 (昭和四十二年)
- 鳥山 陽一 (昭和四十四年)

(文責 今)

五月三十一日、緑丘会名古屋支部総会が、テレビ塔西の円庄で行なわれた。

当日は生憎と月末日の土曜日であったので出席者には、大変やりくりをして頂いたわけであるが、それでも十六名の参会を得て、盛大な総会であった。
会場には、浜井支部長(昭12)持参の色あせ、裏打ちされ、古色蒼然とした応援旗が掲げられ、会場のムードも一段と昂った。
席上、浜井支部長より実方学長は学園封鎖のため出席できない旨の報告があった。

五月二十五日の道新聞によると、「教官代表坐りこみ」樽商大封鎖の自主解除促す」というショッキングな見出しで、大学では教授、助教授、講師の全教官が交替で、テントの中に炭火をおこし、レインコートの中を立って、学生の封鎖解除を促すために、坐りこみを続けている。

更に翌二十六日の道新では、「樽商大の伊藤学生部長、紛争に疲れ辞任、新学生部長は、藤井栄一教授に」とか、二十日の毎日、読売には「学長先頭に大学立法反対、大学の自治を守れデモ行進」とか、東京、大阪での大学紛争を遠いものに感じていた我々にも、愛する母校が紛争の大きな渦の中に巻き込まれ苦悩している姿を身近かにして、なんともいえぬ焦燥感に駆りたてられた。しかしながら、学長を初めとする大学側の問題解決に対する真摯な態度は出席者一同の共感を呼び、大いに賞讃されていた。
続いて、目英三氏のお骨折りで発

行されている「緑丘」の購読者が名古屋地区は特に少ないので同窓各位に勧誘してほしいとのことであったが、同窓会の通知を出しても、返事のこない人々を、どうするか悩んで、些か思案投げ首のかっこうであった。

更に、緑丘戦没者慰霊碑建立の経過報告と、追加募金お願いに就ての詳細は報告がなされた。

加藤副支部長(昭15)の発声で、苦悩する遙かな母校の隆盛と、同窓生一同の健闘を祈念して乾杯が行なわれ、懇親会に入った。

新会員古田君を囲んでの「よい小樽の街」のあれこれの話、十年、二十年、三十年の歳月が一挙に縮まり、同じ学生服にかえつての、懐旧談、益が進むにつれ、会も一段と盛り上り、支部長の「ヤリサビ」高橋大先輩の長唄「岸の柳」諸先輩の独吟、奥儀の披露と、会はいっ果るともなく続けられたが、最後に、かつての応援団長、高田氏、鳥栖氏の音頭で「進軍歌」支部長の発声で「校歌」が斉唱され、尽きぬ名残りを惜しみつつ散会した。

- 当日の出席者は、高橋一男 (昭4)
- 浜井清一 (昭12) 高田正明 (昭9)
- 岡村三郎 (昭10) 齊藤利一 (昭11)
- 河信一郎 (昭11) 森本秀男 (昭12)
- 小川愛策 (昭13) 加藤 敏 (昭15)
- 広瀬哲郎 (昭16) 石川一郎 (昭19)
- 水越金二 (昭19) 中田秀郎 (昭22)
- 鳥栖六郎 (昭23) 谷川勝典 (昭26)
- 古田純一 (昭44) (水越記)



卒業証書№1に見入る会員一同



これぞ卒業証書第1号

昭和四十四年六月三日 緑丘会大阪支部
 次で新入会員九名の内、出席した六名が、和やかな雰囲気の中で自己紹介の中に、本年三月卒業直前までの母校の模様を次々と報告あり、これによると伝統ある商大は大多数の在校生の熱意をこめて、学長の御努力に対し万全の協力を致すことを誓います。



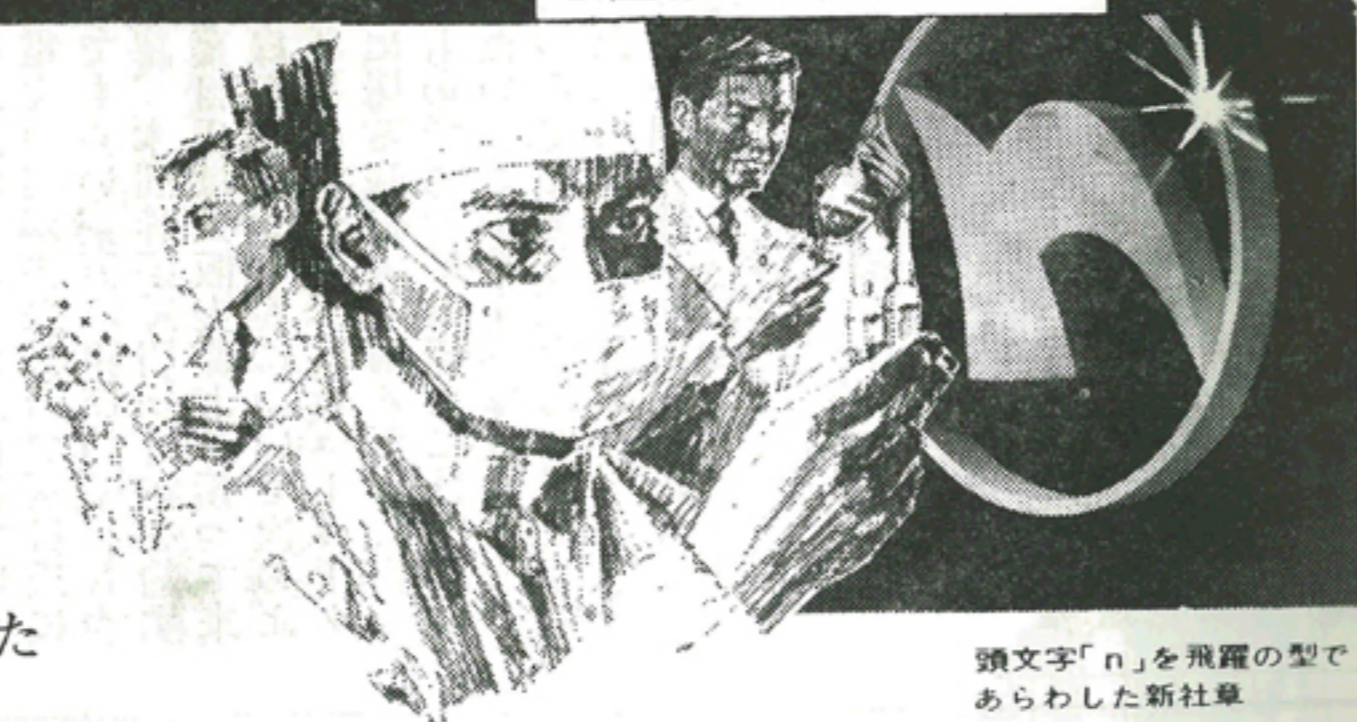
ニューヨークへ贈るペナントを石田支部長から若山氏へ

生によって守られ、間もなく平和が取り戻されるであろうとの実感が、出席者の胸中に醸成された。
 なおパーティの席上、小樽商大第一回卒業生岡林昂雄氏の「平民」と肩書のついた珍しい第一号卒業証書が披露され、藁目氏の歴史的解説に万場爆笑。
 また母校旧校舎が図案として描かれた特製のペナント・フラッグ十二枚が、近く渡米する若山氏を通じて、ニューヨーク在住の緑丘会員に渡される事となった。本会の席上、この主旨を石田支部長より発表があり、続いて万場の拍手の中に、若山氏に手交されるという心温まる行事も十分織込まれた総会であった。

●医薬の発展につくす

新薬を求めて50年

それは試練の歴史でした
 その間につちかわれた
 新薬探求の精神は
 かずかずのすぐれた治療薬を開発
 現代病に挑戦する専門メーカーの
 地位をきずきあげたのです
 そしてこれから
 明日の病気に、
 成果を問います
 健康メーカー《日本新薬》の
 未来にご期待ください



頭文字「N」を飛躍の型であらわした新社章

現代病に挑戦する



日本新薬KK 創立50周年

日本新薬株式会社 本社/ (601) 京都市南区西大路通八条

母校に激励電報を決議
=大阪支部総会=



学長のメッセージを読む藁目副支長

本年度大阪支部総会は六月三日夕、市内今橋クラブで開催された。今年の特色は、①折柄の大学紛争により、同窓の先輩が等しく、母校の様子を案じていた最中の総会であること②新入会員が例年より多く、これ等の数人による学園の生々しい実情を直接聴きたい、という共通の意向があったことなどであった。
 これ等を反映して当日の出席者は約七〇名にのぼり、極めて異色のある盛会が予想された。
 定刻に若山幹事長、石田支部長の挨拶



決議文原稿を読む 石田支部長

の後、恒例の支部役員改選が行われたが、動議により石田支部長、樋山、藁目両副支部長、若山幹事長など現陣容全員の再選が決定された。母校から出席予定の実方学長が、学園紛争により欠席と報せられるや会場には緊張の空気が流れ、代理として藁目副支部長により、学長の長文のメッセージが読み上げられた。全く突如の学園封鎖に対する、大学側の懸命の努力の有様が克明に感得され、全員傾聴。
 総会行事が約四〇分間で終了し、懇親パーティに移ってからも、話題は専ら学園紛争に集中。その間を縫って、藁目副支部長が電話連絡により、刻々と「現時点の母校」の有様を生々しく報導するといった。誠にタイムリーな内容となり、やがて大久保氏(大一二)を中心とする先輩グループからの決議により、母校に対し、支部全員の結集した気持を



激励文の形で表現し、学長あてに急送しようという動議が提出された。指名により山内副幹事長が直ちに文案を作成。これを石田支部長が力強く読み上げ、万雷の拍手の中に激励の言葉として決議。なお全文を電報によって学長に急報した。
 決議文
 我々緑丘会員にとって小樽商大は心の故郷であり、その繁栄は等しくこい願うところであります。
 しかしるに突如としてわが学園もまた、紛争の嵐に巻き込まれ、封鎖されるに至ったことは憂慮に堪えませぬ。
 日本は小樽商大の伝統を必要としているのであります。
 学園の平和と永遠の発展を念願する我々は、一日も早く正常に戻る事を願い、ここに大阪支部全員の益々

耐火煉瓦・不定型耐火物・クレー(製紙用)

各種工業窯炉の設計施工



大阪寒業耐火煉瓦株式会社

専務取締役 松村義公 (大正15年)

本社 大阪市北区梅ヶ枝町164(宇治電ビル) 電話(364)3524代
 東京支社 東京都千代田区大手町2の8(日本ビル) 電話(270)8961代
 九州出張所 北九州市八幡区山王町1丁目 電話八幡(67)3070
 工場 岡山県 日生工場・三石工場・吉永工場・岡山クレー工場

神戸支部総会

六月六日
場所 東京

六月六日、緑丘会関西三支部のシ
ンガリを承って神戸支部総会が開催
された。
実方学長来訪を期待し、日時の打
合せまでしたが、学園紛争は遂に実
例年にならずに神戸支部総会
となった。また権名元教授も名古屋
の名城大学講義の日と重なり、御出
席を得なかったのは誠に残念であっ
た。

会は六時から本間広松幹事長の司
会で、例年通り東京で行なわれた。



学園紛争に関する情報は学長の御
好意で次々送られて来ており、本間
幹事長から読み上げられた。それに
大阪副支部長の藁目英三氏の参加が
あったため、小樽、札幌から入って
来る新しい情報と学園の封鎖建物
などの説明を聞き、容易ならざる事
態に立ち上がった事が判明した。
先ず乾杯に入って、次々出る支那
料理に舌鼓を打ちながら欲談に入
る。



決、本間幹事長が電文を練る事とな
る。
各テーブルから順次自己紹介に入
った。本間幹事長は珍容を紹介する
と一青年を立たせ、緑丘在学中であ
るがドイツへ留学する神戸出身の緑
丘人斎藤悟一郎君であると説明すれ
ば小樽は学園紛争中であるため、留
年する事として帰郷、近く父の仕事
を将来協力するためドイツへ見習工
員として研修のため近く出発すると
自己紹介があった。

集りこそ少いが自己紹介もまた案
しいふんいきの中に進行していく。
電文原稿が出来たので藁目氏に読
んでもらい、万場再び拍手をもって
承認、本間幹事長明打電を約す。
藁目氏は大阪支部より預って来た
「緑丘ペン」について次のよう
に「このペナントはニューヨーク支
部に居る緑丘人へ贈るために作られ
たものであって希望者には実費で頒
ちたい」と紹介すれば直ちに五、六
人の申出であり記念にと買上げてく
れた。

先生の御決意に敬意を表しま
す。一日も早く学生の愛校心を
結集し、全国にさががけ小樽独
特の解決法をもつてのぞみ、研
究、修学に励げまれん事を祈
る。
神戸支部

(電文)

飲む杯はいつもグッツ

★サッポロビヤホール
ニュー・ミュンヘン

本 店 大阪・梅田 TEL 361-6545
北 大 使 館 梅田・安田信託ビル9F TEL 312-9151
南 大 使 館 南・法善寺前本通り TEL 211-7248
神戸大使館 三ノ宮・生田筋 TEL 39-3556

緑丘会・神奈川支部懇親会

六月二十七日・フラワー・ルーム(横浜駅ビル六階)

六月二十七日、緑丘会・神奈川支
部の懇親会が開催された。
最長老は山口保栄さん(大九)、
昭和七年から返子に住んでいて大変
御元氣、この会の存在を初めて知っ
たと大喜びであった。

出席者の顔振れを見ると昭和十五
年卒から昭和四〇年卒までの間に断
層があるので、若い人にも大いに出
席して貰いたいという話が出る。こ
れに対し最年少者の塗師君(昭四〇
)が会社でもっともきつかわれる
年代であるから出席者が少いのでな
いだろうか、できれば会社の幹部に
なっておられる先輩から大いに若い
緑丘人に呼びかけてほしいという。
緑丘編集部から送られた「緑丘」
をこの席上で配布された。その時緑
丘の存在を知らない人がいたので驚
いた。

サッポロビールをひかえているの
で益々楽しい。昭和七年のグループ
が一番出席率が高い。こんな出席率
のよい年次には次からグループ賞を
出してやり度いものだ。幹事さん達
の名案を期待する。

素晴らしいテノールの持主、新田
次郎氏の音頭で声高らかに進歌「
栄光まよや……」を合唱して散
会。午後八時。

(出席者)
山口 保栄(大九) 東京税理士(協組)

- 吉川 博(大九) 富源産業
- 神部健之助(大九) 公認会計士
- 日南田美文(大九) 堀越商会
- 進藤 真一(昭五) シェル興産
- 小杉 速(昭五) 尾張屋本店
- 加藤 英二(昭六) 京浜倉庫
- 望月 鷹雄(昭七) 新都市開発セ
- 毛利 正夫(〃) 新菱重機
- 堀口 松雄(〃) 新港倉庫
- 常岡 亮(〃) 日本電気硝子
- 奥村 慎吾(〃) 中山機械
- 湊 広雄(〃) 大興海運
- 新田 次郎(〃) サッポロビー
- 山下 一郎(昭八) 日本海汽船
- 長田 正明(昭九) 遠藤ラシャ店
- 斎藤 雄治(昭一〇) 安田倉庫
- 新谷 健夫(昭一二) トランス・メ
- 高野憲一郎(昭一三) 丸嘉機械
- 篠原 守(〃) 野村証券投資
- 野村鉄太郎(昭一四) 丸善設備工事
- 北條 恒一(〃) 公認会計士
- 高橋真一郎(〃) 三菱重工
- 塗師 哲夫(昭四〇) 〃

五月例会



緑丘
大阪十日会

今月は若山幹事長から、最近非常
に話題になっているドラッカー教授
の著書「断絶の時代」に関連して、
「断絶的発想法に就いて」解説を願
った。同氏は自社の経営に一大転機
をはかるべく、昨年アメリカ視察以
来内部体制の強化をはかって来た。
経営革新についてドラッカー教授
の「断絶の時代」も一つの参考には
なったが、「断絶」という語句は
Discontinuity の訳語で、むしろ
「不連続」または「非連続」と訳す
べきである。この不連続的発想法は
ドラッカー教授が十五年前に書かれ
た「The Practice of manage-
ment」において既に提唱されてい
る。「小企業、中企業、大企業、巨
大企業いずれの規模の企業にも共通
するもの」とも大きな問題は四段
階が、発展段階的に連続してはいない
点にある。企業は中企業から次第に
成長して、いつのまにか大企業にい
るといものではない。各段階はそ
れぞれ別個のものである。……企
業規模の変化は、量の問題であると
同時に質の問題である——と同書
に述べられている。

ドラッカー教授によって提唱され

ているこの断絶的発
想は、マネジメント
の面で大いに参考に
せねばならぬ一大教
訓であると考えられる。
卵の時代、毛虫
の時代、蛹の時代そ
して成虫の時代にそ
れぞれ最も適した独
特の生き方がある。——若山氏は熱
をこめて力説した。同氏の会社マル
カキカイは今や中小企業より中堅企
業へ脱皮成長せんとしている。その

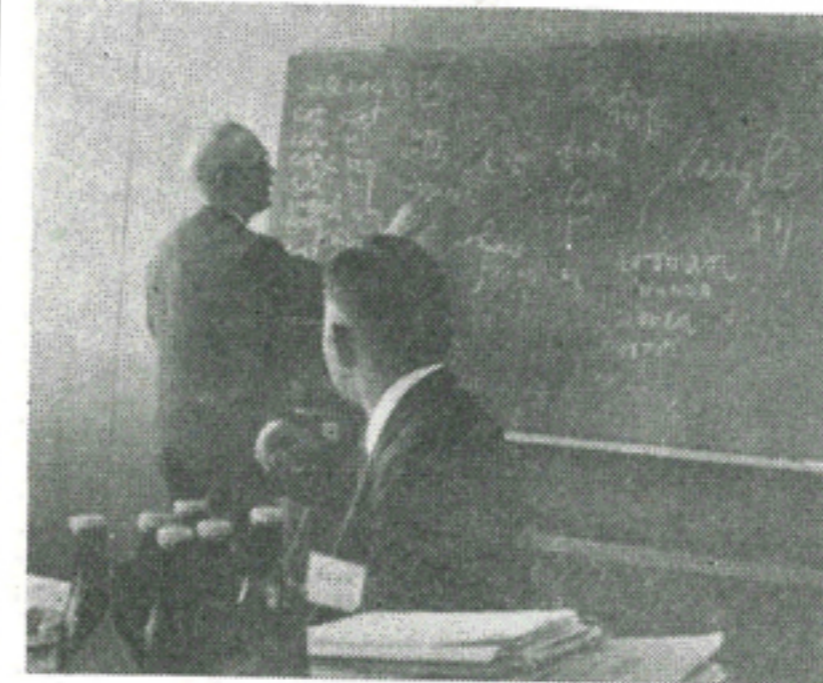


為中小企業時代と全く違った中堅企業としてのマネジメントを断絶的に開発し実践しなければならぬ。そのためには先づ同社の幹部以下が自身の断絶的革新を遂げねばならぬという。若山氏は紅潮した顔をもってスピーチを結んだ。熱心に聴入っていた出席者一同より一斉に拍手が起った。極めて有意義な十日会であった。

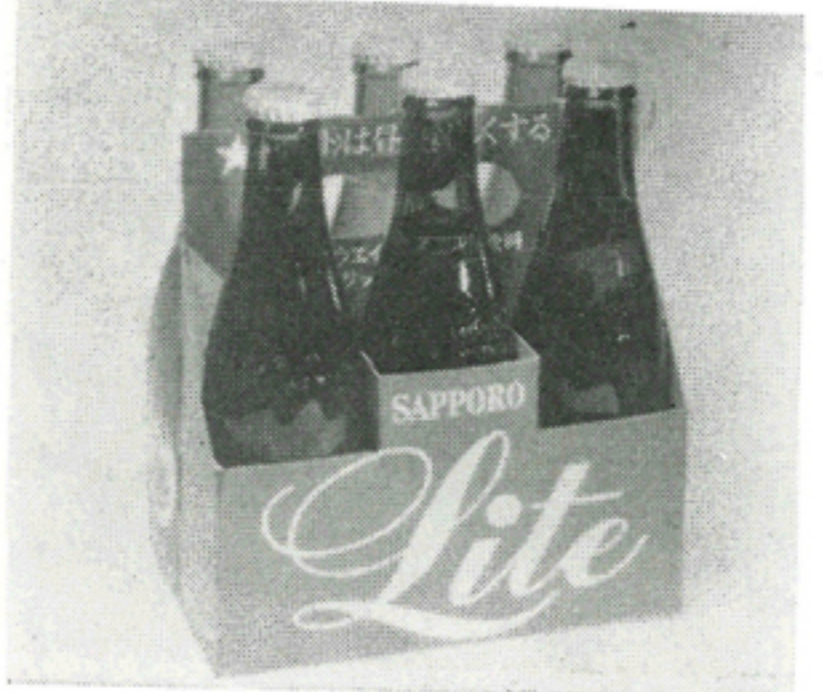
(出席者)
四谷(大一一)大竹(大一二)大塚、天野(大一一五)石田(昭二)樋山(昭三)渡多喜(昭四)田代(昭八)藤井(昭九)藁目(昭一一)若山(昭一三)松本(昭一五)角(昭三四)

七月例会

小林先生の名講義とサッポロライトのお土産
例月通りサッポロビール俵の会議室で開催された。



小林先生は小樽時代のように



本日のお土産サッポロライト

まず七月十六日から近畿・東海地区で新発売になるサッポロ・ライト(写真)について緑丘人への紹介があり、試飲会がはじまった。
サッポロライトはアルコール度も七、七で酒類販売店以外、雑貨屋でもスーパーでも煙草屋でも買える。しかもお昼のジュース代りにどうぞとの事であった。
昭和九年卒三十五周年記念大会の模様と母校紛争の外面から見た感想を藤井氏(昭九)から、引き続き母校紛争経過について藁目副支部長から夫々報告があり、アメリカから帰朝の若山幹事長はアメリカ緑丘会の報告を簡単に終えて本日のゲスト小林家三先生に英語のはなし：漫談をお願いした。
小林先生はここにお集りの方々は学生時代によく私の講義をまじめに受けた方で、何れも英語がよく出来る方ばかりです。若い緑丘人がもって集ってほしかったと、一同苦笑。現在京都産業大学教授であるが、

方針として学長や部長という仕事は一切ご免ということで通して来たがこの大学でとうとう発音学部長に指名されたがまああと数ヶ月でその部長職も終えられるそうである。
先生の発音学はパーマー氏の発音学に魅せられていたが留学の時伴二代校長から留学したならばその所であれば学ばれないものを学んで来ようという事で Jones 先生から発音学の教えを受けたとの事である。
ghoti=fish と読む事
発音記号 a の発音が夫々異なる事を village cat car care all wash any ago cake cocoa (コーン) など例を挙げて面白くお話し下された。
ロンドンをランタンというと同業者はいい顔をしなないと先生はいう。テレビコマーシャルについてもパツファリン・タケヤミン・ルフトハンのビジネス、V・ロートの事にもおよぶ、竹村健一著「英会話の革命」に I love you I rub you の引例があり(小林先生の I rub の何時も引かれる例)その紹介もされた。
発音は各単語一つ宛憶えねばならぬ。日本でも東北と九州と異なるように英語の発音も異りキングス英語からはじまって現在では B.P.O 英語(アナウンス英語)が正しい発音であるとされている。
最後に英詩、散文の読み方、抑揚についても引例されて本日の名講義は終わった。三十年、四十年の昔に帰ったのは筆者ばかりではなかったろう。本日のお土産はライト半打入り

をいただいで帰った。

株式会社 **三陽電機製作所**
総発売元 **三陽商事株式会社**

本社・工場
札幌事務所
仙台事務所
東京事務所
金沢事務所
大阪事務所
広島事務所
九州事務所

岐阜市上土居字狭間 81 31-6311代
札幌市美園八条 2 丁目 82-0838
仙台市連坊小路 3 丁目 56-7418
東京都豊島区東池袋 1 丁目 35 番 971-0108代
金沢市東山 3 丁目 3 番 32 号 52-9474
大阪市阿倍野区三好町 2 丁目 8 番 621-2155代
広島市本川町 2 の 6 番 10 号 32-4645
福岡市古門戸町 10 番 18 号 29-3426

営業品目

- ・ネオトランス・点火トランス・各種小型変圧器
- ・車載用蛍光灯・デフロスタ・各種自動車用品
- ・各種 SCR インバータ・各種半導体応用機器

S-light

昭和16年卒	常務取締役	中川和行
昭和16年卒	取締役	高田勇
昭和33年卒	九州事務所長	矢島実
昭和34年卒	生産部長	原明久
昭和36年卒	大阪事務所長	千田遼一

初代校長 渡辺龍聖先生夫人逝く

小樽高等商業学校初代校長、渡辺龍聖先生夫人、キヨ刀自は、昭和四十四年六月十九日、老衰のため逝去された。夫人は、かつて東都財閥の一、日本美術の庇護者の一人、今村銀行の主、故今村繁三氏縁かりの才媛、若くして日本教育界の傑物、渡辺龍聖氏に嫁し、夫君が東京高等師範学校、東京音楽学校に在任中から内助の功高く、また中華民国の僑雄袁世凱の教育顧問として北京に赴任中も、よくその業を輔けて、つとに令名があった。

明治四十四年渡辺龍聖先生が、「誰もひきうけ手のない学校があったら引き受けよう」との、内田良平文相との約によって、文字どおり草深い北辺、雪に埋った小樽高商に初代校長として赴任せられると、共に来って緑町旧第四寮の先きの官舎に起居せられ、緑丘学園百年の基礎を、夫君故先生をたすけてつくられた。教官職員はみな内地より赴任のひと、学生は、年令もまちまち、出身もいろいろ、それを統べられる校長の辛労もさることながら、教官職員の家族に淋しい思いをさせまい、学生にホーム・シックをつのらせまいと、夫人は、心をつかわれた。

朝は、四寮近くにあった分舎に学生生活を舞い、夜は、自宅にカルタ会やら、トランプ遊び、

まず七月十六日から近畿・東海地区で新発売になるサッポロ・ライト(写真)について緑丘人への紹介があり、試飲会がはじまった。
サッポロライトはアルコール度も七、七で酒類販売店以外、雑貨屋でもスーパーでも煙草屋でも買える。しかもお昼のジュース代りにどうぞとの事であった。
昭和九年卒三十五周年記念大会の模様と母校紛争の外面から見た感想を藤井氏(昭九)から、引き続き母校紛争経過について藁目副支部長から夫々報告があり、アメリカから帰朝の若山幹事長はアメリカ緑丘会の報告を簡単に終えて本日のゲスト小林家三先生に英語のはなし：漫談をお願いした。
小林先生はここにお集りの方々は学生時代によく私の講義をまじめに受けた方で、何れも英語がよく出来る方ばかりです。若い緑丘人がもって集ってほしかったと、一同苦笑。現在京都産業大学教授であるが、

教員夫人たちを招いて楽しませたい。自分が東京へ旅行しては、教官たちやその夫人に悪いと、在住十年間、いぢども東京へ出られなかつたと伝えられる。渡辺、伴、苦米地と、緑丘当初からの方々の在まきぬ今、創成期の緑丘外史を、この老刀自を中心に、苦米地夫人も交えて、一期二期の大先輩に語りついておいてもらいたいとの中心人物を失ったことは、いかにも惜しい。

享年八十九才、葬儀は六月二十一日、東京世田谷区松原一―二二―一―四、次男渡辺律二氏(日本大学経済学部教授)宅で行なわれた。祭壇には他の献花にまじって小樽商科大学よりの大花輪、緑丘会よりの生花一対が飾られた。日の教授はじめ、緑丘会理事長佐々木周一氏は折から札幌で緑丘会総会が開かれ旅行中なので、代って東京支部長上村甚四郎が弔問参列せられ、ほかに第一期生で故先生夫妻にゆかり深かった柳瀬伊蔵、宮崎省三、下吹越栄吉、重川佐一、嶺川富市氏、また大谷敏治氏ら、緑丘会員も多数参列した。遺族代表渡辺龍策氏(長男、名古屋中京大学教授)は、挨拶のあと遺骨は龍聖先生の墓(名古屋)に埋められる旨語られた。

富山県支部長 飯野直義氏逝去

緑丘会富山県支部長飯野直義氏(大一一)は直腸癌のため今春二月以来療養中の処、病重まり四月二十二日午前二時一五分逝去された。享年六九才。葬儀は二十四日高岡市称念寺においてテサカ研磨製砥会社社葬を以て営まれた。八面玲瓏の故人の遺徳をしのび各界の名士堂に溢れ稀有の盛儀であった。地方在住の緑丘会員も揃って会葬し神沢幹事が左の弔辞を捧げた。

小樽商科大学緑丘会富山県支部長飯野直義殿にはかねて二整の優す所となり、金沢大病院に入院療養中の処、天寿を籍さず行く春の散る花と共に大地に帰されたるは誠に傷心痛恨の極みであります。貴方は明治三十三年高岡市に生を受け、幼少より俊敏、高岡商業学校を経て小樽高等商業学校に学び、大正十年卒業す等商業学校に学び、大正十年卒業するや、学友の多くは都会の商社へ走りたるに拘らず独り故郷に帰り家業の呉服商に従事し若きインテリとして地方青年層に新風を吹き込み、爾年来年輪と共に風格自ら加わり、晩年はテサカ研磨製砥株式会社社長、山崎木材の支柱として高陵実業界に重きをなし、かたわら古城ライオンズクラブ会長、北隆文化倶楽部理事として社交界一方のリーダーでもありました。

穏健なる資性、大らかなる包擁力は世人の高く評価する所、しかも無類の世話好きにて先に元小樽高商教

飯野直義君を悼む

緑丘会 富山県支部長 飯野直義君(大正十年卒) 四月二十二日胃ガンで逝去さる。君は高岡市テサカ研磨製砥KK社長として現職のまま逝去されたが、北陸人には珍らしい進取積極的な実業家であった。常に自分の殻を自ら打ち破って進んだ人であり、最大の功績は自社製の砥石を八幡製鉄へ納入する事に成功したことである。これは実に特筆大書すべき事である。事程左様に新規に或る製品を八幡製鉄に納品する事は至難な業なのである。それというのも夙に君が富士製鉄社長の要請に答え、当時としては超過大な西独製の製砥機を社内多数重役の反対を押し切って敢然輸入設置したればこそ出来たのであった。常に十歩先を見る卓見の士であった。

私とは同じ町内生れの竹馬の友であり、高岡商業も同期卒業であるが

一年先輩の十二町恒次君の勧めで小樽高商に進学した。私は前年父も亡くなっているのに三井物産に就職した。すると元米筆不精の君が珍らしく手紙をよこし「これからは商業出でなくては駄目、父が亡くなったら尚更の事、何処かで学費を工面して是非高商に進学せよ。そして高商に入るなら小樽に入れ、大西という偉い学者が居るから」と勧めてくれた。

それで私も意を決し、学費を叔父から仰いで翌年小樽に進学した。小樽では自分の不注意から重い肺炎にかかり、全く九死に一生を得た。斯様に私は小樽に入学したために実に大きな犠牲を払ったのではあるが、それでも百世稀に見る天才教授大西猪之介、教育者の手本ともいえるべき伴房次郎先生に親しく教を受け得たことを終生の喜悅事と考えて居る。その意味に於て飯野君は只単に親友であつた許りでなく私の終生の恩人でもあつたわけである。

筆不精の外に飯野君の一つの欠点は生米の大酒である。「君の名は間違っている。飯の尚よしではなく、飲むの尚よしだ」といつて暗に節酒を勧めた。本人もそれを知つていたようであるが、何といつても自製製品の販売に率先垂範しなければならぬ社長としてはどうしても酒益から遠ざかる事は出来なかつた様である。

それに親譲りというか、無類の世話好きでライオンズクラブなどにもよく尽くしていたようである。何も知らない私が「ライオンズクラブなんて、どうせゴルフ同様金持の道楽だらう」とうっかりいい出した処カン

カンに怒り出し、真剣に同クラブの信条や性格を説き出したので、対応に困つた事がある。そんな一面があつた。だから昨年の、我々高岡商業卒業五十周年記念同窓会は自分から発案し、稀に見る盛大な行事を敢行し、一同を感激させた。今にして思えばあれが彼の我々同期生に対する最後のサービスだった。本当に惜しい緑丘人を失つたものである。

墓碑銘のある墓を建てては

菅野 祐治

(大一一)

「自分より優れた者を自分の廻りに集めるすべてを心得し者此処に眠る」
これはアンドルー・カーネギーが特に希望して自分の墓に彫り込ませた墓碑銘である。それを真似て自分が考案した独自の墓碑銘を彫り込んだ自分の墓を我々も造つてはどうだろう。「俱一会処」で誰も彼も皆一緒という日本従来やり方に抵抗を感じる人が居ないのだろうか。緑丘人の中にも金持で相当一言居士の方も居られる。亡くなくても尚一言居士の面目を固持するというのも一つの面白い行き方ではないだろうか。

大いなるいさお残して我が友は春にそむきて 旅立ちにけり (菅野祐治記)

「穴」原稿募集

四〇〇字原稿用紙一枚以内
でお願いします(成る可く十六行位) 毎月二〇日締切

緑丘通信

☆緑丘戦死者記念碑除幕式々典は八月十五日一時より除幕式を母校々庭で、三時より戦死者を偲ぶ会を開催することとなった。整理の都合上会費五〇〇円を受付けで求められた。碑文は松尾正路先生の文を佐々木理事長が揮毫した。この状況は北海道放送の協力を得て録音される。母校グリークラブも参加。

☆北海道調査会(東京都中央区日本橋通一丁目六番地万才ビル七階佐々木事務所内)は昭和三四年八月、第一回定例研究会を開催して去る六月をもって第七〇回を迎えた。今年に入つて次の講演が行なわれた。

- 第68回 44・3 「札幌冬季オリンピックと日本選手の活躍について」 札幌冬季オリンピック組織委員会東京事務所所長 両角政人氏
 - 第69回 44・4 「原子力船のはなし」 原子力船開発事業団理事長 佐々木周一氏
 - 第70回 44・6 「都市雑感」 三菱地所社長 中田乙一氏
- この会は毎月十日(午前八時三〇分)より開催。(土・日は中止)

△原稿募集▽

同期のニュースはこの緑丘で交流しましょう。一行十六字で原稿を書いて下さい。

△四十四年度「緑丘」へ

広告のお願い▽

さて今年度は特集号「伴房次郎先生の書簡と追憶」を発刊いたしますので何卒この「緑丘」へ広告のご協力をおねがい申し上げます。

広告掲載料

全頁(二三cm×一六、五cm)

一回 一一、〇〇〇円

二回 二一、五〇〇円

一回 六、〇〇〇円

一回 五、五〇〇円

一回 三、〇〇〇円

「緑丘」は年六回の発行でございまして年間契約をお願い申し上げます。年間契約をいただきますと広告料は特別料金でございます。

某月某日

緑丘人の御家族様へ

本間 歌子



○月〇日
墓目英三様御許に
前略、先日は失礼申上げました。奥様始め御息様方その後も御変わりなく御健やかに御過して御座いますようか御伺ひ申上げます。

何時も主人が何かと御世話様になって居ること存じます。主人病後お酒は飲まない様で御座いますし、発病前の数年米に無い食欲が進んで居りまして、御蔭で体の方は順調に回復して居る模様です。一応安心出来る様になって参りました。在京の主人の三姉妹が主人の体の回復について私の報告を信じられませんでした。あれ程の重病人が後遺症が必ずある筈と疑っています。三姉妹来神御見舞の御札を兼ねて、主人を連れ

上京して参りました。御蔭様で私の報告通り間違ひなく健康を取戻したことを見て頂きましたので、やれやれと存じ居る様な次第で御座います。

今度の主人の発病、重態、回復等の経過に付きましては貴方様、万事御承知の通りで御座います。主人の此度の奇跡にも等しい命拾ひは貴方様を始め皆様方の親身の御心配、御処置によりましてこと御座います。ほんとうに何と御礼を申してよいやら言葉も御座いません。

この事は私共一家の幸運のみに止め置くことではなく、主人が高商を通じて御交誼、御世話になって居ります緑丘の読者の皆様方の御親族様方に、過ぎし日の主人の病状経過を御知らせして、何かの報恩にさして頂きますれば何にも増しました幸と存じ居ります。

立派な緑丘の原稿にもなりますれば拙い乍らも筆をとらせて頂き度く存じます。何百字原稿幾枚位が限度で御座います。又沢山原稿が御座いますと反って御迷惑になりますよう。御座いますれば、又の機会にさして頂き度く、御都合御慮なく御一報下さいませ。奥様神戸に御買物にお越し下さいます時は御立寄り下さいますようよろしく御伝え下さいませ。かしこ

JIS規格表示工場

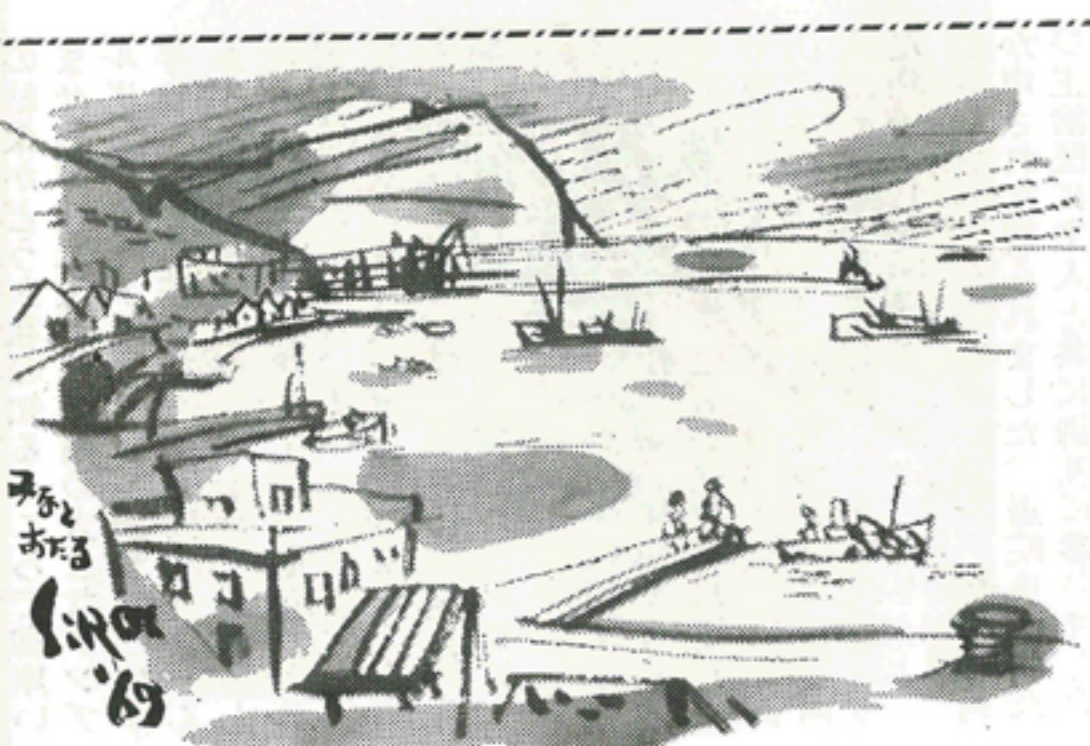


中部段ボール株式会社

取締役社長 野村 藤吉
取締役専務 齋藤 利一 (昭十一年)

春日井市御幸町二丁目九ノ一
電話 春日井 (056) 局代表三一六六番

表紙絵



墓目さんから「緑丘」の表紙絵を描かないかとお話があった時、小樽出身でもない小生が——と思いましたが、旧制札幌一中↓小樽高商というコースは、北大に次いで一中から大量入学するところでした。玉井武・錦戸善一郎両先輩が一中で教鞭を執られ、大先輩・先輩・同輩・後輩と実に多くの緑丘人の名を数えることが出来、何人かの方々は画業上特別の御後援をいたしております。そんなわけで敢えて親戚のようなつもりでお引受けさせていただきます。ただ、小樽に住んだことがないのでホームグラウンドとは申せませんが、子供頃から良く知っており、札幌・小樽・余市・積丹を含めて、乏しい画業中の有力な画材源になっております。暫く御高鑑の程お願申上げます。(八織四郎記)

○月○日
 私は小樽高商昭和八年卒業本間広松の家内で御座います。昨年暮、主人が脳栓塞で倒れましたが奇跡的にも短日月で何の後遺症もなく回復いたしました。発病後六ヶ月を経過致しました現在発病前より健康体の様子なので、その病状経過を拙文にて御知らせ致します。何かの御役に立てば幸いと存じます。

主人の生年月日大正元年九月十一日。五十六才九月、体重二十一貫(七八七五)発病前。

結婚生活二十六年、其の間軍隊生活満四ヶ年を除き一日としてお酒を呑まない日は御座いません。主食は僅少、副食も少量、好物は漬物、果実類も進んではずめず、好されずと義理に口にする方です。若い時代は肉類、魚肉の腹身の脂肪分の方が好きでした。野菜は食べないわけではありませんが好きな方ではありません。

大酒少食と申す型で御座います。運動は好きな方ですが肥満を征服する程の運動は致しません。四十代より五十代過ぎの現在迄に太り方が続きましたが病氣らしい病氣は一度も致しませんでした。血圧は百六十から七十位あった様ですが私には知らせませんし健康診断を受けるのは何か病気を発見せられ、大好物のお酒を禁せられるのを恐れてか、余り私には申しませんでした。

今より考えますと、発病前半位より歩くのがゆっくりになり、少しふらつき様にも見受けられる様なことがあった様な気が致します。睡眠は充分取って居りました。魚の仕事で朝早起は三十年来の習慣で御座います夜の御付合はよい方で相当以上に呑むことも度々で御座いました。煙草は一日「いこい」二十本、少い方でもありませんが多い方でも御座いません。心配事は家庭的に又仕事の方でも大して之と申すことは無い様で御座いました。どちらかと申しますと、のんき

の方で御座います。

昨年十二月二十二日朝出勤時途中で何かにつまづきころんださうです。二十六日朝自宅より約五十米位の道路でころび近所の方の知らせで自宅に担ぎ寝せまして近所の医師に診察して頂きました結果血圧二〇〇と一七〇(本人はその事を知らないと申します)業界の方、小樽の先輩の御見舞進言を賜り二十八日専門医師の診断手当てを受けました。入院する方がよいことは当然で御座いましたが年末の為めか思ふ様に参りませぬ医師の指図通り処置致しました。勿論主人は意識不明、遠方の親類、神戸の皆様御見舞を頂きつつ正月を迎えました。どうやら神戸医科大学附属病院に入院出来ましたのが正月七日で御座います。其の間医師は経過が如何様になって居るかはハッキリ申しません。病院専門内科部長の診察の結果主治医が決められ、その夜はイビキがものすごく、八日は大声を出しあばれ出しまして、近室の患者様方にも御迷惑をお掛けしました次第、安静を必須と致しますこと故身体をしばらく付け、眠り葉の注射を致しました結果が、おとなしくなりました。医師は一週間位経過しなれば何とも申されませんとのこと、その間の事態は読者の皆様の御想像に御委せ申上げます。

医師の手当は充分過ぎる位手を尽されたと信じて居ります。ここで私は心の冷静を失って居りました。と申しますことは、脳溢血の時「チトマック」(日本新薬発売・同社長森下弘・大・一四)と云ふ薬を必ず思い出すようにと薬目さんから申し渡され何かに記載して置きなさいと申されて居りました。今から考えますと、その間御見舞を頂いた時も薬目さんは私にその薬を医者に申す様口にまで出て居られて居たこと御座います。後事をが医師に総てを委しました現在、後事を御配慮されたことと存じます。私は薬目さんを見て、はっと、チトマックと申

す薬を思ひ出し、医師に申しました。その結果かどうか私の知るところで御座いませんが静脈注射の点滴の大きなアンブレに黒字でチトマックと英語か独乙語か存じませんが書いてあるではありませんか。その結果かどうか、十日でした主人はウワゴトを言ひ出し、廻りをこわがり出しました。十日、十一日と経過、十六日頃より少し意識を取り戻した様です。その間入院時の六時間毎の注射をはじめ、一日注射二本宛精密検査等の処置に手を尽された様です。

その後の退院迄の経過は余り長くなりませんので省略しますが、順調に回復して無事退院致したのでございます。只申し上げ度いことは主治医以外の医師が時々沢山で主人の病状を見、且つ質問しては研究診断して参りましたこと不思議さうな様子をして居りました。部長は無口で御座いました診察の結果を主治医に何か申されて居られました。退院後部長及び主治医に主人と共に御礼に参りました時に申されまことは「よく助った。医師としてよい勉強になった。主人の御蔭でよい研究をさせて貰った。医師として御礼を申し上げる」とのことです。如何様な意味か存じませんが「チトマック」と云ふ薬を指すのではないかと存じます。その薬は急凍冷蔵輸送された後で聴き及びました。総ては医師の責任で善処されましたことと存じます私には一生「チトマック」と申す薬を忘れることはないかと存じます。

私は皆様にこの薬の名を思ひ出すこととはあつてはいけな事を祈りながらも万が一、私と同じ肉身、友人、知人を持つた時は私の拙いお知らせ「チトマック」を思ひ出して頂ければと存じます。素人の私は責任あることは申されませんが、飽く迄も医師の処置に委せなければならぬことは当然で御座います。その点も御諒承頂きまして御参考にして下さいませ。拙い文にて失礼申しました。御

許し下さいませ。

追記
 主治医は主人を治療した後、その原因は勿論判明致しませんが、唯今神戸医科大学研究室員となり勉強中で御座います。只主治医の御父様から息子(主治医)が立派な勉強をされて頂き且つ研究員になれたこと、私共に町重な御礼の御言葉を頂いたことを御知らせ致します。医学界の為め立派な医師となります様祈りつつペンをとめます。

編集後記

☆学園紛争、大学立法成立、など目下学園は夏休みのさ中で大きなエスカレートは見られないとはいふもののこの「緑丘」がみなさまのお手許に届く頃はどんな情勢になっているのか、編集部はこれらのニュースを適確に把えて、報道し度いと思っております。しかし隔月発行ではどうしても古いものになってしまっています。あくまでも歴史的な記録と思つて読んでいただき度い。

☆この号がこんなに遅れたのは「まんびつ五人集の執筆者」の協力度によるもので、全国のこの「緑丘」発刊を待っていて下さる方には誠に申訳ありません。取り敢えずピンチヒッターを立てて急場をしのぎました。速達でさい促し、電報でお願いしてからやお立ち上る方があつては、額や手に汗している編集部も泣かされます。どうぞご協力をお願いします。

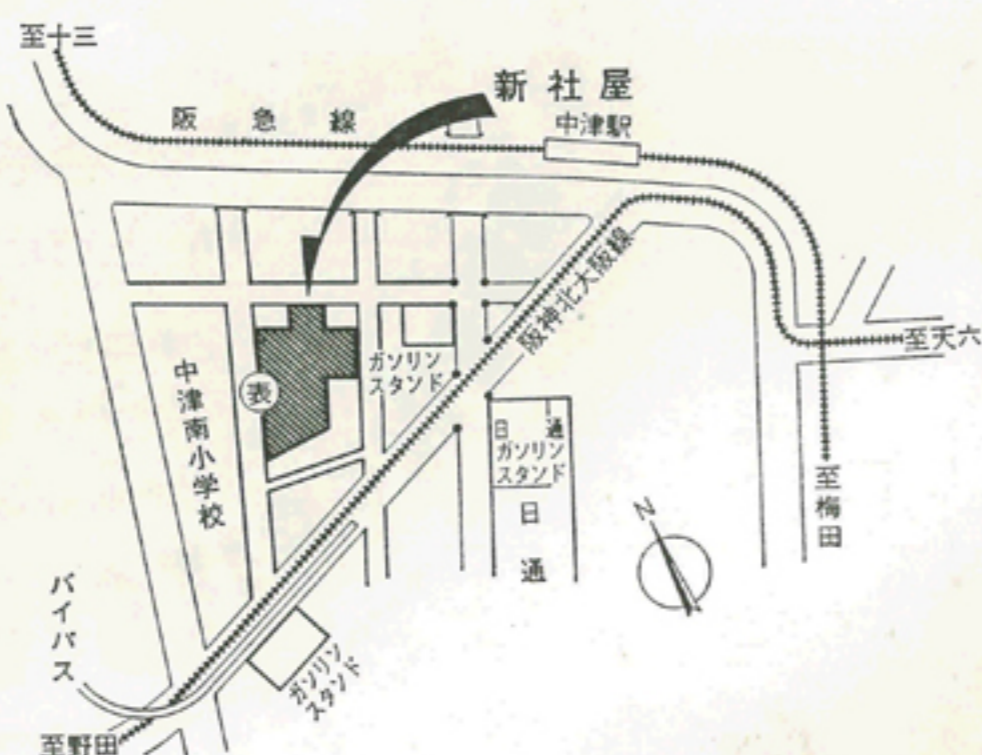
☆「緑丘」四十四年度広告に御協力下さいました方々に厚く御礼申し上げます。

新 社 屋 竣 工



営 業 科 目

- | | | | |
|--------|-------|-------|----------|
| 日立商品 | 日立汎用機 | 日立冷凍機 | 電 気 工 事 |
| 各種電機器具 | 各種送電機 | 各種冷凍機 | 各種工事設計施工 |
| 各種動力機 | 各種ポンプ | 各種冷蔵庫 | 高圧受配電設備 |
| 各種動力機 | 各種風機 | 各種冷凍機 | 低圧配電設備 |
| 各種動力機 | 各種圧縮機 | 各種冷凍機 | 電気配電相談 |
| 各種動力機 | 各種圧縮機 | 各種冷凍機 | 各種工事設計施工 |
| 各種動力機 | 各種圧縮機 | 各種冷凍機 | 高圧受配電設備 |
| 各種動力機 | 各種圧縮機 | 各種冷凍機 | 低圧配電設備 |
| 各種動力機 | 各種圧縮機 | 各種冷凍機 | 電気配電相談 |



日 本 電 気 機 器 株 式 會 社

取締役社長 天 野 雅 司 (大正15年)

- | | | |
|-------|-----------------------------|-------------------------|
| 本 社 | 〒531 大阪市大淀区中津南通 4 丁目 7 ー 5 | TEL 大阪 (452) 1271 (大代表) |
| | | 夜間 (452) 1371 ~ 5 |
| | | 1270 |
| 神戸営業所 | 〒652 神戸市兵庫区三川口町 3 丁目 12 ー 4 | TEL 神戸 (55) 3393 ~ 5 |
| 鹿島出張所 | 〒314 茨城県鹿島郡鹿島町大字宮中 2481 | TEL 鹿島 (2) 1244 |